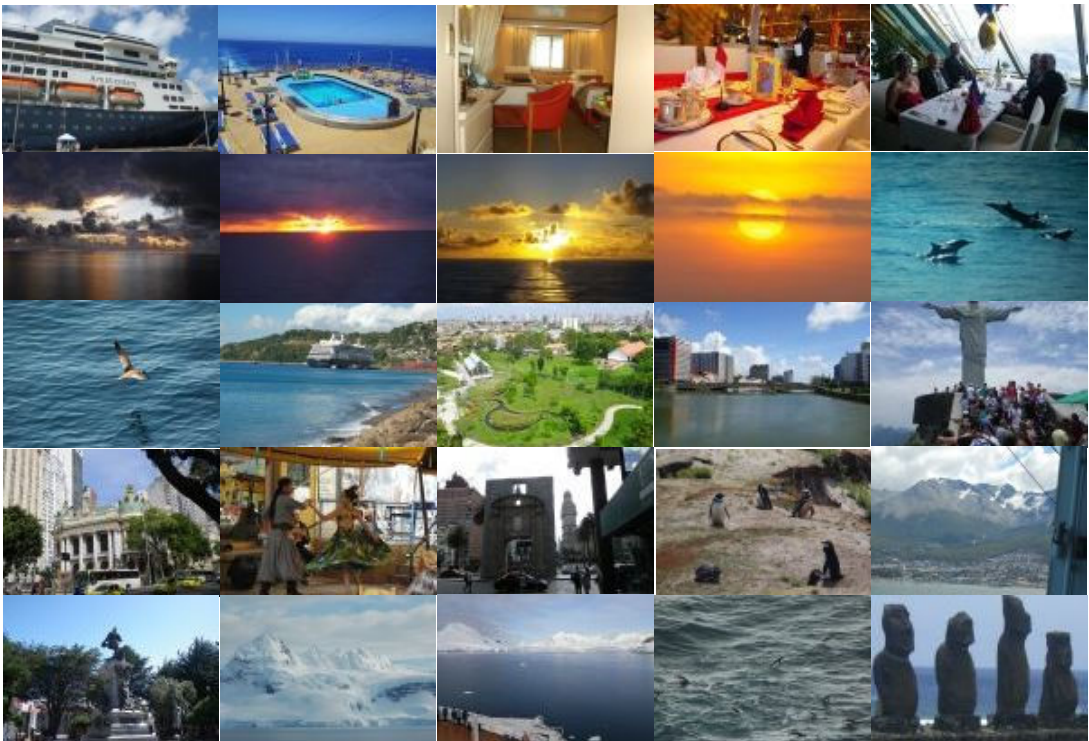


# 大航海 Grand Voyage

米客船 M. S. アムステルダムでの世界一周航海

浦川明彦

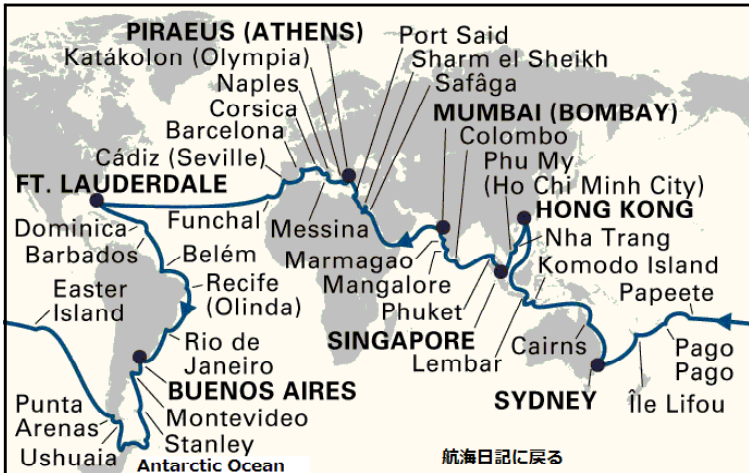


# 大航海 Grand Voyage

米客船 M.S.アムステルダムでの世界一周航海

## 目次

序章	出発	2
第1章	南アメリカから南極まで	4
第2章	南太平洋からオーストラリア	57
第3章	アジア	104
第4章	ヨーロッパから大西洋	168
終章	旅を終わるに当たって	209



## 序章 出発

はじめに

二〇一二年一月から四月にかけて、世界一周の船旅に出かけました。アメリカのフロリダ州を出港し、112日かけて西回りに世界を一周する旅です。船会社は、ホランドアメリカン (Holland America Line) アメリカの船会社で、乗る船は、アムステルダム ms Amsterdam。この船は次のような船です。

船籍オランダ、乗客定員一三八〇名、クルー六一五名

総トン数六万二七三五トン

長さ七八〇フィート、船幅一〇五フィート

最大速度二二・五ノット



※旅の日記は、ウェブサイトでご覧いただけます。特に、写真を見たい方は、次のウェブページから旅の日記へアクセスできますので、併せてお楽しみ下さい。

[http://www.officenet.co.jp/~urakawa/gv/gv\\_index.html](http://www.officenet.co.jp/~urakawa/gv/gv_index.html)

または、キーワード「うらかわさんの」で検索、大航海のページ

1月5日(木) 日本出発、マイアミまで

## ◎いよいよ出発

朝6時40分のバスで新越谷を出る。JL 010は定刻成田を離陸。10時間でシカゴに乗り換えて3時間少しでマイアミ。シカゴとマイアミで時差1時間。  
ターミナル5で降りて一旦荷物の引き取り。そしてアメリカン航空のJL7384

1時半頃着いて、船会社のトランスファアのピックアップで大型バスに一人乗ってフォートローダゲールのホテル、マリオットノースへ3時前に到着。リゾートホテル。4人も寝られる広い部屋。時差ぼけと空腹がづらい。荷物を置いて近く(といっても歩いて5分)のイタリアンレストランでピザ。10\$。

近くを歩いていると、セブンイレブンを発見。ATMで1000\$お金をおろし、食料など買い込み宿に戻る。風呂に入り、荷物整理などしているうち日没。夕日が美しい。夕食は買ってきたサンドイッチとビール、コーヒー。

36時間の長い一日が終わろうとしている。今日本は真っ昼間。眠いのやら眠くないのやら、時差ぼけの変な一日である。かくして1月5日は暮れていく。明日は9時までに部屋の前で荷物を出しておく、船への移動は12時半からの連絡文書がある。もちろん全部英語の世界。さてどうなることやら。

# 第1章 南アメリカから南極まで

1月6日(金) 第1日フォートローダーデール (Fort Lauderdale) 出航

## ◎世界一周航海へ、出港！

時差で眠いような眠くないような夜で、2時過ぎに寝て、ぐっすり。朝起きると7時半で日は昇っていた。今日は乗船の日。9時までに部屋の前に荷物を出しておくように、との連絡があつたので、荷造り。今回は飛行機と違って、23kgの制限がないので、2個にまとめ出した。あとはのんびり昼まで過ごす。

9時過ぎに荷物を取りに来た。10時過ぎにチェックアウトし、『最後の』陸地を散歩する。大学や鉄道の駅に行ってみたが、回りには何の店もない。が、陸地の上を歩けるうちにと、11時半まで歩き回り、待機室に11:40に行く。

1時にバスが来て出発。港に1時半。搭乗前に、搭乗券を見せパスポートを預け、クレジットカードを見せ、ルームキーカードを作ってもらい乗船。このカードはこの先100余日の生活のすべての場面で活躍する。

部屋に入り、キャビンアテンダントのベンと顔合わせ。なんと、この船の従業員に日本人の女性がいるとのこと。会って挨拶をする。彼女によると、日本人の客は誰もいない、とのことであった。予想はしていたが。

2時過ぎ、船内の探検に行く。8階の食堂では、世界各地の料理のコーナーがあり自由に食べている。ここで、ローストビーフと野菜を食べる。乗船記念にスパークリングワインを配っていたのでいただく。アルコールは、基本的に有料である。ちなみに、船室には、乗船記念の船長からのギフトと言うことで、スパークリングワインが一瓶置かれていた。

その後、探検の続き。とにかく広いし、階がたくさんある。10階建ての大きなビルディングひとつ分だ。だいたいどこにあるかわかってから、部屋に戻るとアナウンスで避難訓練。「インターナショナルルールである」と船長のアナウンス。非常用ボートのところで点呼し、船長の話。約15分。

部屋に戻ると、荷物が運び込まれていた。5時半の夕食の時間。行ってみると6人席で、女性一人客、男性一人客、夫婦、空席一つという組み合わせ。いろいろ話をしていううちに7時過ぎ。第2回目の食事の準備の時間。後ろが限られているのはいい。メニューはいろいろなものが用意されており、食べ物は、すごくおいしいし、これでは体重管理が大変だ。

食事中の7時過ぎに、音もなく船は動きだした。あっけない出航の時。でも、とにかく、航海は始まった。

食事後船室で荷物の整理の続き。8時半過ぎ、疲れてきて、今日はこれで寝てしまおう。まだ時差ぼけの影響下にある。

歩いた歩数 14480 歩（これから毎日歩数をカウントする。目標は、一日一万歩）

1月7日（土） 第2日 終日航海

## ◎ 船上の生活

6 時頃目が覚める。外はまだ暗い。7 時まで待って、運動。10 分間プロムナードデッキを歩く。その後、階段を上り下り。Deck 1 から Deck 10 まで 10 階建ての建物と同じだから、登りである。30 分で、5 ～ 6 回は往復しただろうか。天気は曇り、風は強く、回りは水平線の他は何も見えない。今頃はカリブ海のキューバ沖くらい？ 天気もよく、なかなかいい気持ちだ。その後プロムナードデッキを 10 分ほど歩き、計 1 時間。約 8000 歩。

その後、8 階食堂で朝食。パン・フルーツ・ヨーグルト・オレンジジュース・克蘭ベリージュース・コーヒー。本当は何でもあるが、そんなに食べてはられない。食事のあと、部屋で記録の整理、その後 9 階の静かなホールで読書。そうしているうちに昼に。昼食は、グリーンサラダとパスタ、挽肉ソース。それから、WiFi でインターネットにアクセス。1100 分で 250 \$ だから一日 10 分使って 200 円というところか。メールのチェックと、web のアップデート 2 日分。衛星通信なので遅いかと思ったら、それなりの速度はある。

部屋にあったフルーツリクエストに記入しておいたら、リンゴ・洋梨・オレ

ンジが届いていた。今日は、時差の調整。午後2時に3時まで進める。

そうこうしているうちに、夕食の時間5時半が近づく。運動着から、シャツとスラックスに着替えてダイニングへ。席は固定席だから、昨日と同じメンバー。ただし、男性一人で来ていたのが、夫婦連れになっていた。つまり、アメリカ、カナダの夫婦とアメリカ人女性と私がメンバー。あまり腹が減っていないので、軽めのシーフードカクテル、チャウダー、海鮮パスタを頼む。デザートなしのコーヒー付き。グラスワイン 5.45\$、1時間半くらいで終了。

その後、部屋に戻り、記録。入浴。そのあと、映画を見て12時就寝。

15219 歩

1月9日(月) 第4日 ドミニカ国ロゾー (Roseau) 上陸

### ◎熱帯の町ロゾー

朝6時半に起き、歩く。10分間プロムナードデッキ。3.5周で1マイルとなっている。つまり、1マイル $\parallel$ 1609mだから460mが一周の距離。結構大きいことがわかる。その後、デッキ1からデッキ10まで10階建ての階段を40分間上り下り。そして最後の10分間、また水平のデッキを歩く。ここまで歩くと、結構汗が出てくる。今日は風が強く、帽子が吹き飛ばされそうなくらいであった。

終わって、水分補給。ジュースを飲み、シャワー。そして朝食。



朝食後に、ジムに体重計があるのを発見。測ってみる。ポンド表記。部屋に戻り、記録の整理と上陸に備える。上陸は12時からの予定。11時半頃、食事をして、それから上陸。ドミニカ国の首都ローズー (Roseau) である。ギヤングウェイでシップカードを読み取り機にかけ、タラップを降りると、3日ぶりの陸地。ツアーのバスの中を抜けて、寄港地から町の中心まで10分ほどかかる。

とにかく暑い。冬の日本を出て、5日目に真夏の熱帯の町だ。気温は30度以上はあるだろう、照りつける太陽の日差しも強烈。サングラスを持ってこなかったのを後悔する。車の脇を歩いて行くと、川を渡る。ここが、New Market Square。露店もたくさんある。椰子の実を1US\$で売っていた。

そこから、他の客船が停泊している波止場に進むと、Old Market Squareで、こちらの方は道が格子状になり、いろいろな店がある。波止場の前に、観光案内とその上はドミニカ博物館。階段を上がってみると受付。3US\$が入場料。ワンフロアではあるが自然や歴史の展示物が置かれている。5人くらいで漕ぐ丸木船の実物はなかなかだ。

オールドタウンの中を歩く。教会が3つ、フォートヤングホテルは、昔の砦をそのままホテルに使っている。郵便局で、絵はがきを買って日本に送る。切手と併せて2US\$出すと1XC\$ (Eastn Caribbean \$) おつり。だいたい25円くらい。お土産屋を見つけて、9US\$の白ワインと1US\$のコークを買った。

じりじりと照りつける日が厳しく、2時過ぎに船に戻ることにする。帰りの10分の暑いこと。停泊地の前にお土産の店が出ていた。シンブルを買った。

船に戻ると、水分補給、そしてシャワー。一休みしてから、昨日の記録整理とWebの更新。そうこうしていると5時過ぎて、夕食の時間。今日は、2組の夫婦はいなくて Phelinと二人でテーブルに着く。他も結構人がいなかった。寄港地ではこういう感じなのか。食事も終わり、部屋に戻り入浴。記録整理。今日は20US\$消費した。普通にUS\$で買い物ができる世界。

病人が出て病院に運ばれたので遅れて出発という船長のアナウンスがあり7時頃出港した。テレビの40チャンネルで船の情報がありアルタイムに流されているのを発見。これはなかなかいい。

使った通貨 20 US \$

25545歩

1月10日(火)第5日 バルバドス・ブリッジタウン上陸 (Barbados Bridgetown)

### ◎ブリッジタウンも熱帯の町

今日は、首都ブリッジタウン上陸の日。バルバドス島は、佐渡の半分くらいだとか。古くはイギリスの砂糖栽培地、今は独立して、観光や農業の国。

6時過ぎに起きて、例によって1時間ウォーキング。水分補給(クランベリ

ージュース)。シャワー、朝食。今日はメインダイニングに行ってみた。Japanese style 朝食というのを試してみたら、卵焼き、フライパンで焼いた鮭の切り身、白飯、しょっぱい味噌汁、という代物。これはいただけじゃない。7時頃クルーズターミナルに入港し、8時に用意はできていたとはいえ、9時に出発。

波止場でバンドが演奏していて、ショッピングセンターなどもあり結構賑やか。タクシー乗り場から、シャトルバスでブリッジタウン中心地へ。2 US\$。降りると、タクシーの運ちゃんが寄ってきて、大変。小さな町は、少し歩くとだいたいの様子がかめる。イギリスの植民地だったので、車は左側通行。日本車、トヨタ、日産、三菱とスズキが多いように見える。

中心部のネルソン提督の像がある、National Heroes Square や国会議事堂、独立広場、チェンバレン橋などが固まっている。古い建物がたくさん残っている。日差しは強烈で、海のそばでも30度以上だろう。セントミッチェル教会、シナゴーク、市場などを見物の後、バルバドス博物館に向かう。

2〜3キロなので歩けなくてもいいが、正確な地図もなく、日差しも強烈なので、タクシーで行く。当地のタクシーは、メーターもなく、アバウトなものがある。着いたというのでいくらと聞いたたら、10 US\$。20渡すとおつりはない、ということ、1\$札をかき集めて10枚渡した。\$の小額紙幣を大事にしなれば・・・。ATMだと、20\$札しか出てこない。

降りて案内カウンターに行くと、ここは、ジョージワシントンハウス（10 US \$）といって、若き日の英軍人ジョージワシントンが赴任して日を過ごした家である。涼しいホールでビデオを見て、案内の男に客が連れられて、建物と調度を見て回る。ビデオでジョージワシントンが熱病にかかるシーンが出てくるが、もし回復してなかったら、今のUSAは・・・など考えると妙な感じだ。

見終わって、博物館はどこかと聞くと、歩いてすぐのところだと教わり、移動。こちらは入場料15 US \$。全部US \$ですんでしまう。現地のバルバドス\$は、2 BB \$ = 1 US \$という勘定。昔の刑務所跡に、自然・歴史などの展示がある。ここは、サトウキビのプランテーションで、サトウキビを風車を使って絞り、煮詰めて砂糖を精製し、樽に詰めて帆船でヨーロッパに運んでいたのだ。そのため、アフリカから黒人奴隷が運ばれてきた。ちょうど昼頃になり、オレنجとリンゴを食べ水を飲む。

2時過ぎに、波止場に戻る。船に戻って昼食。お土産にラムの小瓶を買う。大瓶は、瓶が相当重いようで、ずっしり。帰りに飛行機に積めない。5時半になり、夕食時間。エビのカクテル、アスパラのスープ、シュニッツェル。

7時過ぎに食事を終え、部屋に戻る。結構疲れているようで、入浴後寝る。

使った通貨 39 US \$  
カードで支払い 25 US \$

1月11日（水）第5日 終日航海

### ◎船の生活・インターネット回線

バルバドスを出て、ひたすら東南へと進み、南アメリカ大陸に沿って次の寄港地、ブラジルのベレン（Belém）に向かってゆく。2日の航海の後に到着する。上陸のない日は、ゆったりと時間が流れるようだ。

この日も朝6時半から1時間、ウォーキング。うっすらと汗をかいてから、フレッシュジュースで水分補給。実においしい。シャワーを浴びてから、朝食。パン、フルーツ、ジュース、ヨーグルト、コーヒーの『ベジタリアン』。1日3食もまともに食べていると、大変なことになりそう。

昨日は、部屋のレイアウトを変更してもらった。左右の壁際にベッドを配置。クイーンズベッドが部屋の半分を占領していたのに比べ、窓までの通路ができ、広く使える。ベッドの一つは物置として使えるし、なかなか具合がよい。船内の生活では『魔法のカード』が活躍する。ルームキーになるのはもちろん、上陸の際の身分証明書、買い物をするときのクレジットカードなど万能だ。室内に忘れて鍵を閉め込んでしまうと、キャビンアテンダントのところに行っ

記録整理で、昨日の Web の更新を済ませる。通信速度が不安定で、画像ファイルの転送中に FTP が切断されること3回。画像をなるべく小さくするとか、上陸し回線状態がいいときに大きな画像を上げるとか工夫をしなければいけない。いいときで 35 Mbps 悪くなると 5 Mbps。

あつという間に昼になり、昼食。ビーフンを食べる。ラーメン食べたいなー、とふと考える。上陸したら、探してみるか。ブラジルにあるか？

腹ごなしに船内をぶらぶら。初めての所がある。静かなところで読書。

5時半には夕食の時間。同席の5人組も息も合ってきたようで、気がつくとき食事が終わる時間。今日は、蟹のサルサソース、スープ、ツナステーキだが、ツナがとてもスパイシー。

部屋に戻り、入浴。映画を見て就寝。明日は洗濯をしよう。

1月12日（木）第6日 終日航海

## ◎船の生活・ランドリーとコイン

朝は雨、熱帯特有のシャワー。土砂降り、歩いてみると9階デッキで突然降り出し、ずぶ濡れ。気温も30度近いし、やはり熱帯だ。それでも何とか、1時間ウォーキング。8階プールは屋根が閉まっている。その後ジュース、シヤワー、朝食と、日課の行動。

ここは日本との時差が12時間。丁度、昼夜が真反対。赤道よりわずか北に位置している。船は南アメリカ大陸に沿って東南へと進む。

今日は、初めての洗濯。コインランドリーがある。一応説明が書かれているが、部屋係に聞いてみる。1回2\$なのだが、1/4ドル硬貨(クォータ、Quarter、25セント)を8枚、ずらっと並んだコイン投入口に立てて並べて、ガチャンと押し込み、引き出すと8枚の硬貨が投入されあとはボタン一つで洗濯が始まる。45分で洗濯が終わると、乾燥機は無料。60分たつとカラカラに乾燥していた。昼食時間になり、今日は、中華風牛肉とブロッコリーの炒め物。鶏肉。野菜。船は赤道に接近している。外気温30度弱。湿度は80%以上。海上でこれだから、陸地は・・・。

右弦はアマゾン川の河口これが、500 km 以上も続いている。陸地は見えないが、海水の色が変わってくるそうだ。

夕食時、海鮮プレート・スープ・アラスカの蟹。終わってから、ラウンジに行きマジックショーを少し見る。その後入浴、ビデオを見て、寝る。

今夜中に赤道を越える。明日の朝は、南半球だ。

15313 歩

1月13日(金) 第7日 ベレン(ブラジル) 上陸

## ◎南米大陸への第一歩

朝5時半に起きてウォーキング。海が泥の流れになっている。これが大アマゾン川の河口か。向こう岸は霞むほど遠い。アンデスの山並みを発し、南アメリカ大陸を横断し、大量の泥と栄養を大西洋に注ぎ込んでいる。

朝食ののち上陸の支度。南米大陸初上陸の日。アマゾン川河口の町、ベレン。ここでは、沖に停泊したまま、テンドーボート（渡し船）で上陸、その後シヤトルバス約1時間で市街地へ。行くまでに1時間半くらいかかる。

8時半に出発。テンドーボートが横付けされて待っている。結構波が高く、揺れている。乗り込んで10分ほどで船着き場。何艘もの船が待っており、混んでいる。ようやく上陸。記念すべき、南アメリカ大陸の第一歩。とにかく暑い。日差しが強烈だ。シヤトルバスに乗り込む。1時間で町の中心。プレジデンチ・ハルガス通り。

エスタサン・ダス・ドツカスは、元の倉庫を再開発した新しい施設で、店やレストランが入っている。ATMでブラジルリアルRを100R入手。1US\$≒1.8Rだから、1Rが50円弱。そのとなりが、ヴェロペーズ市場。果物、野菜、肉、魚、穀物、民芸品などの店がブロックを作っている。食べ物屋台もある。

海に沿って歩くと、真っ黒なハゲワシがえさをあさっている。公園を過ぎるとカステロ要塞（2R）。昔のポルトガルの要塞の跡。隣が宗教美術館（Museu



de Arte Sacra・4 R)で礼拝堂や展示室がある。かつてポルトガル人は、このような物を持って世界にキリスト教を布教していったのか、という感想。

市内には、電車の線路の跡に沿って、店がずらりと並んでいる。衣料品店が多い。南に1kmのところにあるマンガル・ダス・ガルサス公園はともい公園だ。中央に塔がありこれに登る(3R)と、公園の全景そしてベレンの高層ビルが建ち並ぶ町並み、そしてアマゾン川が見える。ここに来て初めて、ベレンはアマゾン川の町なのだ、と実感する。公園には、マングローブ林があり、白鷺や真っ赤なシヨウジョウトキがいる。歩いてプレジデンチ・ハルガス通り沿いに、シャトルバスに戻る。近くにYAMADAなるスーパーマーケットがあり、ハイネケンを買って帰る。2時にシャトルバスが出て、テンダーボートで帰船は3時半。暑い中、疲れた一日だった。

一休みすると、もう夕食。この日のテーブルはフェリンと2人。彼女が、朝鮮戦争の頃東京に1年いたこと、その後大阪に行ったことなど聞いた。

部屋に戻ると、「赤道通過証明書」Crossing The Equator Certificateなる書類が配られており、それによると、January 13 2012 01:20am 緯度00度00分・経度西経47度47分であるそうだ。それから、ビデオを見て、寝てしまった。六つめの大陸に足を運んだ日、2012年1月13日。

使った通貨  
20.7レアル(約870円)

1月14日（土）第8日 終日航海

## 上陸グッズ

昨日の疲れか、朝起きると、からだが重い。日課の1時間歩き、水分補給、シャワー、例のごとくパンとフルーツの朝食。今日はイチジクつき。

船内をぶらぶらしていると、新しい所を発見。ロフト（屋根裏部屋）とそこから続くスカイデッキ。Teens only とかかっているが。

午前中、記録整理、Web 更新。写真を上げるのが重い。大きな写真だけではあとで条件のいいときにまとめてUPしよう。30分以上もかかってしまった。

昼食に行くと、中華風の屋台が並んでいて、自分で材料を集めて、焼いてもらうようになっていた（モンゴリアンクックアウトという）。やきそばを作ってもらったのだからまいち味が違っている。ラーメンがなつかしい。

昨日の上陸で、Tシャツを着ていたので首筋が焼かれて、ひりひりする。  
3回上陸した結果、次のような物を準備すべし。

《上陸グッズ》

ザック	水	食べ物	タオル	地図	資料
キャッシュ	財布	ATMカード	ペン	ノート	傘

キンドル 電話 GPS 電池 辞書 カメラ

サングラス ポロシャツ 帽子 靴 靴下

今日は、2度目のフォーマルナイト。ブラックスーツで食堂へ。「ブラック&シルバー」と銘打ってデコレーションをこらしている。エビとホタテのグリル、スープ、フイレとロブスターのソテー。

イタリアのコスタのクルーズ船が地中海で座礁（run aground）したという話を聞く。部屋で CNN を見ていると、報道されていた。イタリアのトスカーナ地方での話だが、なんとあっけなく座礁してしまうのか、という感じである。10時頃就寝。

12283 歩

1月15日（日）第10日 終日航海

## ◎ 船内探検

6時起床、6時半から歩く。シャワー、朝食、記録整理、Web更新。

テレビの CNN のイタリア船の報道によると、3名亡くなり、18名安否不明。

その後、船内探検。日本に寄港したときの記録がある。神戸、仙台、横浜、鹿児島。読書、いくつか静かな居心地のいい所があるが、9階のバー「鳥の巣」（crows nest）は船首にある景色のいい部屋。明日の上陸地レシフェの下調べ。

夕食は、ブラジルデー。ブラジリアンシーフード前菜、黒豆スープ、自身魚のフライ。イタリア船の話題もでる。

13728 歩

1月16日（月）第11日 レシフェ（ブラジル） 上陸

### ◎南アメリカのベニス・レシフェ散歩

6時起床、6時半からウォーキング。レシフェ (Recife) の町が遠くに見えるてくる。白い高層建築が多い。水平線に見えるその姿は、砂漠のオアシスのような感じ。7時半まで歩いて、朝食。上陸する日は、少ししっかり食べる。

8時半出発。シャトルバスで10分ほどの町の中心にあるカーザ・ダ・クルツォーラ（「文化の家？」）へ。ここは、昔の監獄を改造して作ったショッピングセンターでツーリストインフォメーションがある。

ここから町歩き開始。レシフェは「南アメリカのベニス」だとかで、二つの島と陸地の間に多数の橋がかけられている。橋を渡って現代美術館を目指す、行ってみると、建物に看板だけあり、入り口が開かれていない。閉館？

橋を渡り、サンアントニオ地区に戻りサンタイザベル劇場、ハプブリカ広場、カンポザスプリンセス宮殿と回る。宮殿は火曜金曜のみ公開。残念。とにかく暑い。歩いていると、頭のとっぺんから焼かれているようだ。

ヅラーダ・ダ・オルデン礼拝堂の博物館に入る。17世紀末に作られた礼拝堂は、天井から壁まで金ぴか。日本にキリスト教が渡ってきた頃は、このような出で立ちで宣教師たちが登場したのか、と。郵便局で、日本に絵はがきを送る。はがき1R 切手2.7R。サンアントニオ修道院、サン・ペトロ・ドス・グレゴリス大聖堂と回り、サンジョセ市場へ。小さな店がおびただしい数入っている。市場の反対側にあるシンコ・ポントラス城塞に行く。シンコは5だから五稜郭と同じ形だと思っていたら、1つなくなっていて、今は4つしかないということだ。博物館があるはずが、今、準備中だとか。

市場で半袖シャツを25Rで購入。カーザ・ダ・クルツアーに戻り店を覗く。「Tio Paulo」とかいいう瓶入りの飲み物を2本10Rで購入。のどが渴いたので街角でCOCOとかいっている椰子のジュースを飲む。よく冷えておいしかった。シャトルバスで船に戻る。2時。カレー味ビーフンの昼食。スケッチをして、記録整理。入港するすべての港でスケッチするつもり。

夕食は、エビのカクテル、キャベツのコンソメスープ、鶏胸肉ソテー。

使った通貨 43.7レアル (約2100円)  
27055歩

1月17日(火) 第12日 終日航海

## 地球の反対側のサーバー

6時半起床、例によつて、ウォーキング、シャワー、朝食。その後、昨日のレシフェの記録整理。最後にアップ。回線速度が遅いので、大きな写真はどこか条件のいいところまでまとめてあげることにする。それでも、8分。通信速度を見ていると、最高で36 Mbps から、時には5.5 Mbps まで落ちる。それでも、大西洋の海の上で、地球の反対側の日本にあるサーバーにデータを送っているかと思うと、不思議な気もする。

とにかく昨日は暑い日で、疲労が残っているので、午前中のんびりする。そうこうしていると、昼。今日は午後、1時間時計を進めるという連絡があるので、正午から夕食までに4時間半しかない。しかし、船は東に向かって進んでおり、1時間遅らせるのだと思うのだが、サンパウロ時間に設定された。

夕食は2名。シーフードカクテルとスープ、鴨肉のオレンジソース。

日没が遅くなっており、7時でも明るい。散歩して、船室に戻り、入浴。

11644 歩

1月18日（水）第13日 終日航海

## ◎カコメ・Sea Gull

朝7時過ぎ起床、ウォーキング。天気晴れ、気持ちのよい朝。気温は高い。

日差しも強い。船の回りに数羽のカモメ (Sea Gull) が飛んでいる。朝食後、カモメの写真を撮影。海岸からかなり離れているはずだが、船につかはずはなれず飛んでいる。

Web をアップした後、読書。昼食時間になり、今日は、マカロニとサラダ。また、写真撮影。100枚以上撮って、使えそうな写真が数枚。飛んでいる鳥を船の上から300mmのレンズで追いかけて、鳥にピントを合わせるのは結構大変だ。青い海でカモメの白が引き立つ。

CNN のテレビでは、イタリアの客船難破 (wreck) 5日目が話題になっている。未だに確認できない人がいるとか。

夕食は、白身魚のソテー。8時からトランプのバンドを見た。

明日はリオデジャネイロに入港、初の1泊2日の寄港だ。資料を少し読んで、予習。地下鉄とバスに乗らなければならない。ポルトガル語はさっぱりだ。さて、どうなる。

13968歩

1月19日(木) 第14日 リオデジャネイロ上陸

### ◎リオデジャネイロ・博物館巡り

5時に目が覚め、二度寝をしたら7時半になっていた。今日はウォーキング

なし。たぶん体が睡眠を求めているのだろう。

リオデジャネイロの湾口にかかる橋をくぐり、港へと近づいている。

朝食のあと、上陸の用意。今日は波止場に横着けなので簡単にシティセンタに出る。ここは、かつて、首都だったので、その機能が残っている。特に、経済・文化などの中心である。

ATMを探してお金をおろす。表示される金額が、40 R \$ とか90 R \$ とか140 R \$ とかのきりのよくない数字が並んでいる。140 R \$ おろしてみた。あとで、100 R \$ おろすと、50 R \$ が2枚出てきて、非常に使い勝手が悪いのだ。

にぎやかなリオブランコ大通りを進み、カンデラリア教会を見物に行ってみると、結婚式らしく着飾った一団が写真を取り合っていた。

さらに進むと、山の会のNさんに勧められた店、「三浦」のあるビル。中に入ると、「リオの秋葉原！」PC、電話や、その手の店だらけだ。昼に食べに来ることにして、すぐ先の、国立美術館に行く。向かいは市立劇場、隣は国立図書館の立派な建物。8 R \$。ギリシャローマの彫刻から始まり、20世紀のブラジルの画家たちの作品まで、展示されている。館員が軍服のようなユニフォームで軍人のように振る舞っているのはちょっといただけない。のどが渇き、二回も給水器で水を飲んだ。

1時間ほど見た後、次の国立歴史博物館へ。15分ほどで着く。とにかく暑い。



日差しが強く、くらくらするようで、途中公園で座り込み給水。歴史博物館は南国風の建物で、庭には椰子の木が並んでいる。こちらは6R\$。最初の部屋は博物館紹介のスライドだが、冷房が効いてとても心地よい。こちらの建物は、比較的新しく造られたようで、全館冷房の、快適な展示棟であった。

次に、チラデンチウス宮殿に回ったが、こちらは2月から公開とあり、残念。で、先の三浦に1時過ぎ。行ってびっくり。客がぎつしりで、カウンターに席を作ってもらおう。「三浦うどん」と、ハイネケンビールを頼む。他の客は、マグロやサーモンの握りや海苔巻き、「海苔巻きの天ぷら」、焼きそばのつたプレート等を食べている。中には、升で日本酒の女性もいる。うどんは、細麺でつゆの色が濃いがいい味だった。47R\$。明日もここで昼にしようか。

その後、国立博物館に行くため地下鉄のカリオカ駅に行く。切符売り場の長い行列にたじろいだ。意を決して並ぶ。ポルトガル語しか通じなく、チャージできる切符 PRE-PAGO と言ったのにくれたのは、シングルの切符。こちらの切符は、どれも同じ大きさのプラスチックのカードなのだ。再度並んで10回分チャージしたカードを購入。改札口から入ってみるとまたびっくり。カリオカのような二本の線が平行して走る大きな駅では、人の流れが一方通行になるように、電車が来ると降車口が開き、次に反対側のドアが開いて乗車口になるのだ。当然、上り（北行き）と下り（南行き）は全く違うホームになる。という

ことに気がついた。北行きに乗りたいたのに南行きしかこない。仕方なく、一つ南に戻る。ここは小さな駅だから上り下りが同じホームから出ているので反対側に乗り換えればよかったのに、改札を出てしまった。3.1 R \$ の授業料であったが、これでリオの地下鉄には乗れるようになった。

5 つ先の駅で降りて、公園の中を行くと国立博物館。建物は、昔のコロニアル様式の大きな建物。3 R \$。展示スペースが小さく、一部分しか使われていない。こちらはエアコンは全くなく、いくつかの部屋で窓からの風が心地よい。歴史博物館があるので、こちらは自然史博物館という位置づけであろう。

4 時になったので、船に戻ることにする。地下鉄でウルグアイアナ駅で降り、プレジデンチバルガス大通り、リオブランコ大通りを通り、波止場に戻り、乗船。途中で買ったビールが冷えていて、カラカラに渴いたのでに染み渡る。シヤワーを浴びると夕食時間。サーモンの前菜、トマトスープ、ミートボール入りスパゲッティ。今日は、上のレストランでアメリカンバーベキューだとかで、メインダイニングはがら空きだった。

28281 歩

1 月 20 日 (金) 第 15 日 リオデジヤネイロ上陸・2 日目

## ◎リオデジヤネイロ・名所巡り

今日は9時出発。歩いてウルグアイアナ駅まで行き、地下鉄で南へ。北行きがガラガラなのに南行きはぎっしり。今日は休日なので、海を楽しむ人たちか？ボタフオゴまで行って降り、タクシーでコルコバードの丘の登り口、コズメベリーヨへ10時。16 R \$。行ってみると、大混雑。トラムのチケット(43 R \$)は、なんと乗車時刻12時。ここで2時間待っていたら今日一日終わってしまう。そこにいるタクシーと掛け合って、イパネマのビーチに行くことにした。といっても、英語はほとんど通じない運ちゃん。40 R \$で行くことになった。行ってみると、途中ロドリド・デ・フレイタス湖を通って、イパネマまでは20分で着く。湖の周りは、すっかり観光地。

イパネマのビーチは、まさしく別世界。白い砂が広がり、遠くは大西洋。そして背後には白いビルが林立し、太陽はさんさんと輝き、人々は、波と戯れ、浜に横たわり、ビーチバレーに興じ、という絵に描いたような世界であった。浜辺を20分ほどさまよい、タクシーに戻りコズメベリーヨへ。無駄にしなかった1時間ほどであった。しばしそのあたりを歩くと、12時になり、トラムへ。20分ほどで700 mの岩のてっぺんにある山頂駅につく。歩いて(エレベータとエスカレーターもあるのだが)登ると、高さ39.6 mの大キリスト像が立っている。これがリオデジャネイロのランドマーク・コルコバードのキリスト像である。海からくつきりと見え、港の目印になっている。リオの景色はすばらしい、の

ひとこと。町並み、あるいはコパカバーナやイパネマの海岸、そして海。人が多いのが難点だが。下りの ترامも混んでいて、20分後の便にようやく乗れた。タクシーで地下鉄駅へ。現金が残り少なくなったので、12 R \$ カードで払う。昼食を昨日の「三浦」で食べようとカリオカ駅に戻ってみると、今日はホリデーだとかで、町中、店や会社が閉まっている。歩く人も多くない。買い物をしように思っていたがだめ。現代美術館に行こうとしたが、残り1時間と中途半端な時間。途中で冷たいビールと絵はがきを買って3時過ぎに船に戻る。

波止場の観光案内のガイドブックと地図はできがよい。(RIOGUIDEと Mapa do Rio) 特に地図の方はよい。惜しいことに、紙質が悪く、使うと破れるのが難点。ちなみに、リオデジヤネイロは、river of January : 一月の川の意

ピザをつまんで、シャワーを浴び、冷たいビールでのどを潤す。そのうちに、外の景色が変わり、船が動いているのに気がつく。

夕食は、牡蠣、スープ、茹でた鱈。

二日間で使った通貨 240 R \$ (約137 US \$、約1万円)  
1746歩

1月21日(土) 第16日 終日航海

## 通信速度

7時に起きて、一時間ウォーキング。昨夜雨が降ったようで、甲板は濡れていたが天気は回復して晴れてきている。風もそんなに強くなく、Lovelyな一日の始まり。軽く汗をかき、ジュース、シャワー、朝食。

二日分たまったWebの原稿作り。昼前によく完了。ただ、通信料金がかかるので、拡大写真はどこかでまとめてFTPで上げることにする。それでも16分間(320円かかる!)。通信速度は、相変わらず、5.5Mbpsから16、24と遅い。作業をしながら、二回目の洗濯。こちらは、洗い1時間と乾燥1時間で完了。昼食はチーズバーガー。午後は天気がよく、せっかく水着を持ってきたからプールに行く。5m四方の小さな物だ。少し泳いで、デッキチェアで甲羅干し。吹き渡る風がさわやか。その後、ブエノスアイレスの下調べ。読書。昼寝。今日は、フォーマルの日、3回目だが、同じ服。シャツがちよつと違うけど、代わり映えしない。テーマは、Samba COPACABANA と銘打った、「ブラジル祭」といった風。食事はエスカルゴ、ミネステローネ、ロブスターのポットパイ。船の映画館で「エビータ」を見る。いよいよブエノスアイレスだ。

13136歩

1月22日(日) 第17日 終日航海

## ◎1日が25時間の日を24回||1日

7時に起きて、1時間歩く。曇りだが、明るくなって青空が見え始めている。昨日も同じようだったので、夜のうち天気が悪く、日が差すと雲が上がっていく、という具合かもしれない。汗をかき、ジュース、シャワー、朝食。

配られている *New York Times* のダイジェスト版 (A3・3枚裏表) には、イタリアクルーズ船の記事がまだ載っている。

昨夜は、今夜1時間時計を戻せ (Back) という指示が入っていた。夜が1時間延びたことになる。これから、西に向かって航海をしていくと、1日が25時間の日を24回過ぎすと、西回り世界一周。当然どこかで、1日なくなりつじつまが合うのだが、それが、日付変更線である。一日が1時間長い日々になる。逆だと、睡眠不足になるが、西回りだと1時間ずつ夜が長くなるので楽である。昨日分の記録整理。疲れを感じるので、ベッドに横になり読書。明日のブエノスアイレスの資料を読む。

昼食。マカロニとミートローフ。その後、読書、散歩。

そして夕食。今日は、「日本料理」tunaのsashimi soba 添えという前菜とエビと野菜の Tempura が出ていたので食べてみた。エビとブロッコリーとアスパラの天ぷらが出ていた。海上での一日は、ゆっくりと時間が経過する。

11231歩

1月23日(月)第18日 ブエノスアイレス上陸

## ◎ブエノスアイレス町歩き

6時過ぎ起床、外に陸地が見える。歩く支度をして外に出てみると、海は、茶色の泥の海。ラプラタ川の河口に入ったのだ。どんどん近づいてくる。この船、Amsterdamと同型船のVeendamが隣に接岸している。

シャワー・朝食の後、9時に出発。シャトルバスで波止場の入口まで移動。Terminals Rio de la Plata (ラプラタ川ターミナル)と書かれてある、海港の出入国管理事務所だ。広い通りを歩いて行くと、レティエーロ駅。駅前広場に「英国塔」という、ウエストミンスタール塔のような塔が立っている。イギリスと関係が良好な時期に作られ、その公園も「イギリス広場」と呼んでいたが、フォークランド戦争以来、関係が悪化し、今では、アルゼンチン空軍広場である。

それに続くサンマルティン広場を過ぎるとフロリダ通りで、ブエノスアイレスの高級ショッピング街である。歩いていると citibank の支店。ここでアルゼンチンペソを入手。\$と表示するので、紛らわしいのだが、1ペソ≒20円くらいで、500ペソ(\$) 下ろしたら、<sup>9568</sup>円とレシートに書かれていた。US\$から始まりR\$,そしてこのペソ\$と値段が次々に違うので頭がつかない。

本屋で、ブエノスアイレスとモンテビデオとリオの都市地図を購入。

そのまま進んで、5月広場、この回りには、教会、国営銀行、大統領府、財

務省などが並んでいる。大統領府の前は、なんと、写真展が開かれ、大統領と婦人の「活躍」の写真パネルがおかれて、たくさんの人が入っている。なんとどかな・・・。この周辺に、博物館があるはずが、うまく探せない。

少し歩いたレサーマ公園にいき、国立歴史博物館をさがすも、休みであった。公園でしばし休んで、北上し地下鉄C線の *independencia* 駅まで歩き、乗車。切符を買い、改札機に通すとバーが回る。日本の銀座線を作るときにこの街の地下鉄を参考にしたと言われている。 *Diagonal Norte* 駅まで乗車。

降りて、オベリスクを通り、コロロン劇場。この劇場は、周辺が工事中であったが、威風堂々とした建物で、ミラノ・パリとともに世界の三大劇場といわれているそうだ。次に、高級住宅街のレコレータにある、レコレータ墓地にエビータの墓を訪ねる。墓地とはいえ、立派な石の建物が林立し迷子になりそうなところだ。近くの国立美術館は、休みであった。

レタイーロ駅まで戻り、インターネットカフェを見つけ、15分3.5\$でアクセス。ブラウザは日本語も表示ができる。入力できないが。メールソフトを落として、保存した。FTPもデータとソフトをUSBメモリーを使ってUPできるかもしれない。ラプラタ川ターミナルに向かう。3時半にシャトルバスに乗り、船に戻る。暑い日だった。夕食は、ガウチョ風ステーキとかで、牛肉の串焼き。

なお、船内で、 *gastrointestinal illness GI* (胃腸の病気) が発生していると言うこ



とで、キャプテンからの連絡文書が2日続けて発行された。それに伴い、食事  
中のいくつかの対応が変更された。例えば、調味料は出しっぱなしにしない、  
とか、セルフサービスも、自分で取らずに係に取ってもらう、とかだ。

### 4113 歩

1月24日(火) 第19日 ブエノスアイレス上陸2日目

### ◎ブエノスアイレス町歩きボカ、カミニート

朝、雷雨があつたらしい、デッキは濡れていた。歩いて朝食の後、9時出発。  
レテイロ駅まで歩いて行き、地下鉄C線で、終点のコンステイトウシオン  
(憲法) 駅まで15分ほど乗る。結構混んでいる。車内の電光掲示板の時計が8  
分違う。朝の時間に公共の乗り物の時計が違つていても済むこのおおらかさ。  
終点のコンステイトウシオン駅は、鉄道が出ているターミナル駅だ。

タクシーでボカ、カミニートへ、途中、大きなスタジアムの脇を通つたが、  
これが、サッカーの名門チーム、ボカ・ジュニアーズのスタジアム。カミニ  
ートは原色のカラフルな色で建物が塗られている、いかにも南米的な陽気な町並  
み。とてもたのしいところだ。タンゴはこの地で生まれたとかで、街には観光  
客相手のダンサーがたくさん。ボカは、かつての、ブエノスアイレス唯一の港  
だった街で、ヨーロッパとの出入り口であつたそうだ。

キンケラマルティン美術館は11時開館。キンケラマルティンは画家で、この地区の発展に寄与した。港の風景の絵が印象的。力強い港湾労働者の姿や港の火事などが描かれている。子供たちが引率されて見学に来ており、騒然とした雰囲気はあったが・・・。セラ博物館の方は、蠟人形館である。20\$もしたが、ちよつと数が少ない。12時近くになると、次々に観光客が来て、にぎやかだ。

タクシーでレサーマ公園に行く。歴史博物館は、休み。なんと水曜から土曜まで開館とのこと。週休3日！都心に戻りブエノスアイレス美術館 (Museo de La Ciudad) は2階のおもちやの展示のみだった。ファン・アンブロセッティ民族学博物館 (Museo Etnográfico "Juan B. Ambrosetti) は工事中のように入れず残念。

大統領府の前に広場には、何か抗議をしているらしい横断幕が張られていた。フロリダ通りでポロシャツを購入 (198ペソ)。英国塔を経て、レティエーロ駅に戻り、インターネットカフェに入り、ビールとワインを購入後、船に戻る。

船内では、GIはコードレッドだとかで、洗濯室も閉鎖されていた。

5時に第2回目の避難訓練が行われた後、夕食。子牛のレバーソテー。

ブエノスアイレスで2日間に使った通貨、498ペソ、約9800円

33017歩

1月25日 (水) 第20日 ウルグアイ・モンテビデオ上陸

## ◎モンテビデオは気持ちのよい街

昨夜は、1時間進める (forward) 指示が出ていたので、実質夜が1時間短く、7時に起きた。ラプラタ河の河口にいるのに、波が結構高く、船は揺れていた。今航海で初めて。これからもっと揺れるに違いないが。1時間歩いて、朝食。入港時間が遅れていたようで、8時45分頃入港。9時に出発。波止場に停泊し、歩いて行けるので楽。波止場を出るところで、観光局の若者が「モンテビデオウォーキングツアー」というパンフレット(西・英語版)を配っていたが、これはとても役に立った。

出たらずぐ、市場 (Mercado de Puerto) であった。メインストリートを進み、サバラ広場を通り、憲法広場、独立広場、7月18日通りを通りカガンチャ広場、市庁舎に至る。約30分。市庁舎の前には、ダビデ像が立っている。

銀行に行く。このペソは、1ペソ $\approx$ 4円で、\$と表示をしている。600ペソおろした。ぶらぶら戻りながら、お土産屋でシンプルと絵はがきを買う。75 + 10\$ (ペソ)。スーパールを見つければ、歯磨きとワイン、水とビールを買う。ワインがとても安い。ウルグアイ産テールワインは、箱入り1リットルで57\$ (約240円)、それに対し、ハイネケン瓶ビールは39\$、ミネラルウォーターは20\$。街は、整然として、歩いていて気持ちがいい。碁盤目状に通りが走り、ほとんどの通りは一方通行、これが交互に並んでいるので、歩くのも安心だ。日本

でもこうならないものかしらと思う。

独立広場に立つサルボ宮殿は、格調高い高層建築である。隣に、Museo de la Casa de Gobierno Edificio Jose Artigas という「大統領の家」博物館がある。入場無料で、様々な歴史的コレクションが展示されビデオが上映されている。

少し先の、ガウチョ博物館（無料）は、ガウチョ（牧童）にかかわる物を展示しており、革製品、銀製品などが展示されている。いくつかある歴史博物館は工事中で開いていなかった。装飾芸術博物館（Taranco Palace 無料）はサバラ広場の隣にある昔の宮殿で、中には、16世紀から20世紀までの様々な装飾品が展示されている。Museo de Art Precolumbno e Indigena (MAPI 60 \$) は先住民の芸術をテーマにした美術館で広くはないが中々南アメリカの先住民を扱っている美術館。Museo de Carnaval (95 \$) は、カーニバルに関する展示物を集めている。市場に行くと、焼き肉レストランが何軒もあり、客でいっぱいである。土産物売る店もたくさんある。

このように、手頃な規模の街に、見所もたくさんあり、いい街である。人々は親切で、なかなか気持ちのよい街だが、郵便局で、切手売場に二人客がいるのに、局員はしばらく誰も対応せず、それを怒る風でもない、そんな面もあるのかも。切手22 \$。帽子(100 \$)と絵はがきを買い3時過ぎに船に戻った。

その後夕食。サーモンソテー。6時半頃出航。2日の航海の後、次は、フオ

ークランド諸島だ。夕食時の雑談で、もう20日が過ぎたのか、と驚いた。

日が長くなっている。9時でもまだ日が落ちていない。考えてみれば、白夜の南極にどんどん近づいているのだから。南緯35度。日本のちょうど反対だ。使った通貨 600ペソ、約2400円

34589歩

1月26日(木) 第21日 終日航海

## ◎アホウドリ

明け方うねりが大きくなり、2度ほど目を覚ます。7時に起きて、ウォーキング。鳥が飛んでいる。朝食後、写真を撮りに行く。船から遠いところにいるためなかなかとれないが、一時間粘ってそれらしい写真を撮る。船の周りにつかず離れず6〜7羽ほどが飛んでいる。

昨日の記録を整理したら昼になっていた。昼食に行く。今日は、牛肉のパイと鶏肉のパイ。その後、図書室に行く。GIの影響で、完全閉架式になっている。司書に頼んで鳥類図鑑を出してもらおう。調べてみると、*Sooty Albatross* (黒っぽいアホウドリ)のようだ。アホウドリは、白に黒がほとんどだが、色は**brown**、大きさは84〜89cm、1.8〜3kgダイアモンド型のしっぽと灰色の足を持つ、とある。分布は、南アメリカからアフリカの大西洋南部からオーストラリアまでのイン

ド洋南部とある。実に、驚くべき鳥だ。陸から遙か離れた、島影もない、見渡す限りの大海原を飛んでいる鳥。鳥たちは、どのようにして自分の位置と進む方向を知るのだろうか、あんな体一つで昼も夜も海上で生活しているが、どのようにして睡眠を取っているのだろうか、・・・考えれば、不思議なことだ。写真の整理をする。300mmの望遠レンズが手持ちでとれる限界だろう。飛び回る鳥を200枚近く撮ったうちで、何枚かいいのがあった。これも、デジタルならではのこと。その後、読書。

夕食時間になったので行こうとしたら、今日は、フォーマルの日。慌てて着替えて、食事に行く。きらきらと飾り立てている食堂で、ロブスターを食べた。その後、ビデオをみる。三日続いた上陸のあと、からだ休めの二日間だ。

12157歩

1月27日（金）第22日 終日航海

### ◎南半球の星たち

昨夜は、11時過ぎに目を覚ましたので、星を見に行く。スカイデッキに出ると、天気は快晴で、天の河がくっきりと見え、星が瞬いている。日頃見るとは違った星たち。おなじみのオリオン座は、北の方に見えている。そこから、「冬の大三角」、全天一明るい恒星シリウス（Sirius おおいぬ座 $\alpha$ ）、それに続

く二番目のカノープス（Canopus 竜骨座 $\alpha$ ）は天頂に見えている。日本では、奄美大島くらいに行かないと見えない星だ。「南極老人星」と呼ばれ、見た人は長生きをするとか言う伝説があったような。そこから天の川を南東にたどると、「ニセ十字」、そして、南十字星。1等星3つと2等星1つからなる豪華な星座だ。少し傾いたクロス。そして、 $\beta$ ケンタウリ（1等星 Hadar）と地球に一番近い恒星 $\alpha$ ケンタウリ（1等星 Rigel Kent）。南半球の華やかな星々だ。

さて、朝は6時半に起き、ウォーキング。海はとところどころに白い波が見え、うねりは大きい。天候は晴れ。遠くが霞んでいる。朝食の後、明日のスタンレー上陸の時に投函する絵はがき作り。読書。

昼は、牛肉のカレー煮がはじめて出ていた。日本で食べるカレーに似た味。午後は、読書。PCのプラネタリウムソフトで、「星空の旅」。フリーでともよくできたプラネタリウムソフトがある。Stella Theater Lite は、日本製。Stellarium はアメリカ製だが、どちらも、簡単な操作でPC上に、地球上のどんな場所から、いつ見るかを指定すると星空を再現できる。

そのうちに夕食の時間。チキンのクリーム煮。

この数日のうちに、季節は夏からすっかり秋になっている。夜の時点で南緯48度、日本で言えば実に樺太に相当する。真夏といえども、昼間の一部を除いては、暑い暑いという気候ではない。また日も長くなった。夜8時でも日が輝

いている。日没は8時半、暗くなるのは9時半から10時過ぎだ。これはどんどん遅くなり、白夜になってゆく。

船内のGIの流行には歯止めがかかった模様である。今日配布された文書に、*It appears our efforts have been successful as there are no longer any signs of outbreak.*と書かれていた。ただし、いくつかの対策はそのまま継続すると書かれているが、大事に至らなくて幸いであった。

13664歩

1月28日(土) 第23日 スタンレー(英領フオー克蘭ド群島) 上陸

### ◎スタンレーはイギリスの街

7時起床、今日は朝のウォーキングはなし。朝食。8時半、テンダーで出発。9時スタンレー船着き場着。ジプシーコーブめざして6kmの道のみを出発

丘の上には、英軍の基地がある。1913年に座礁した鋼鉄製の船Lady Lizがそのまま放置されており、付近は鳥がたくさんいる。

ジプシーコーブに近づくとき、そこは白砂を海浜性の植物が覆っている美しい浜。着くと、バスやタクシーがたくさん並び、観光客でいっぱい。ヨーク湾の白い砂浜を右に見て、ジプシーコーブに行くと、マゼランペンギンがたくさんいる。卵を抱いている。帰りには、ヨーク湾の砂浜で皇帝ペンギンをみた。



帰りも道草を食いながら自動車道路を外れ海岸線に沿って歩いてみると、子連れのアホウドリやカモの仲間の鳥を見た。アホウドリの雛は、全身茶色の毛で覆われている。繁殖地になっているようだ。スーパーマーケットに立ち寄る。通貨はフォークランドポンド (£) だが、US\$ が当然のように支払いに使える。

12時半に街に戻り、郵便局で切手を買ひ、絵はがきを15枚発送。送料16 US\$ でおつり45 P (ペンス)。その後、ホテルのレストランでフィッシュアンドチップスとビールの昼食 (19 US\$)。ここは、US\$ が使えるのを除くと、雰囲気がイングランドの町のようだ。US\$ を使うというと、レジを操作した後、ドル紙幣を受け取り、フォークランドペンスのコインをおつりによこす。どんなことをやっているのか、不思議な気がしたが、切手を買ったところでレジを使わないでこの計算をやっているのを見て、その謎は氷解した。あるレートで (当日は 1 \$ = 0.59 £) 表を作っておく。

1 \$	0.59 £	2 \$	1.18 £	3 \$	1.77 £	4 \$	2.36 £	5 \$	2.95 £
6 \$	3.54 £	7 \$	4.13 £	50 \$	29.5 £				

例えば、3 £ の買い物をする時、この表の 6 \$ をみて、6 \$ もらって 54 ペンスおつりを渡す、たったこれだけだ。レート毎に表を用意して、その日のレートの表を使う。単一の通貨しか使わない我々から見ると、複雑な計算をしているようだが、何のことはない生活の知恵なのだ。

ついでに言うと、紙幣は本国の紙幣も、フォークランドの紙幣も使え（同一レート）コインはフォークランドのコイン（形、大きさ、表のデザインとも本国と同じ。裏だけ違っていている）。英国領とはこういうものなのかと、納得。

町の外れ500mほどの博物館まで行く。石作りの教会や建物、途中150年以上前の難破帆船の残骸をそのままにして「名所」にしている。1982年のフォークランド戦争の戦勝碑、また第一次大戦でのドイツ艦との戦争の戦勝碑と並んでいる。博物館は小さい建物に、歴史・民俗・自然・戦争、いろいろ詰め込んで展示していて、結構見応えがある。フォークランド戦争で劇的な力を発揮したミサイルもある。ナショナルトラストがやつてるようだ。入場料5US\$。

3時半に、船着き場でテンドーボートに乗船。4時に帰船。

夕食は、ラムのステーキを頼んだが、これがとても大きな肉のかたまりで、食べ過ぎ気味。牛肉や羊肉を頼むと、大きいのが出てくる。

6時半に出航。ジプシーコーブを後に見て、南極海へ。途中、海底油田の油井をみる。この島の周辺には、資源があるのだ。夜8時から、映画館でスコットの物語。アムンゼンと南極点一番乗りを競った悲劇の探検家の映画であった。

使った通貨 51US\$

32813歩

1月29日(日) 第24日 終日航海

## ◎モンゴリアン・クックアウト

朝6時半起床、ウオーキングに出発。日曜日のせいか、人が少ない。デッキに出ると、ひどく寒い。外の気温5度。長袖に着替えて続行。

周りは霧で、視界は1kmないであろう。2分おきに5秒間霧笛が鳴り続けている。今日は、南極に向けてひたすら走る一日。

昼までかかって、昨日のスタンレーの記録整理、webの更新。

昼食は、モンゴリアン・クックアウトという、中華鍋をもつボーイがずらりと並び、各自で選んだ材料を持っていき目の前で料理してもらおう方式。二度目の催し。野菜・鶏肉・エビ・ムール貝・ハマグリに麺を持って行き、ニンニクとシヨウガ、オイスターソースで味付けしたヤキソバを作ってもらい食べる。

午後は、読書、ビデオ。船内のいろいろな場所で、適当に見つけて読書する。コーヒーも自由に持ってこられる。夕食は、前菜、スープ、シーフードカレー。

映画館で、マーチングペンギンという映画。皇帝ペンギンの生態の記録。極寒の南極で真冬に産卵し、雛をかえすが、なぜ条件の悪い所で・・・と思うが、天敵がいらない、他の生物との競争がないので、こう進化したのであろうか。

12267歩

1月30日(月) 第25日 南極クルーズ第1日

## ◎南極I 氷山・基地・ペンギンのコロニー

6時半起床、ウオーキングに出るも寒い！気温0℃。部屋に戻り、ジャケットを羽織る。7時頃初めて氷山を見る。ドレイク海峡を渡り、エレファント島・クラーレンス島沖を通過。雲がかかっているが、氷河は海に流れ込んでいる。

朝食後、ダウンにジャケット、オーバーズボンと手袋・毛糸帽子と「完全装備」で外に出る。寒い。氷山が流れている。昼は、カレー。

グラスフィールド海峡を進み、午後以南極海峡へ。右手が南極大陸に続く南極半島のトリニティ半島の先端、左はポーレ諸島、半島は氷河に覆われ、海に流れ込んで、氷山になっている。氷山が次第に大きくなり、数も増えてくる。

2時過ぎにホープ湾に入る。突き当たりに、アルゼンチンのエスペランザ基地のオレンジ色の建物が見えて来る。その右側一帯が、ペンギンのコロニーだ。近づいてゆくと、魚の臭いが漂ってくる。気のせいかと思ったらそうではなかった。目の前に見える海岸から丘にかけて、ペンギンのコロニーになっている。その数はおびただしい。地面が茶色に変色しているところが全部コロニーで、双眼鏡で見ると、黒い斑点が多数見えるが、これが皆ペンギンなのだ。海を見ると、海面に時々魚のような物が動くが、これがペンギンだ。

しばらく湾に停泊した後、引き返す。これまで外に出ていたが、気温は0℃、

時折強い風も吹き、とても寒い。手も顔も凍えてしまった。船内に戻り、一息つく。すると夕食の時間、パイ、スープ、シーフードのミックスグリル。

日の入りは9時50分、ちなみに日の出は4時20分。11時過ぎに暗くなり、3時には明るくなる。南緯62度。西経58度。気圧は964hPa。気温は0℃だとか。

明日は南極クルーズ第2日。どんな景色が登場することか。

17986歩

1月31日（火） 第26日 南極クルーズ第2日

## ◎南極Ⅱ 穏やかな天気と大陸氷河・聳え立つ山々

6時半起床。昨日とは打って変わって、風もなく、太陽も見える、穏やかな天気。真夏の南極は、こんな天気なんだ・・・と思わせる、*lovely*な日の始まり。一時間歩いて朝食。船の右も左も南極の景色（当たり前か）。夢のような中の散歩。朝食のあと、手早く記録整理。しっかり着て、外に出る。気温は8℃。天気は、晴時々曇り。青空が見えている。

左は南極半島、右はアンバー島。陸地は雪に覆われ、海岸から険しい岩山が聳え立ち岩肌をむき出しにしている。雪山のヒマラヤ巒も所々に見受けられる。海のすぐそばにそそり立つ雪山！氷河が海に流れ作られる氷山は、蒼い光を放っている。時折、ペンギンを乗せて流れていく氷山もある。

昼前、アルゼンチンのブラウン基地沖に到着、停泊。ここもペンギンのコロニーである。おびただしい数のペンギン。Antarctic Dream 号という（イギリスナショナルトラストの？）船が停泊していたが、出航していった。近くの海ではペンギンが泳いでいる。さらに、近くの、チリのゴンザレスビデラ基地沖に来る。こちらも基地の周りはペンギンのコロニーである。基地には、1952-2012と書かれた国旗がデザインされている。アンドボード湾に出て、北西を指して船は進む。

午後になり、曇ってきた。気温は下がり2℃。寒くなってきた。しばらく外にいて、室内に戻り、Webのアップ。写真の整理。今日の夕食は、フォーマル。慌てて着替えて、ダイニングルームへ行く。Ice Bleu Winter Ballとか言うテーマで青と銀の装飾。Ballが舞踏会、ダンスパーティーの意味だと、改めて知る。ロブスターのカクテル、コンソメスープ（ヘンリー四世とか言う名前の）、シー&ランドというエビと牛肉のソテー。

終わってから船室に戻り、写真の整理と映画を見る。明日が、南極クルーズ第3日。南極半島の西側を南下しており、窓からは11時になっても氷を戴いた陸地が見える。

16783 歩

2月1日（水）第27日 南極クルーズ第3日

### ◎南極Ⅲ 遙かに続く山脈・さらば！南極海

船は停泊したままであまりの静けさに、今日は寝過ごしてしまい7時45分起床。船室内と船室外の寒暖の差が激しく、体がなかなかついてこれず疲労がたまっているようだ。1時間歩いた後朝食。

船は動きだし、ビスマルク海峡を西に進んでいる。後ろに天気がよくなりかけた南極半島が見えている。右にずーっと行ったところが、大陸本体。雪を戴いた山脈が遙かに続いている。「未踏峰」だらけなんだろうなー、と思わず考えてしまう。地図で見ると、ひげが生えている程度のこの半島でさえ途方もない山と雪、氷河の世界であるので、大陸本体はどれほどの規模になるのか、想像もつかない。

昼までアンバース島の周辺にいたが、予定のコースが変わったようで、パール基地は経由せずに、これから800kmの幅のドレーク航路を北へ向かい、南アメリカに戻る。さらば南極海！一昨日から、驚きの連続であった。

小学生の頃、「鯨を追って」とかいう、南極捕鯨の話が国語の教科書にあったように覚えているが、その頃には、身近であった話題も、捕鯨の禁止、鯨が食卓に上らなくなる中で、次第に遠い世界に話になってしまったようだ。まさか、ここに来到ることになるとは、夢にも考えていなかった。

明日は、南米に戻り、ホーン岬からビーグル海峡を進むことになる。  
夕食は、キノコのパテ、コンソメスープ、チキン胸肉。

この時間に、鳥の群れが船とともに飛び回っている。これは、Cape Petrel（ケープミズナギドリ）という羽の長さ86cm、南極半島付近で巣を作る鳥。30羽くらいで群れを作り船についてきている。外気温2℃、GPSによると、日没は21:09、日の出は03:59だとか。

12354歩

2月2日（木）第28日 ケープ岬・ドレーク海峡クルーズ

## 荒れるホーン岬

南極を後にして、ドレーク海峡を一路北に、ホーン岬・南アメリカに向かって航海。ここは、昔からの航海の難所で、配布された「Cape Horn Certificate」（ホーン岬証明書）では、"particularly hazardous, owing to strong winds, large waves, strong current and icebergs; these dangers have made it notorious as a sailors' graveyard."と書かれている。「特に危険な、強い風、高い波、強い海流、そして冰山。これらの危険により、『船乗りの墓場』として悪名高い場所である」

この名の通り、明け方から船は揺れはじめ、ピッチング（縦揺れ）やローリング（横揺れ）が始まった。低い雲が立ちこめ、ときおり強い雨も混じる。



6時50分に起き、日課のウォーキング。ただし、プロムナードデッキは立ち入り禁止。2度ほどスポーツデッキ、スカイデッキを通ったが、ものすごい風(51ノット)。実は、aft(船尾)側の出入口にも外に出るなど書かれてあった。3度目からは、外に出るのはあきらめて船内をforward(船首)側の階段をデッキ1からデッキ9まで登り、通路を通り、aft側の階段をデッキ1まで降りるという「indoor」のコースで歩いた。

ちなみに、船の用語をいくつか。船首・舳先はbow、船首はforeまたはforward、船尾はaft、船尾・ともはstern、左舷はport、右舷はstarboardという名がついている。昔、荷の上げ下ろしは左舷で行い、舵を取る(star)板(board)は、昔の帆船は右舷に突き出たオールで舵を取ったかららしい。

ウォーキング後、シャワーと朝食、その後第3回の洗濯。

昼になり、ホーン岬に近づくにつれ、揺れは一層ひどくなってきた。食堂では、傾いて皿が落ちて割れたりしている。

これまで、南米と南極の間はなんとなくマゼラン海峡が分けていると思っていたが、ここに来てみて、次のようになっていことがわかった。

南米大陸⇨マゼラン海峡⇨フェゴ島⇨ビーグル水道⇨ナバリノ島オステ島ウラストン諸島ホーン島【ホーン岬】⇨ドレーク海峡(800km)⇨南極

地図で見ると、マゼラン海峡は細い水路で、途中にプンタアレナス(チリ)

がある。また、ビーグル水道の途中にはウシユアエア（アルゼンチン）がある。ホーン岬は、遙か800km先に南極がある。パナマ運河開通前は、このいずれかの海路が交易のためのルートだった。どこを通ることができるのかは、船乗りにとって死活問題だったのだろう。

午後になり、ホーン岬を回ると、波は収まってゆき、リッチモンド水道に入ると、風は多少あるものの、船は全く揺れなくなった。ビーグル水道（Canal Beagle Beagle channel）に入る。両側の陸地も近づき、穏やかな海を進んでゆく。

夕食時には、静かな海を見ながらの食事であった。スモークサーモンの前菜、ターキーのスープ、鱈のソテー。

13543歩

2月3日（金）第29日 ウシユアエア（アルゼンチン）上陸

### 世界最南端の街・ウシユアエアを歩く

夜が明ける頃には、世界最南端の街ウシユアエアに停泊していた。今日は、半日しかないので、早めに動く。6時半には起きて、ウォーキングを始める。朝食の後、8時半には出発。栈橋に横着けされているので、すぐに出られる。チャンスがあれば、マルティアル氷河の見物に行きたいが、どうか。

9時前に町に出たが、どこも閉まっている。旅行案内所もまだ開いていない。

途中ATMで、300ペソおろす。絵はがきを8枚購入（1枚4ペソ）。

9時になったので、ツーリストインフォメーションに行き、地図をもらい、マルティアル氷河のリフトの時間を聞く。始まりが10時半。ちよつとぎりぎりかな、と判断に迷う。リフトに乗り、終点から1時間弱だとか。すると、下りてくるまで2時間かかるとして、町に戻るのが1時。

とにかく、監獄・海事博物館に行ってみた。昔の監獄の建物を使って、海事（マリタイム）博物館、アートギャラリー、監獄博物館が同居している。入場料70ペソ。10時頃突然激しく雨が降ってきた。これは、とても氷河は無理かと思っていたら、すぐにやんでしまった。天気の変化が激しい。

博物館を出ると10時15分、タクシーで氷河の入口のリフト乗り場に行ってみると、10時半になつても動いていない。天気が悪く運行しないようだ。歩くと、2:30には船にもどれないので、カフェでタクシーを呼んでもらい町に戻る。

ゆつくりヤマナ博物館を回り（35ペソ）、郵便局に行き日本への絵はがきを出した。1枚9.5ペソ。ところが、5ペソと2ペソ2枚と0.5ペソの4枚、それも大きな切手を貼るので、はがき表面が一杯になつてしまった。

12時になったので、「世界の果て美術館」に行く。12US\$。コンパクトながらも、この地域の先住民 YAMANA のこと、ヨーロッパから来た船乗りのこと、このあたりの動物（時に鳥類）の剥製などである。特に、イギリスで、

YAMANA-ENGLISH DICTIONARY という本が出版されているのには驚いてしまった。その後、お土産屋などを見て、船に戻る。

この頃にはすっかり晴れて、とても気持ちのいい景色だ。街のすぐ後ろには、鋭く尖った岩峰と頂に氷河を戴いた峰々が見えている。パタゴニアの景色。3時過ぎに出航。ビーグル水道をマゼラン海峡にあるプンタアレナスに向かつて進んでいく。海事博物館を見た、ビーグル号の模型を思い出し、ダーウィンたちはあんな小さな帆船で、この水道を進んだのかと、すごさを感じてしまった。夕食は、アルゼンチンデーとかで、豆のスープとミックスグリル。

船は、細いビーグル水道を進んでゆく。両側には、氷河で削られた緩やかな丘や、海に流れ込む氷河などを見ながら・・・。

使った通貨 300ペソ = 70 US\$ 約 5600 円

12 US\$ 約 1000 円

26950 歩

2月4日(土) 第30日 プンタアレナス(チリ) 上陸

## 風の街プンタアレナスを歩く

明け方には、プンタアレナス沖に停泊していた。7時に起きて歩く。天気はよいが風が強い。丘の手前に街がある、のどかな光景だ。虹も出た。

朝食の後、支度をして、9時すぎ出発。テンダーは強風と波にもまれて大きく揺れている。10分ほどで船着き場。上陸すると、街の中心のアルマス広場までは歩いて10分ほど。整然と道路が通り、交差点には道路名が表示されているので、歩きやすい。人口11万人ほどの、チリ南部パタゴニア地方南部の中心で、マゼラン海峡（現地の呼び名はマガジャネス海峡）に面した港町であり、チリのマガジャネス州の州都である。銀行で通貨二万ペソ（4500円）を下ろす。

強風の中を歩き着いたアルマス広場は、巨大なマゼラン（マガジャネス）の像の周りに、土産物の露店が並び、いかにも観光地。マゼランは大砲の上に立っている。その下に、先住民の二人がおり、いかにも「征服者」と言った趣。この地には、アジアから北アメリカを経由して来た先住民たちが生活していたのだ。それを「大航海時代」のヨーロッパ人、特に南アメリカでは、スペイン人・ポルトガル人が「征服し」今日の国の形を作った。パタゴニアやフエゴ島の先住民の生活がどの博物館にも紹介されているが、「石器時代」の姿である。そこに鉄砲や大砲を持ったヨーロッパ人が押し寄せたのでは、戦いにもならない。日本の幕末の黒船どころの違いいではないのである。

この地の博物館を巡っていると、何かそういうもの悲しさを感じる。時代は遷り、南米の各国は独立しているとはいえ、その始まりはこういうことであった。アルマス広場隣のマゼラン博物館は、富豪の家をそのまま博物館にしてい

る。その当時のハイレベルの生活ぶりがそのまま残され展示されている。奥の方は、『征服時代』の展示。先住民の生活、ヨーロッパ人の到来、マゼラン海峡の発見、港町プンタアレナスの発展、という具合である。

プンタアレナスは、坂だらけの街である。港町の多くで見られるが、海に平行的に通りが坂の上にてきていく。しばらく坂を登ると、クロスの丘の展望台。街と港がよく見える。その後、サレシアノ博物館（2000\$）へ。ここは、サレジオ会の宣教師により造られた教会に付属する博物館。歴史・自然・民俗などの資料が展示されている。

それから、タクシーで4kmほど離れたパタゴニア博物館へ。ここは、屋外展示で、いろいろな車両、道具、建物がありおもしろい。映画の古い映写機の提示場で、黒澤明の羅生門のポスターを発見した。黒澤は偉大な監督だったのだ。となりがソナ・フランカという、免税ショッピングセンターになっていて、このフードコートで昼食。地図とカップを買った後、街にタクシーで戻る。郵便局は土曜日で午後は休み。スーパーで買い物をしてから、船に戻る。波止場の売店で先住民の仮面を買う。今回初のお土産らしい買い物。30 US\$。4時半を過ぎており、すぐに夕食。白身魚のソテーを食べた。

使った通貨  
30000ペソ（約4500円）

30 US\$（約2400円）

2月5日（日）第31日 プンタアレナス（チリ）上陸（予定外）

### ◎予定外のプンタアレナス停泊・日曜日には何も無い

今日は、チリフイヨルドクルーズの予定だったが、出航せずに停泊している。南太平洋にある強い嵐のため、航海スケジュールが変更になった。

昨日、プンタアレナスを出て、太平洋に出る予定を1日遅らせて、今日出航。従って、予定は次のように変わるとの連絡があった。

イースター島 2 / 10 ↓ 11、パペーテ 2 / 15 ↓ 16、パゴパゴ 2 / 18 ↓ 19

シドニー着は、変わらず、2 / 25 ただし、時間が早まり、10時だったのが8時30分になる。船長の臨機応変の変更であるが、長い旅になると、こういうことは起こるものである。予定変更に伴い、入港の予約、食料・燃料の積み込み、オプションの観光ツアー等々手間は大変なものだろうが、仕方がない。

というわけで、プンタアレナスにもう一日いた。朝はウォーク。強い風が吹き、大きな虹が出ている。朝食の後、2日分の Web 作り。11時頃完成したので、上陸しインターネットカフェから送信しようと、準備。テンダーに乗り込む。

船からは、インターネットに衛星通信経由で接続し速度は遅く、高い。（1分20円！）そこで、大きな写真は後から送るようにしているのだが、昨日、イ

インターネットカフェで FTP に接続し、45分かけてこの10日分の写真をUPしたのだ。インターネットカフェといっても、スペイン語表示のPCなので、ちよつと準備が必要。USBメモリーに必要なソフト、ファイルを入れて持って行く。スペイン語のOSなので、文字化けの画面に、テキストファイルから文字をコピーし貼り付けてソフトの設定を行い、データを送るのだが、スピードはそんなに速くなく、結局40分以上かかった。今日も、インターネットカフェに行ってみた。なんと！休み。今日は日曜日なので、ほとんどの店が休み。街を歩いても数軒しか開いていない。散歩をかねて昨日歩いた街をぶらぶらする。

南米の街には、犬がうろうろしている。つながれもせずに首輪もしていない犬が街の中の至る所にいる。時々けんかをしているが、人間には関心を示さないで昼寝をしているか、何かを探しているか、変な感じである。

缶ビールとワインを買って、船着き場に戻る。2時半には船に戻り、昼食。チーズバーガー。午後は昼寝と読書。すぐに5時半の夕食時間。

今日はスーパーボールサンデーとかで、それらしきメニューもあった。9時からホールで、テレビ観戦イベントがあるらしい。同席のアメリカ人にとつては、一大イベントのようだが、アメリカンフットボールはさっぱりわからない。ちよこつとホールの雰囲気を見てみた。アメリカ人たちと一ヶ月旅をしてきて、感じることもあるが、陽気だというのもその一つ。夕食の際、大笑いして





18372 歩  
 使った通貨  
 5000  
 チリペソ ≒ 10 US \$ ≒ 800 円  
 いるテーブルがいくつもあある。いちおう、きちんとしたダイナー会場なのだが。

## 第2章 南太平洋からオーストラリア

2月6日(月) 第32日 終日航海

### 荒れる太平洋・休養日

昨日書いたように、南太平洋における強い嵐のため、日程が変更された。プンタアレナスからマゼラン海峡を通り、太平洋に出て、イースター島へ行くのだが、嵐を避けるようにして、チリの陸地寄りのコースを取っている。それでも、マゼラン海峡を抜けて太平洋に出ると、うねりは大きく、6万トンを超えるこの船でさえ、ローリングとピッチングは結構大きなものがあつた。

午前中は、目は覚ましたが、体も重く疲労感もあり、船が大きく揺れプロムナードデッキも立ち入り禁止になつているので、今日は、休養日とすることに、ウオーキングは中止。昼までベッドで本を読んだりごろごろして過ごす。朝食は無し。部屋にあつたオレンジとリンゴで済ます。

昼に食堂に行くと、今日はメニューに、Udon Soup なるものがあるので、これと、Sushi してみる。うどんは麺が、寿司は米がいまいちなのだが、何とか食べられる代物ではある。というわけで、和食の昼食であつた。

午後は、多少はうねりが収まったものの、依然揺れている。

夕食に行くと、今日は客が少なく、我がテーブルも一人であった。毎日夕食に食べたものを書いてあるが、簡単に夕食について書く。

着席すると、ウェイターからメニューを渡される。前菜が4種類、スープとサラダが4種類、メインディッシュが6種類くらい書かれている中から、選ぶ。今日食べたのは、シーフードのカクテル、マッシュルームのスープ、シユリンプのソテー、最後にコーヒードである。デザートがあるが、こちらはパスしている。量や中身の細かい注文に応じてくれる。毎日がこんな感じ。

かくして今日は、一日中、うねりの中で過ごす、こういうこともあるだろう。小さい船なら夕食など言っていられないが、そこは大きな船の利点である。

485歩

2月7日(火) 第33日 終日航海

### 揺れと強風は続く：太平洋2日目

太平洋に出て2日目、昨日に比べれば収まっているものの、依然、うねりは大きい。昨夜、1時間時計を戻す。西に進んでいることがわかる。

目が覚めると7時過ぎ。時計を戻してなかったもので、実は船内時間は6時過ぎ。今日は、ウォーキングを行うこととして準備。揺れは相当なもので、風も強い。50ノットを越える風が当たっている。プロムナードデッキは、立ち入り

禁止。階段を歩く。一度、10階のスカイデッキに出たが、猛烈な風で、まっすぐに歩けない。帽子どころかメガネまで吹き飛ばされてしまう。運良く見つかったものの海に飛んだらそれで終わり。そこで今日は、インドアコースとする。

1時間歩き、ジムで体重計に乗るも揺れで測定不可能。朝食の後、ラウンジで読書。昼食（チキンコンソメ、ローストチキン、サラダ）の後、部屋で読書。

午後には天気は回復し、晴になる。気圧も1013hPa、気温12℃と回復したようだ。が、風は依然強く、南西から20ノットを超える風が吹いている。南半球だから、低気圧の渦も北半球と反対向きで、この風は南にある低気圧の中心に吹き込んでいる風のようなだ。デッキには出られない。嵐の中心を避けるように、船は直進航路よりかなり北を回り込んでいる。いつまでうねりが続くか？

午後には風が収まり、プロムナードデッキが開放された。夕食まで1時間半ほどあるので、腹減らしをかねて、1時間散歩

夕食は、スカロップフライ、スープ、フィッシュ&チップス

17302歩

2月8日（水） 第34日 終日航海

## 上陸地での言語

太平洋に出て三日目、今日はだいたい海は落ち着いている。昨夜も時計を1時

間戻したので、ひたすら西に進んでいる。7時からウォーキング。多少風は強いが、歩けないほどではない。

朝食の後、Webの更新。5階のインターネットカフェにパソコンを持って行く。と、安定的に54 Mbpsでアクセスできることがわかって、多少は気分的によい。が、1分20円の世界。Webは部分的なUPに留め、大きな写真は後にまとめてあげる。何せ、写真1枚で、htmlファイルと縮小写真8枚分に相当する。

その後、図書室（インターネットカフェと同じ）に行き、インドネシア語の本を、とリクエストしたら、ロンリープラネットのインドネシアしかないとのこととで、それを借りていくつかの会話文をメモ。数詞を知りたかったが、1〜10しか載っていない。後で、客室アテンダントのベン（彼はインドネシア人）に聞くことにする。イースター島までスペイン語圏だが、その後、フランス語、英語、インドネシア語、英語、ベトナム語、中国語（英語）、タイ語、ヒンズー語（英語）、アラビア語、ギリシヤ語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語と続く。どうせ時間もあるので、簡単な数を覚えるくらいしてもよからう。夕食は、フォーマル。今日は、海賊キャプテンブレリーのダイナーということ、ウェイターたちは、海賊の衣装をまもって仕事。エスカルゴ、スープ、ロブスターのクリーム煮を食べた。

2月9日（木） 第35日 終日航海

## 海里：ノーチカルマイルとノット

昨日に引き続き、イースター島へ向かって終日航海。経度は西経90度を越え、もうすぐ100度。総航行距離は一万海里を越えた。風はあるものの、天気はよい。気温も上がり20℃を越えた。Sea Stateも1に戻り、静かな航海である。太平洋（Pacific Ocean：ラテン語でMare Pacificum 平和の海）の名の通り、広々と水平線が広がっている。海の色は「蒼い」という表現がぴったりする、深い青だ。

イースター島への距離が800 nm（海里、ノーチカルマイル、Nautical Mile、1852 m）以下となった。この船は、18 kts（ノット、時速18 nm）で走っているので、あとざっと40数時間ということになる。海上での距離は、nmが基本で、1時間に1 nm進むのが1ノット（kts）というのが海上の基本単位だ。kmにすると18 kts ≒ 33 km/hでこれは、自動車が徐行してのスピードだから、意外と速い。

朝7時からウォーキング。気温が上がったせいか、長袖では汗が出てくる。日が昇ったばかりだ。シャワーの後、朝食。

昼まで読書。昼食は、3回目の、モンゴリアンクックアウトで、ヤキソバとチャーハン。午後からWebの更新作業。その後、m4aのファイルからmp3の作り方を発見。わかってみれば何ともないことだが、Webで自由に検索できない（高

い！）環境では、なかなか手間がかかる。iPod が動かなくなったときに、電子辞書で音楽を再生できるようになった。その後、読書続き。

夕食時間になる。蟹の前菜、スープ、OPAKAPAKA という白身魚のカレー風味ソテー。おいしかった。昨夜、古新聞を折り作った入れ子の箱が好評だった。部屋に戻ると、船会社の社長によるカクテルパーティーの招待状が来ていた。なるほど、パーティーの正式な招待状というのは、こういう風になっているのか、と感心。No R.S.V.P.required（返事は無用）などと書かれている。

13192 歩

2月10日（金） 第36日 終日航海

## インドネシア語の数詞

イースター島まで400 nmを切った。天気は穏やかで、航海日和。明日上陸。

朝7時前に起きたが、日は昇っておらず、日の出まで待って歩き始める。7時半近く日の出。風は多少あり。天気は晴。いつも通り1時間歩き、水分補給。気温が上がっているので、半袖でも汗ばむ。

シャワーの後朝食。レーズンパン、フルーツ、ヨーグルト、紅茶。

終わって、インターネットカフェで Web の UP、読書。部屋の掃除の時に、アテンダントのベンにインドネシア語の数詞を習う。数詞は十進法で三桁単位、

インドの影響だろうか。規則的である。

昼食は、ローストチキン、温野菜、サラダ  
午後は、明日の上陸に備え、資料を読む。

13274歩

2月11日(土) 第37日 イースター島上陸

### ひたすら歩いたラパヌイ Rapa Nui

イースター島 (Easter Island) || ラパヌイ (Rapa Nui 地元の呼び名) || イスラ  
ラプスカア (Isla de Pascua スペイン語チリでの呼び名)

朝6時過ぎテンドーボートを下ろす音で目を覚まし、起きると、船は泊まっている。周りは真っ暗。船の情報では、イースター島の北側に泊まっている。日の出が7時50分なので、暗い中ウォーキングを始める。周りは真っ暗。テンドーボートは下ろされている。南側に陸地、地図を見ると、アナケナビーチ沖に停泊している。気温は高く、天気は良好。風が若干あるくらい。

朝食、シャワー、支度。予定では、ハンガ・ロア村 (Hanga Roa) の沖に停泊し、テンドーで船着き場に入ることになっていた。フロントオフィスに聞くと、停泊地が変わったこと、ハンガ・ロアまではバスかタクシーとの返事。テンドーに乗って上陸する。



9時過ぎに出発。波が高く、着岸にだいぶ時間がかかり、10時近くに浜の船着き場の上陸。往復30US\$ だといっているのでこれしかないなら、と乗る。ちょうど人数一杯で出発。トラックの後ろに座席を付けた車の後部で窮屈にしていると、20分くらいでハンガ・ロア。ツーリスト (Insular レンタカー屋) に着き、『契約書』を渡してくれて、帰りは15時に来るように言われた。時に10時45分。火山ラノ・カウ (Rano Kau) に登る予定だったが、迷った末行くことにする。インフオメーションで情報を集めてから、と思っていたが、ここから、ひたすら南に行き、飛行場を越え、ラノ・カウに向かう。

船の旅行案内デスクで、ラノ・カウの標高は200mとのことだった。1時間で登れ、1時間で下れるな、と思いスタートしたが、これがどっこい。赤土の自動車道路沿いに登っていった。GPSの高度計が200mを越えてもさらに登って行く。山頂は陥没して火口湖になっており、周回ルートがあるようなので、途中から自動車道路を離れ、左手の歩道に沿って歩くと時々ユーカリの木に似た森があり、あとは草原。道を見逃したか、下り始めたので20分ほど戻り、火口壁に出る。すばらしい。ほとんど円形の火口湖が見える。海側は火口壁が崩れている。標高200mとは、この火口湖の標高だったのだ。火口壁は標高300m。ここまで一時間どころか一時間半かかってしまった。

火口壁に沿って3/4周すると、オロンゴの遺跡。時刻は12時半を回り1時

近く。水はあるが、食べ物を持ってこないのので、腹が減ってどうしようもない。空腹を抱え、火口壁最先端のオロンゴ遺跡に行く。ここは、チリの国立公園で、外国人の入園料が60US\$と、馬鹿高いのだ。きちんと管理されて、道標もあるのだが、景色のいい先端には長い行列ができています。札に、「定員五人」。これ wait している行列であった。時間もないので、さっさと出てきてしまった。15分で4800円。高い。

下りは、歩行者用の道を下る。これは、国立公園事務所からラノ・カウに直接登る道なのだが、知らなかったので登りは素通りしてしまった。下りは、空きっ腹を抱え、さっさと下りた。暑い。じりじりと暑い。

ようやく、街に出て、店で冷たいコーラとパイ、オレンジジュースを買って店先の椅子に座り食べた(4150ペソ)。うまかった。

が、時間はすでに2時過ぎ。当初考えていた行動は、カット。何とか、町の北にあるアフ・タハイのモアイ像だけは見てきたが、博物館も、民芸品市場も、インターネットカフェも、郵便局も、スーパーマーケットもパス。

とにかく、歩きに歩いた4時間余りで、3時にツーリストの店に着き、小型バスで移動、テンダーに乗り込んだ。アフ・ナウナウのアナケナビーチは、すばらしい砂浜で、ビーチに五体のモアイが立ち、海水浴客がたくさんいる。

イースター島は、火山でできた島で、九重山にある米塚のような、こんもり

盛り上がった溶岩の山が至る所にある。その大きなものの一つが、ラノ・カウである。ハンガ・ロアに着岸予定だったが、海岸は、波が高く、上陸地点を変更したようだ。おかげで時間がなくなり、残念なだったが、これも旅か。

久々に、空腹感と山歩きで疲れた一日であった。さらば、イースター島。思えば、この島の名を初めて目にしたのは、小学校四年の頃、ハイエルダーの「コンチキ号漂流記」を読んだ時。それから50数年。まさか、上陸するとは・・・。夕食は、Mahi-Mahiとかいう白身の魚のソテー。9時過ぎ、まだ日は落ちない。出航して2時間。遙か後方にラパヌイの島影。

使った通貨 90 US \$ (≒7200円)

4150 チリペソ (≒600円)

40555 歩!!

2月12日(日) 第38日 終日航海

## イースター島の悪夢

昨日のイースター島の続き。

太陽にじりじりと焼かれ、空腹で町でコーラとパイ、オレンジジュースにありついたことは昨日書いたが、その後のこと。

昨日は、暑くなることを想定し、500mlの水のペットボトルの他に、プンタア

レナスで買った保温カップにアイスティーを詰めて出発。飲んだ。買ったオレンジジュースは1リットル入りで、半分は飲んだが残ってしまった。そこで、保温カップに入れて持ったが、口が閉じられていなかった！

ぼけーっとして暑さのなせる技か？不幸は重なるもので、口を上に入れていれば、何ともなかったのに、そうでなかった。残り少ない時間、町を北に歩き、アフ・タハイのモアイに着いたとき、ザックが濡れていることに気づく。中がジュースの海！背中が気持ち悪いのは汗かと思っていたが、ちがっていた。

とにかく時間がないので、トランスファアのバスに戻り、船に帰る。帰って調べたところ、被害甚大!!

ザックや服は洗えば落ちるが、中に入れていた、電子辞書と携帯電話が濡れていた。水なら乾燥すると元に戻ることもあるが、ジュースやコーヒーは最悪。

電子辞書は液晶が壊れ、携帯電話はキーボードが接触不良。不幸が重なるとこうなる、という見本。辞書は、簡単なものももう一つと紙の本があるが使い勝手は悪く、携帯電話は、シムフリーにした Nokia 6630 に Mobell のシムを入れた全世界で使えるもの。この時代、電話がないというのも都合が悪い。「イースター島の悪夢」。さてどうするか。長い旅では何か起こるものだ。

今日は、また1時間バックし、日の出の時間が7時50分。7時過ぎから歩き、朝食、シャワー。そのあと記録整理。あつという間に昼になり、昼食は、ミ-

トパイ。午後は読書。穏やかな天気で、雲もなく、海は蒼く、航海日和。

夕食は、シユリンプの前菜、スープ、蟹ほぐし身と野菜のフライ。

昨夜より、インターネットに接続できない状態が続いている。インターネットカフェの担当者に尋ねると、『シグナルが弱くなっているから』とのこと。

13285歩

2月13日(月) 第39日 終日航海

## プール

船は南太平洋をひたすら西へ、タヒチめざして進んでいる。1時間バック。引き続き、航海日和。7時前に起きて1時間歩く。少しうねりがあるが、天気もよい。日の出が7時過ぎ。雲が切れて、とても美しい。26℃と気温が高くなっている。右舷から風。北から吹いている。

ちようど、南回帰線のあたりに船は来ている。このあたりは、イギリス領のヘンダーソン島やピトケアン島があるはずだが、島影は見えない。

朝食の後、カフェへ。接続が昨夜からうまくいかない。尋ねてみると、どのマシンもだめで、「シグナルが・・・」という返事。衛星通信を使っているし、大洋の上で障害物はなさそうなのだが、こういうこともあるのだ。

レンブラントラウンジで読書。昼になりもう一度インターネットカフェに行

くと、今度は接続できた。昨日分をアップ、メールをチェック。

昼食。塩味の「焼き鳥」を二本、牛肉、温野菜、ペンネ・トマトソース。

午後は、一休みの後、プールで1時間ほど泳いだり、甲羅干し。船内にはプールが二カ所あり、一つは移動式屋根付きで、もう一つは船尾にある『展望プール』。とてもさわやかだ。水着の跡がくつきりついていて。それから、読書の続き。船内散策。

夕食は、エビのカクテル、豆のスープ。フィッシュ&チップス&ピー

席上、次のタヒチに関連し、フランス語の話になる。少しわかるというと驚いていた。カナダは英語とフランス語が公用語だからみんな話すのかと聞くと、そうでもないらしい。特に、バンクーバーの方は、英語だけの人が多いみたい。ふと、去年の今ごろ何をしていただろうか、と考えると、夢でも見ているようだ。同じ24時間によくあんなにたくさんのことをやっていたよなー、と我ながら感心してしまう。

夜9時過ぎ、晴れているようなので、スカイデッキへ。日没後、時間がたっていないせいか、天の河はぼんやりしているが、金星、木星、シリウス、カノープス、αケンタウリ、βケンタウリ、オリオン、南十字と、明るい星のオンパレード。これだけ明るい星が見られるのは、日本では無理。12時過ぎにもう一度行くと、今度は天の川がくつきり。大マゼラン雲、小マゼラン雲も見える。

三脚を持ってこず、写真を撮れないのが残念。

14304歩

2月14日（火） 第40日 終日航海

## 海の色

船は南太平洋をひたすら西へと航海を続けている。今日も1時間バック。日の出は6時50分。朝は6時過ぎに起き、6時半にウオーキング開始。一層暑くなっている。その後シャワー、朝食。久々に洗濯。両替に行くと、10ドルでコイン40個のバックがあることを教えられ、購入（両替？）。洗濯を開始。

インターネットカフェでメールチェック、ウェブをアップ。途中で切断。このところ時々起こる。1000時間中残りが700余時間だから、順調に？使っている。

船は、フランス領ポリネシアに入ったようで、この近くにガンビエ諸島のMangareva 島やフランスが核実験を行ったムルロア環礁もあるはず。

洗濯乾燥を済ませてから、プールへ。天気は快晴。1時間でも日に焼けた。サングラスをかけてプールサイドで本を読むのも悪くない。

昼食は鶏肉、温野菜、フレンチフライ、サラダ。

その後、ラウンジで読書続き。途中で寒くなり、プロムナードデッキのデッキチェアに移動。目の前に、大海原。海の色は、青紫というか、群青色という

か、紺色というか、『青い』ではない色だ。なんとさえいいたらいいのだろう。そういえば、<sup>4000</sup>m級の山に登ると、青空が青から次第に深い（黒い）青に変わっていくが、ちょうどこんな色だったような記憶がある。

今日はバレンタインデーだとかで、船内新聞 Explorer にも、The History of Valentine's Day とか言う記事があるし、5階の売店あたりは、すっかりそんな雰囲気だ。昨日の夕食時に、日本ではと聞かれて、花ではなく、もっぱらチョコレートを買っている。チョコレート屋の儲かる日だといったら、笑っていた。先の歴史の記事を読むと、ますます日本のチョコレートが奇妙な感じだ。

夕食は、フォーマル。『バレンタイン一色』のお祭り気分。着ている服も、深紅が多いし、メニユーも、デコレーションもそう。アメリカでは、大人のお祭りなのだ。

14315歩

2月15日（水） 第41日 終日航海

凧

イースター島を出てから4日、船は仏領ポリネシアに入り、最大の島タヒチ島のパペーテ（PAPEETE）めざして進んでいる。天気は安定しており、来る日も来る日も、蒼い海を進んでいる。明日、到着の予定。



昨夜、時計を1時間戻す。朝6時に起きて、歩き始める。6時半頃夜明け。今日は雲が多い。風はなく、ただ船の進行に伴うもののみ。気温は高く、歩き終わるとうっすら汗をかく。船内は、温度管理されているので、デッキから船内に入るとひんやり感じる。朝食の後、ウエブ更新、メールチェック。

昨日のプールで日に焼けた後が少しひりひりする。考えてみると、ここ何年もプールとか海水浴にいついていない。理由は、肩を日に焼くと、ザックを担げなくなり、夏山に行けなくなるから。ということ、久しぶりの経験。その後読書。昼は、ローストターキーと野菜、サラダ。午後は、うとうとしながら読書。久々にパソコン相手に碁を打ってみる。

夕食は、2組の夫婦は8階のリドレストランでとるとかで、一人。(ニュージャーシーのフリーンは、体の具合が悪く、帰国したそうだ)。ムール貝(ムセルとっている)、ステーキ屋のスープ、シタビラメのソテー。キャプテンからと言うことで、ワインのサービス。

海が風いでいる。さざ波しか見えない。鏡のようだ。雲が海面に映っている。これまで1ヶ月以上航海してきたが、こんなことは初めて。船が進むので風は感じるが、無風状態。こういうことが起こるのだ！太平洋とは、こういう海なのかもしれない。ただ、帆船は進まなくて困るのだろうか・・・

2月16日(木) 第42日 パペーテ(タヒチ) 上陸)

## 快晴のち土砂降りのパペーテ

今日は、上陸が7時から、と早く接岸する。日の出も6時過ぎ。時計を1時間バックさせているから5時50分に起きて、歩き始める。外に出ると、タヒチ島。この島は一周百数十kmなのに、標高1mのオロヘナ山をはじめ2000m級の山がある。文字通り海からそり立っている火山である。

8時にギヤングウェイから降り立つと、花を配っている。ウクレレで歌を歌っている。太鼓をたたいて歌う一団もいる。これまでで『最高』の歓迎ぶり。ツーリストインフォメーションに行くと、地図もあり、行き届いている。さすが観光慣れしている様子がうかがえる。ATMと博物館への行き方を聞いた。事務所を出ると、看板。なんとフランス語、英語と並び日本語が書かれている。ここは日本人がたくさん来るのだとこれまでの訪問地との違いを認識。

目の前は銀行。ATMでおろせた。ただ5000XP F (パシフィックフラン) 指定すると、5000フラン札が1枚出たのにはまいった。ちなみに100XP F ≐ 1US\$ ≐ 80円。5000フラン札は400円札である。土産物屋で絵はがき5枚(@80F) 買い、くずした。

フランス語の世界だ。何年かぶりで聞き話すフランス語。本当は、ここに着

く前に復習しておこうと思っていたのだが、辞書が壊れてしまい、できなかった。(フランス語辞書のカードが入っていたので仏和・和仏、旅行会話が使えた)が、ぼちぼち思い出していった。

バス停に行き、200フラン払ってバスに乗る。海を見ながら30分ほどで「ここ、」と教えてくれ、降りたが店があるだけで看板もなにもない。店先で博物館はどこ?と聞くと、教えてくれた。かんかん照りの、舗装工事中の道をひたすらまっすぐ海側へと行くと、入口。ロケーションは最高。青い海、遠くに島、打ち寄せる波、海岸には椰子の木と南国リゾートそのもの。

博物館は9:30開館。600フラン。自然、歴史、民俗、西洋人の来訪、この地の王と展示がされている。ティキのレプリカや『あやとり』、船の展示が印象的。客は少ない。暑い。持っていた水もほとんど飲んでしまった。別棟で、台湾というテーマの特別展示があつたが、冷房されており、しばらく涼んだ。

出てから海岸を歩いた。『パンの樹』というのを発見。実がたわわになつている。見るのは初めて。海にはサーファーがいる。絵に描いたような景色。

戻ってスーパーを見つけ、水とジュースを購入。喉の渴きを癒していると、バスが来た。急いで乗り込み、パペーテへ戻る。12時半パペーテ着。いったん船に戻り、シャワー、昼食のあと見物・買い物に行く。海沿いの公園は美しい。マルシェの界限やショッピングセンターを見て回る。パール博物館には数組

日本人客がいる。15万円の真珠を買っていた。町には、日本人ガイドに連れられて土産物屋に入ってくる日本人一行がいた。数十個のお土産を包んでもらっているカップルもいる。道標に、日本語が書かれているはずだ。

出たところではらばら雨が降り出す。傘を出して歩いていると、ブーゲンビル公園のテントで、貝殻細工を作って売っている。雨宿りをかねて見て回る。小さなものを4つほど購入(4500 F)。雨はますますひどくなり、雷も。熱帯のスクールは話に聞いていたが、これほどすごいとは。いい経験だ。町の道路には水がたまりあふれるところも。洋服屋でパレオを買う。手がかがったものはさすがに高い。二枚求める(5800 F)。この当地の HINANO ビール(270 F×3)を買って、土砂降りの雨の中を船に戻る。

夕食は、8階のリドキッチンでタヒチ BBQ をやっているとかで、ひどく少ない。シーフードカクテル、スープ、白身魚のソテー。

雨はようやく8時頃上がる。5時間近く続いた土砂降りだった。スクールのものすごさ。すっかり日が暮れた夜の港の景色もいいものだ。

朝早かったせいもあり、9時頃に疲れて寝る。

使った通貨

10000 XPF (≠8000 円) + 5800 XPF (カード)

35091 歩

2月17日（金）第43日 終日航海

## 南太平洋からインターネットショッピング

昨夜はパペーテを10時頃離れたようだ。というのも、9時過ぎに寝てしまい、記憶にない。目をさますと3時。起きるわけにも行かないので、眠くなるまで、昨日の行動記録作成。1時間ほどしたら眠くなったので、また寝る。次に起きると7時。夜はとづくに明けている。

7時から歩き出し1時間。その後シャワー、朝食。それから、昨日の写真の整理とWebページの作成。文と写真の処理、HTMLの作成をシステム化したのでけっこう簡単にできるようになったが、結局アップするのに午前中かかってしまった。昼は、ウイナーシュニツツエルがあつたので、頂く。トンカツがなつかしい。

シドニーに妻が来ることになっており、そのときに、新しい携帯電話を持ってきてほしいので、船上からインターネットで注文した。今から20年前には携帯電話などなくても用は足りたのに、今はないとなんとも具合がよろしくない。モベルというイギリスの会社で、世界中のほとんどの国を網羅した携帯電話システムである。イギリスから電話していることになるので、使い方によっては安くはないが、それでも、基本料金はなく、使った分だけクレジットカードで引き落とし、有効期限なし、という、ほとんど使わないが「お守り代わり」で

時々使う使い方には便利。半年前にイギリスに行くときシムカードだけ買って？持っていたノキアの電話をシムフリーにして使っていた。この前のアクシデントがなければ、必要なかったのだが、今回は、シムカードだけでなく電話付きのものにした。約6000円。

南太平洋の真中からでも注文できて、日本の自宅に配達されるのは当たり前だが、考えてみると不思議な世界になっているものだ。

午後は読書、夕食は、前菜、スープ、鮭。

12739 歩

2月19日（日）第45日 パゴパゴ（アメリカンサモア）

## 忙しかった。パゴパゴ

朝6時前に起きる。日の出は6:20。6時にウォーキング。アメリカンサモアのツツイラ島（Tutuila）の島影は見えている。途中、日の出。東の空が金色に輝く、といった言葉がびったり。歩き終える頃、入江に入っていく。地図を見ると、パゴパゴは入江の一番奥にある町。波はなく天然の良港である。ただし、リーフが所々にあるらしく、船は赤と緑のブイの間を進んでいる。左側に、フラワー・ポット・ロック・ロックといわれる、ファトウロックとフティロックという名のかわいらしい島がある。接岸する。こんな大きな船でも接岸できる岸壁があ

るのは、この島がアメリカの太平洋艦隊の重要な基地として使われていた事によるのだろう。港の前は、フアगतゴの町（村の方が当たっている）。

ギヤングウェイを下りると、観光協会（Visitors Bureau）が机を広げ、お土産物屋のテントが20以上も立ちならんでいる。が、町の方は、日曜日のせいか、教会だけが賑わっており、他は休みである。ただ、博物館は、臨時開業らしく開いていた。狭いながらも、よく展示されている。あと開いているのは、マグドナルドと小さなスーパ―。入り江の奥の Pagopago に歩いて行くが、暑い！途中、「TSUNAMI」の看板を見つけた。何か所にも立てられている。この地形であるから、太平洋のどこかで起こった津波の影響を直接受けてしまうのだ。幸い平地が少なく、すぐに高台があるので、そちらのほうに逃げろ、と言っている。TSUNAMI は世界で使われている言葉なのだと改めて実感した。

Pagopago まで行くと、入江の奥から我々の船が見えるが静かなものである。ここでタクシーを見つけて「マウントアラバに行きたい」値段は20\$ + 20\$ が交渉し、半額の10\$ + 10\$ に。タクシーで着いたところが、国立公園の入口、そこに、マウントアラバまで、5.8 km とかいてある。あとで知るのだが、これが国立公園の「Mount Alava Trail」というやつであった。今日は自由時間が4時間しかないから山頂まではとても無理だが、熱帯雨林の山道を歩いてみるのでもいいかと、30分待ってもらった。歩き出すと、幅3 m くらいの広い道が続いてい

る。まわりは、熱帯の植物、花も咲いている。しばらく行くと、木の苗を育てている場所に出た。植林の準備だ。行くと、島の北側の海が見える所まで着いた。高度は270 m、歩いた距離は500 m。山頂が標高410 m、5.6 km先だから、まだ先だが、雨が降り始めたし、時間になったので戻ることにした。

このままフアगतゴに戻ると、残り2時間弱。港の前の店に入ると、食料品や雑貨を扱う店。中に、着る物を売っていたので、アロハシャツ(6\$)とポロシャツ(3\$) ワインとビールを買う。ここはアメリカ領だからUS\$。そのあと、ウツレイに行き、きれいなビーチを眺め船に戻る。お土産物屋でTシャツを買い、乗船。冷たいビールを飲んで一休みしてから昼食。

1時過ぎに、船が離岸した。昼食後、船室に戻ると、妙に眠くなり昼寝。すつきりして起きると、夕食。夕食は、一人だけだったので、静かな食事をとった。焼き鳥に似た前菜、イタリアのスープ、ワインナーシュニッツェル。

使った通貨 70.75 US \$

28518 歩

2月20日(月) 第??日 日付変更線を通過

失われた一日、日付変更線を通過



この船旅で、2月20日(月)は、存在しないのだが、そのあたりを。

フィジー諸島あたりを経度180度(東経・西経)の線が通っている。この線の境界を日付変更線(International Date Line)が走っており、今回の旅では、サモア諸島とフィジー諸島の間である。この線を、東から西に越えるときには、24時間遅らせる、西から東に越えるときは24時間進める、という時計の操作をすることに なっている。こう言われてみると、わかった気もするが、何となく、しっくりこなかった。これまで北アメリカに飛行機で行くと、『昨日に戻った』ということは体験していたが、なんだか実感が持てないでいた。

この話は、そもそも、マゼランの艦隊が初めて世界一周して、母国に戻ったときに、航海日誌の日付が1日足りない、という話が有名である。

『俺の2月20日は、どうなったの?』と素朴に聞きたい気分である。

さて、飛行機で行くと、なんだかだまされたようだが、船でゆっくりこの線を越えていくと、何となく実感できる。マゼランたちの『失われた一日』はどこにいったのだろうか? それは、1日≡24時間、と考えると、謎になってしまうのだが。マゼランたちは、西に15度進むたびに、一日を25時間で生活してきたのだ。その1時間が24個積もると、一日になる。失われた一日は、一時間ずつに分けて、生活していたのだ。祖国の人たちは、一日24時間で暮らしていた。だから、決して時間は失われていない。失われたのは、日、なのである。

飛行機で飛んでしまうと、このあたりがよくわからないが、船の早さなら、実感できる。これも船旅の醍醐味であろうか。

2月21日（火） 第46日 終日航海

## 感謝祭のMardi Gras Afloat

6時起床、前に述べた事情で、19日の翌日は21日になっている。天気曇り、日の出6:20、気温27度。例によって、歩いて、シャワー、朝食。

今日は、散歩中に3階プロムナードデッキに、鳥がいた。渡る途中に力尽きたのか、じっとしている。人を恐れる様子もない。時々毛繕いをしたりして、動くのだが、場所を変えない。こういう事もたまにはあるのだ。

さて、昨日から、Mariner Appreciation Daysとか言うのが始まっている。『海の感謝デー』？特に、今日は、Mardi Gras Afloatとなっていて、8階の食堂は、なにやらデコレーションがされており、イベントもあるらしい。魔法使いの絵が描かれたものが貼られている。「Mardi Gras Ⅱ ざんげ火曜日（謝肉祭の最終日）」とあり、カーニバルの最終日か、と。ただ、宗教上の意味はよく知らない。

ということ、今日は、5時からパレードがあるらしい。その後、食事のシフトも変更され、8階食堂に出店のようなものが多数出て、また、メインダイニングは、オーブンシーティングで時間も変わっている。

午前中、Webの整理、アップとメールのチェック。読書。昼は、春雨の炒め物、鶏肉と野菜。午後、読書続き。

さて夕方5時に8階のデッキにいつて見ると、お祭り騒ぎ。デコレーションの中で、バンドの演奏はあるわ、食べ物屋台は出るわ、酒も配っている。パレードとかで、仮装行列がプラスチックのコインや首飾りを配って歩いている。すごい熱気。この中で、日本人乗客、横浜の木内氏らと知り合う。彼らはブエノスアイレスからシドニーまで乗船とのこと。久々に日本語で話をした。ビールとワインで食事をし、8時過ぎ船室へ。騒ぎはまだまだ続いていた。

15036歩

2月22日(水) 第47日 終日航海

## 1300人の入国審査

今日も1時間バツク。7時少し前に起床。歩いてからシャワー、朝食。

リドデッキは、昨夜の大騒ぎの跡形もなくなっているが、構造物だけは残っている。たった一夜の数時間のためにこんな大がかりな準備をしたのである。それだけ、「お祭り」が重視されていると、改めて実感。

オーストラリア上陸のための入国審査は個別に行われるとかで、グループごとと呼び出される。これまでは、いつやったのかわからないが、港に着くと、

全く意識せずに上陸し、また乗船した。イミグレの手続きは今回がはじめてである。9時、第5グループから始まったが20〜30分で1グループ進んだだけなので、私の第13グループは11時過ぎ。1時近くまで2人の審査官が一人ずつ面会し、審査をやっていた。1300人の入国審査だから、大変だ。ただ、港についてこれをやっていたら、何時間もかかるから、船内でやっているのだろう。

10時から次の上陸地シドニーについてのプレゼンテーション。1時間弱やっていた。話すのが早くて聞きとれないが、画面の文字と写真は参考になる。

ところで、ニューカレドニアのリフー島だが、日程変更で寄らずにシドニーに行くようだ。残念。ま、いいか。ニューカレドニアには、またの機会に行こう。「天国に一番近い島」は、なかなか遠い。

今日は、9階スポーツデッキについて。網の中にあるバスケットコート、テニスコートと、一周200mくらいのデッキがあり、ここはジョギングもOK。さらに、同じ階に、トレーニングジムがあり、たくさんのトレーニングマシンと小さな板張りのスペースがある。ここでは、ストレッチやバイクなどが行われている。同じ階に、スパがあり、ここは、美容室とサウナなどがあるようだが、使ったことがないのでよくわからない。その気になればけっこう運動もできる。

夕食は、前菜、スープ、アラスカズワイガニ。

13154歩

2月23日（木） 第48日 終日航海

## 海の感謝日カクテルパーティー

今日は、少し遅れて7:10分起床、日はすでに高い。歩いていると、アホウドリが2羽、船の周りを飛んでいる。のんびりしたものだが、歩き終わる頃には5〜6羽に増えていた。朝食後、1時間ほど写真撮影。見ていると、餌を求めて海に突入して、しばらく浮き上がってこない。1分たち2分たち。かなり長い時間だ。この鳥も、進化の中で魚を捕らえられるように、こうした特性を身に付けたのだろうか。時々、海面をトビウオが飛んでいる。これを狙って低空飛行しているのか。

Webの整理をしてアップ、メールチェックのあと読書。もう昼になり、昼食はローストターキーと野菜、サラダ。

午後、読書をしてから、ジョギング。手始めに20分。その後しばらく歩き、汗をびっしょりかく。シャワーを浴びて、簡単に洗ったものを乾燥機で乾かす。

そうこうしていると4時過ぎ、今日は、Mariner Appreciation Day Cocktail Partyというのが4時15分からある。フォーマルの日。大急ぎで着替える。

パーティーでは、船会社の社長が来ており、写真撮影の行列ができていた。バンドが演奏し、酒が配られ、踊っているカップルもあった。しばしののち、司

会者が、功労者の紹介をし、終わった。

夕食も飲み物が無料で振る舞われていた。前菜、スープ、ロブスター。

部屋に戻ると、記念品とかで、ティファニーのクリスタル容器が配られた。

16502歩

2月24日（金） 第49日 終日航海

## 世界遺産の島ロード・ハウ島

6時前起床、日の出が6:20、6時には歩き出す。

すると、またはや珍客が。プロムナードデッキの隅っこに、鳥がいるではないか。カモの仲間のようだ。じっとして、動かない。50分後に戻ると、いなくなっただけだが、どうなったのだろうか。

朝食のあと、Webのアップ。プロムナードデッキで読書をしていると、右舷に島影が。ふたこぶラクダのような島である。接近していると、食事仲間のベラが反対側に岩の島がある、この島は世界遺産なのだ、と教えてくれる。これが、ロード・ハウ島 (Load Howe Island)。オーストラリア領。船は、2つの島の間を進んでゆく。アホウドリも飛んできて、1時間ほどのショーであった。岩の島は火山だという。鋭く尖った山頂もすごい。絵に描いたような島だ。

見終えた頃昼食。読書。それから、部屋でビデオ、それから20分ジョギング。

夕食は、シドニーで下りる2人の日本人男性木内氏らとともに、リドデッキで取る。久々に、日本語で長い時間話をした。そこに、だいぶ前に会った2人の日本人女性も合流して、5人で歓談。8時過ぎ終了。明日の上陸準備。

16248歩

2月25日(土) 第50日 シドニー上陸1日目

### 船をビジターで見学後、ロックスへ

6時前起床、1時間歩き朝食。今日はシドニーに着くが、このシドニーうちのカミサンが来て、4日間過ごすことになっている。待ち合わせ場所は、町の中心部のホテル。8時着岸、9時半下船。

ATMを探してマーケットストリートへ。シティバンクの店舗発見。待ち合わせのピット通りのホテルに10時過ぎ。荷物を預け、まず船の見学。

Guest Visitor Requestという制度があつて、寄港地の72時間以前に、フロントオフィスに届けておくと、ビジターとして乗船できる制度があるということ。先週、食事仲間のブライアン夫妻から聞き、書類をもらい手続きをしていた。実際には、氏名、続柄、パスポート番号を記入し、提出。すると、寄港地の乗船口のセキュリティ管理の受付デスクに登録され、そこで名乗ると、パスポートと引き替えにビジター乗船カードを渡され、そのカードを見せて船に乗る、

とういうやり方。これまでの寄港地でもあったようだが、寄港中は船にいないのでこうなっていると知らなかった。

船には、たくさんビクターが来ていてにぎやかだった。船内を案内し、昼食後下船。シャトルバスで、サーキュラーキーへ。ここは、観光の中心でいつもにぎやかなところ。オペラハウスに行き優雅な白い貝殻の姿を眺める。次にロックス。ちょうど土曜日のせいか、テントのマーケットはにぎやか。このマーケットは、売っているものが多彩である。それから、ハーバーブリッジを歩く。今から80年ほど前に作られた鋼鉄の橋。歩道を真ん中過ぎまで行き、戻ってくる。景色はとてもいい。ロックスに戻ってから、食事仲間のマルコムに出会い、カミサンを紹介。

その後、ジョージストリートを南下、クイーンビクトリアビルを通って、宿へ。一休みのあと、中華街へ行き、中華料理の夕食。中華街はにぎやかである。帰りに、セントラル駅に寄り、明日行く予定の、ブルーマウンテンへの列車を調べる。セントラル駅は、数年前に、インディアン・パシフィック鉄道で大陸横断したときのスタート地点で思い出深い駅だ。

42621歩

2月26日(日) 第51日 シドニー上陸2日目



## ブルーマウンテンへは鉄道で

今日は、シドニー近郊のブルーマウンテンを尋ねる一日。ブルーマウンテンへは、ツアーがたくさん出ているが、マイペースで列車で行き、のんびり回れるところをまわり、帰ってくることに。

前日、セントラル駅に行き、カトゥーンバ (Katoomba) 行きの列車の時刻を尋ねると、不思議な紙片を渡され、毎時15分だといわれた。その紙には、「Eddy Av から、途中の Penith までバスで行き、そこで鉄道に乗り換える。2時間半くらいかかる。」と書かれていた。不思議だな、と思いながらも7:15にEddy Av を出るバスに乗ると、Penith まで1時間くらいで着き、そこで列車に乗り換え、カトゥーンバへ。駅の掲示を見ると、よりによって、この2日間だけ、鉄道の工事で、ブルーマウンテン線が運休になり、Penith までバスの代行運転になっていたのだ。いつもより時間がかかるが、とにかく10時過ぎに着き、駅前から南にカトゥーンバストリートを歩き始める。この町は、こぢんまりとした町で、10分も行くと店はなくなり住宅地。広い坂道を下る。

20数分でエコーポイント。ここは、スリーシスターズと呼ばれる奇岩やジャミセンバレーと呼ばれる雄大な渓谷の景色を見るポイントである。雲が一部に出ていたが、雄大な景色を堪能した。それから、プリンスヘンリー・クリフウォークと呼ばれる道を通り、シーニックワールドへ行くシーニックスカイウェイ

イという黄色いロープウェイまで歩く。このクリフウォークの道は、一部が通行止めになっており、自動車道路を歩くことになった。

ロープウェイ駅の周辺は、山火事があったらしく、木の表面は焼け焦げている。それでも、新しい芽が出ている木もあった。ロープウェイに乗るとカトウインバフォールという滝を見ることが出来る。これはとても高い滝で、下の方がどうなっているか見えないくらいである。ロープウェイの終点からまた、ぶらぶらと町へ戻り、途中バーガーの昼食。

カトウインバ駅に戻り、戻る列車で次の駅のルーラ (Leura) で途中下車。これは小さな村だが、駅前になかなか楽しいショッピング街ができている。観光客もけっこう来ていた。木製の糸紡ぎ器械で羊毛から糸を紡ぎながら、その糸で作った編み物を売っている。初めて手で糸を紡ぐのを見た。1時間後の列車に乗り Penih まで行く。ここからバスに乗るのだが、ダイレクトにセントラルに戻るバスに乗らず、時間がかかりシドニーが6時になってしまった。宿に戻り、一休み。

夕食は、パブでフィッシュアンドチップスとシーフードプレートにビール。2日目が終わった。

2月27日(月) 第52日 シドニー上陸3日目

## シドニー名所巡り

朝食ののち、Citibankへ、ところがATMマシン2台とも「動かない、後で来い」と、日本の銀行が聞けばびつくりするような表示。9時半なのに・・・。  
ダーリングハーバーに移動。すぐく整備されている。はじめに、National Maritime Museum(国立海洋博物館)。全部見るなら35\$、母屋だけなら7\$。全部見ている時間はなさそうなので、母屋だけにしたが、潜水艦に入ったり、軍艦に乗ったりと、その気なら半日以上楽しめそうだった。

次に水族館。ここでは、ワイルドライフ、タワーと三つで60\$の券を買う。水族館は、南極周辺の海の模様(ペンギンも泳いでいた)から、熱帯の海に至るまで、多様な展示。巨大水槽のサメがすごい。

となりが、ワイルドライフという建物。ここでは、オーストラリアの典型的な生き物が飼われている。コアラを間近に見、カンガルーその他固有の有袋類を見られる。笑いカワセミもいた。しかし、カモノハシ(プラティパス)が見られなかったのは残念。

そのあと、パイとサンドイッチの昼食。Citibankに戻るも、まだATMは動いていない!となりのショッピングモールにATMがあると教えてもらい行ってみると、確かにあった。なぜ朝教えてくれなかったのだろう。

ここで、KINOKUNIYA を発見。三階まで上がって覗いてみると、なんと日本語の本が多数あるではないか！シドニーはこういう店が営業できるほど日本人が多いのだ、と改めて実感。『カウラの突撃ラツパ』を購入。590円が7.50\$。となりには、一番星という食堂も。カツ丼やラーメンもある。ここなら、日本食が食べられる、と記憶の片隅にインプット。

フリーのバスでサーキュラーキーに行き、タロンガ動物園行きフェリーに乗る。動物園入園料とセットで51\$。フェリーはわずか10分余りだが、海の上からシドニーの町を見られる。緑の多い、そして高層建築の多い町だ。

動物園駅に着くと、スカイサファリというゴンドラで、ゾウなどを見ながらつっぺんへ。ここからゆつくりと歩いて下つていくと、動物園を見られるという設計。世界各地の動物がいるが、やはり圧巻はオーストラリアの生物。ついにカモノハシ（プラティパス）を見た！タスマニアデビルは見られなかった。獾もいた。

フェリーでサーキュラーキーに戻り、ロックスでビール。

夕食は、シドニータワーのブッフエ50\$。そろそろ日暮れ時で、次第に灯りがともっていく。食後、展望台（Tower eye）で夜景をみて、『南半球で最も高いところにある郵便ポスト』に絵はがきを投函。宿に戻る。

26715 歩

2月28日（火） 第53日 シドニー上陸4日目

## シドニー名所巡り（つづき）

朝食ののち、帰国するカミサンを見送りに、電車で10分ほどで空港へ。思ったよりこじんまりした空港だ。空港から戻り、St.Jamesで下車。砂岩の建物が続く中を、NSW州立美術館へ9時過ぎ。高校生の団体が待っている。

開館が10時ということなので、となりのボタニカルガーデンへ。一時間ほど広い園内を歩く。とにかく、町の真ん中にこんなに広い庭園があるのがすごい。広々としたところに巨大な木、また美しい花。散歩している人の姿も見える。朝のことで、様々な職員が園の手入れをしている。

ブリッジストリートのシドニー博物館（10\$）。ここは、植民地時代に政庁が置かれた場所。シドニーの古から今日までの展示を見る。

ボタニカルガーデンに戻り、熱帯植物の温室（5.5\$）を見る。園内には、様々な鳥がおり、大きなコウモリも木にぶら下がっていた。

州立美術館へ。常設展の他、パリのピカソ美術館からのピカソ展が行われており、入場（25\$）。パリから持ってきただけあって、展示数はとても多い。青の時代から桃色の時代へ、キュービズムへと作風の変化がよくわかる展示で、量的にも満足できるものであった。

昼になって、ジョージ通りにある紀伊国屋となりの食堂、「一番星」へ。け

っこう混んでいる。カツカレーを食べた。日本の味。12\$。

今夜の宿に移る。今宵は、煉瓦づくりの古い建物、50年？けっこう騒々しい部屋だ。一休みして、中国庭園へ。6\$。結構広い公園で中に池や滝もある。マーケットをのぞいて宿に戻る。4日間の記録整理。

夕食は中華街の中にある、「味千」という熊本ラーメンの店。ネギラーメンと餃子という、日本では何のこともないものを、「感慨を持って」食べた。16\$。夜は、記録整理のつづき。

30525歩

2月29日(水) 第54日 シドニー上陸5日目・ケアンズへ移動

### シドニー名所巡り(つづき)

今日はシドニーからケアンズへ、一足先に出ていった船を追いかけて行く。飛行機が午後1時30分発なので、午前中は、オーストラリア博物館とハイドパークに行く。宿に荷物を預け、出発。9時にハイドパーク脇の、オーストラリア博物館へ。開館まで公園を一回り。広い公園で、木や花、鳥もゆったりしている。博物館の隣にあるセントメリーズ大聖堂は、天に向けてそそり立つ2本の尖塔が印象的である。中は、美しいアーチにより広い空間が作られ、窓のステンドグラスもすばらしい。

9時半に入った博物館（入場料15\$）では、TWARRA KUU THE CANNING STOCK ROUTE という名の特別展を行っていた。オーストラリア西部のアボリジニの文化についての展示である。入るとすぐに、「白瀬日本南極観測隊100周年記念」とかいふコーナーがあり、びっくり。

特別展で展示されているアボリジニの絵画を見て驚くのは、その色、形の鮮やかさである。美術館に行くのは好きだが、現代美術だけはよくわからない。西洋の美術が何百年もかかってたどり着いた現代美術の諸作品と、このアボリジニの絵と、違いがわからないのである。ただ、アボリジニについての展示は、この国の歴史を物語っている。一番衝撃なのは、彼らを繋ぐための、首輪。この現物がこれに繋がれて撮影された写真とともに展示されている。館内を見て、ミュージアムショップで買い物した後、空港に向かう。

1時30分に離陸。ケアンズまでは3時間弱。機内食まで出た。着くと、1時間時計を戻したので、3時半に着く。空港のカウンターで、バスの券を15\$で購入し、船まで行き、乗船。4日ぶりに船に戻る。

夕食は、リド・レストランで取る。今日は、Outback BBQ だとかで、プールサイドにカウンターが並んでいる。そこでブライアン夫妻に会い、一緒に食事の中に、予定が変わり、この船は今夜3時に出航すると聞く。明日もケアンズのつもりでいたので、びっくり！

3月1日（木） 第55日 終日航海

## シドニーで補給したもの

暦も3月になってしまった。今日は引き続きケアンズ上陸の予定だったが、船にいない間に変更され、午前3時に出航してしまい、航海の一日となった。何でも、「Tideの理由」だそう。Tide ≡ 潮だが・・・。

朝6時に起床し、いつもの日課、ウォーキング、給水、シャワー、朝食。さすがに、体が重く感じるのは、昨日まで遊び回っていたせいかな？

食後、いろいろと片付け。洗濯。その後読書。昼食後、また読書続き。さて、シドニーで「補給」したものは次の通り。

1. iPhone、これは、1月に持つてくるのを忘れたもの。
2. 温度計 船では、華氏 (F) が主流で、上陸しても温度を知りたい。
3. 小型ノートパソコン、上陸時 WIFEでネットにアクセスするためと予備。
4. 延長コード、コンセントに三ツ又プラグを差すと照明スイッチに触れるため。
5. デジカメ・バッテリー・充電器・リモコン、予備のデジカメ。
6. 電子辞書と予備電池、壊れた電子辞書の代わり。



7. 携帯電話と一式、壊れた携帯の代わり。
  8. 皮膚の塗り薬二点、完全空調だから乾燥して具合が悪い。
  9. DVD-RW ディスク、繰り返しDVDを作り、室内のプレーヤーで見られる。
  10. 緑茶2種、ティーパック（12袋入り）と粉末緑茶（40g）詰め替え容器。
  11. 「ビーグル号航海記」全三冊、岩波文庫・絶版になっていたようだが、重版が出ていた。これまでなかなか読む機会がなかった。
  12. 新聞・雑誌・文庫本、そこらにあつたもの。「活字に飢えているかと」
  13. 電池予備、デジカメ電池とニッケル水素電池。
  14. 手帳、出発の時忘れたもの。
  15. 英会話の本、出発の時忘れたもの。
  16. 油性細字フェルトペン、何回か上陸し探したが適当なものが見つかった。
- 船は、ゴールドコーストの海岸沿いを走っており、3時過ぎに、Lizard島の脇を通った。それから、小さな島々の間を通るうち、日が暮れてしまった。夕食は、サーモン燻製、スープ、リブステーキ。海の暮らしの再開だ。

11754歩

3月2日（金） 第56日 終日航海

## 船の上で物理実験

船は、オーストラリアの北部、ヨーク岬半島に沿って北上。グレートバリアリーフと言われる一帯を航海の後、トレス海峡 (Torres strait) を通り、アラフラ海へと進んでゆく。

朝6時起床、ウォーキング、日の出は6時30分である。積雲が至る所に湧き出しているが、その合間を縫って、美しい日の出の光景を見ることができた。海は静かで、風もなく穏やかである。

トレス海峡に入る手前が珊瑚海 (Coral Sea)、半島の先端ヨーク岬の先にあるハモンド島 (Hammond Island) 木曜島 (Thursday Island) プリンズオブウェルズ島 (Prince of Wales Island) の北側を回り、海峡を通過する。

木曜島というのが、真珠貝の採取で戦前から日本人の潜水夫たちが活躍していたことを、シドニーで購入した本「カウラの突撃ラップ」で知った。同時に、このあたりまで、第二次世界大戦で、日本軍が進出していたことも改めて知る。

朝食の際に、この船に乗り組んで働いている日本人セラピストの、ナオさんと同席。少しお話をする。オーストラリアの美容学校で学び、ロンドンの美容の会社に勤め、この船に派遣とのことで、話のスケールの大きさに驚く。先週末の日本人5人の会食について話すと、残念がっていた。現在、この船の日本人は、知る限りでは、ロサンゼルスと板橋の姉妹、私、ナオさんの4人である。船は、左舷に島を見ながら進んでゆく。このあたりは、海の色は、緑である。

海の深さや、温暖なので生物の多さなどが影響しているのだろうか。

さて、今日は、ただデッキを歩くだけでは能がないので、GPSを使って、「物理実験」を行った。GPSは地球に対して動く速度を測定できる。船は進んでいる。GPSで速度を測ると、 $36\text{ km/h}$ くらいだった。GPSを持って、船のプロムナードデッキを $4\text{ km/h}$ の早さで進行方向に向かって歩くと歩くと約 $40\text{ km/h}$ と早くなり、反対向きに歩くと、約 $32\text{ km/h}$ と遅くなり、理論通りの速度が表示される。当たり前のようだが、ここで、進むのが人ではなくて、光だったらどうなるか？というのが、アインシュタインの特殊相対性理論の入口になっている実験だ。これまで、頭の中ではわかっけていても、なかなか「動いているものの上で方向を変えて動いて速度を測る」という実験はできなかったが、今回できた。（光の場合は、どちら向きに動こうと同じ速度だ、というのが特殊相対性理論の結論）

午後から読書。夕食は、テリリーヌ、スープ、白身魚のソテー。

部屋に戻ると、Great Barrier Reef Certificationなる書類が……。

シドニー滞在中使った通貨  $721.55\text{ A\$}$

カーズ  $95.17\text{ US\$} + 120\text{ A\$} + 265\text{ A\$}$

13323 歩

3月3日(土) 第57日 終日航海

## オセアニアからアジアへ

ちやうど今回の旅も折り返し点、残り半分となった。今日は、オセアニアからアジアへ。国で言うと、オーストラリアからインドネシアへ向かう海の上。時計を1時間バックするようにと昨夜の連絡。1時間遅らせたのと、西へ1日走っていたので、日の出が1時間半早まり6時すぎ。6時10分の歩き始めには、すでに日は昇っていた。天気は曇り、風はなく波もない、静かな航海。

船はアラフラ海の南、オーストラリア寄りを見西に進んでいる。オーストラリアの北の町ダーウインの近くを航行する。

大戦初期に、日本軍機がダーウインを襲撃し、その際被弾した零戦パイロットが不時着したのが、今日我々が通っているメルビル島であった。歴史の時間に地図を見て知ってはいしたが、改めて、日本軍はこんなところまで来て戦争をしていたのか、という驚きを新たにした。

さらに、ダーウインは、映画「オーストラリア」の舞台でもある。オーストラリアの「大陸縦断鉄道」の終点でもあり、いざれ訪れてみたい土地である。アラフラ海というと、子供のころみた月光仮面だったかで、かすかに記憶していた。静かな海を船は進んでいる。蒸し暑さとともに時折雨が降っている。船は1日でインドネシアのコモド島に着く。ここはもはやオセアニアではな

く、アジアの一角である。北アメリカを出航し、南アメリカ、南極、オセアニアを経て、ようやくアジアに達した、と思えば2ヶ月の長さを感じたりもする。昼食は、日本人乗客の女性たち（LAと板橋の姉妹の他に、アメリカ在住50年の KEIKO さんという方）と取った。あと中国の陳さん夫婦。その後、ラウンジで開かれた、Exploration Speaker Series という名の講演会で、NASA の研究者である Greg Ojakangas 氏の From Saturn to Indonesia: Volcanoes of Ice and Fire という講演を聴いた。インドネシアの火山にまつわる話と惑星探査機の観測成果として、木星、土星や天王星の衛星の「氷の火山」の話であった（もちろん英語）。

夕食の時間、今日は、前菜は、tuna sashimi と書いていたが、マグロのたたき、蕎麦と野菜が付いていた。うまい蕎麦を食いたい！スープは、蟹入りチャウダー、それに、ドーバーソールのムニエル、最後にフルーツとコーヒー。毎日のようにこんな感じなので、ラーメンや蕎麦を食いたいとか考える庶民派の私としてはどうも居心地が悪いのだが、30数年働いたご褒美、人生最後の豪華食事付き100泊の旅、と割り切って、あと50日余すごそう。ただし体重増には要注意！  
13279 歩

3月4日（日） 第58日 終日航海

## ビーグル号航海記 その1

朝、6時起床、ウォーキング。気温は高く（27℃）曇り、日の出は6:30ころ。9階スポーツデッキの途中で太陽を見る。いつもながら、晴れていれば、日の出前後の数十分は、南の海を舞台に刻々と変化してゆくドラマが見られる。シャワー・朝食の後、今日から、「ビーグル号航海記」を読み始める。文庫で上中下3冊で800ページ近く。内容たるや、細々と航海中の記録が続く。これまで何十年も前から、なかなか読めないでいたものだ。こんな時間が有り余る生活の時だからこそ。おまけに、今回は、これまでの航海で、至る所でビーグル号の名に遭遇してきた。

「軍艦ビーグル号世界就航中歴訪諸国の博物学及び地質学の研究日記」が正式名称。ビーグル号の模型は、ウシュアエアの海事博物館にあったが、1820年に建造された3本マストの帆船である。235トン、全長90フィート（約30m）時速9ノットで走行する小さい船である。（今乗っているこの船は、6万2千トン、780フィート（240m）、時速30ノット）。全長30mとは、いかに小さいか！

この船が、測量（地図・海図作り）の使命を帯びて航海に出るときに、ケンブリッジ大学を卒業する年の博物学者ダーウインが乗る。1831年12月27日、イギリスのダベンポート港を出港。大西洋を南下し、アフリカ沖の、カーボベルデ諸島などを経て、ブラジルのサルバドルに到着、その後、リオデジャネイロ、モンテビデオと上陸する。測量しながら、ここまで半年以上かかっている。

観測内容は、地質学、動物学（哺乳類、鳥類、魚類、昆虫、節足動物、原生動物・・・）、植物学、気象学、また、上陸地での旅の途中の風俗まで、事細かに述べられており、大学を卒業したばかりの「学者の卵」によくもまあこんなに知識と観察力があるものだと感心の一言。

さて、昼食の後、20分ジョギング。右舷に島が見えている。「アジアだ！」インドネシアのティモール島。海もまた蒼くなっている。

今日の夕食は、Formalの日。なんとなく面倒なのだが、服を着替えるだけのこと。ドレスコードにはこういう風に書いている。

- For ladies, gowns, cocktail dress or elegant pant suit are appropriate.
- For gentlemen, Tuxedo, dark suit and tie, or jacket and tie.
- Cultural formal wear such as (long-sleeved for men) Asian style formal wear or suitable (long-sleeved for men) Theme Night wear is also acceptable.

これを見る限りでは、ジャケットにネクタイもOKということで、最初はともかく、最近では、普通のスーツにネクタイの姿も見かけるようになっていく。これくらいなら、そんなに意識しなくても、仕事をしていたときの格好でいいのだということ、少しイメージが変わった。女性の方も、「普通の服」という感じの方も見られる。今日のテーマは、「Chef's Dinner」で、白と黒のデザイン。前菜は、エスカルゴ・ブルギニョン、エスカルゴを焼いたもの。スープは焼き

マッシュルームのスープ。そしてメインは **Brolled Lobster Tail** とかい、ロブスターを焼いたもの。そしてデザートとコーヒー。  
食事を終え、部屋に戻り、礼服を脱いで気軽になり、寝る支度。外を見ると、ティモール島がすぐ近くに見える。アジアだ！

14556 歩





## 第3章 アジア

3月5日(月) 第59日 コモド島沖停泊

### コモド島沖停泊

今日はコモド島に着くのだが、昨夜配られた船内報 Explorer に、次のような記事があった。

As this is a National Park, guests not on a Holland American Line shore excursion are not permitted to leave the vessel.

要は、「ここは国立公園であるから、ツアー参加者以外は上陸できない」  
行く前に調べた資料から、コモドは全島国立公園で、旅行者が自由に歩けるのは、船着き場と公園管理事務所周辺だけ、というのを知っていた。あとは、公園ガイドなしでは歩けないのである。コモドドラゴンはシドニーで見た。

シドニーで5日間船を空けたので、ツアーどうしようか決めるまもなくこの日になってしまった。船内ツアーは2日前に締め切られているので、行ってみて買い物だけするのもありかな、と思っていたら、上陸も不可のようだ。あらかじめわかっていれば、対応の仕方もあったのに。が、しかたがなかるう。というところで、今日は「コモド島沖停泊」。でもなんだかなあ・・・。

6時半に起き、ウォーキング。天気は曇り、気温28度、湿度が高い。日の出は6時58分だとか、全く見えない。それどころか、細かい雨が降ってくる。

右舷に島が大きく見えてくる。左舷にも島が見えてきて、波の静かな湾内に入っていく。Slawi Bayである。左に集落が見えてくる。浜に沿った50軒ばかりの家が並んだ集落。やがて停止。テンドーボートが3艘下ろされた。まわりは、木と草に覆われた山が取り囲んでいる。外は暑い。風もない。湿度84%。しばらくいると、汗がたらたらと落ちてくる。

ちようど昼食。その後プロムナードデッキで休憩していたら、暑くて、うとうとしてしまった。ちようど、南国の昼寝の時間。起きてから、20分ジョギング。すぐに汗がびっしょりになる。明日のレンバー上陸は先が思いやられる。シャワーのあと、部屋で映画。窓の外は、コモド島の山の景色。テンドーボートにも、物売りの船が寄ってきていた。

夕食は、シュリンプカクテル、ミネステローネスープ、白身魚のソテー。

18771歩

3月6日(火) 第60日 レンバー上陸

桁を間違えるインドネシア・ルピア

今日は、インドネシア・ロンボク(Lombok)島のレンバー(Lembar)に上陸

する日。レンバーは港で、そこから大きな町のあるマタラム (Mataram) までシャトルバスで移動することになっている。

6時に起床、歩いたあと、すぐ朝食、上陸の支度。7時には入江の中のレンバー沖合に停泊、テンドーボートの準備が始まる。8時半に待機したが、結局一時間半近く待ち、テンドーボートに乗ったのは10時。

20分で船着き場。ここは音楽と舞踊の歓迎。シャトルバスで待たされて、出発。インドネシアは、農業国だ。米を植えた田んぼが両脇に。さらに、オートバイがととも多い。また、立派なイスラム教のモスクも。道の両側の景色は、50数年前の日本の景色？45分離れたマタラムのショッピングモールに着いたのは11時半過ぎ。最終のシャトルバスが2時15分だから、結局2時間余しかない。

銀行ATMでキャッシュ500,000 RUPIAH (五十万ルピア) を手にした。札が5枚出てきたが、0の数を数えるのが大変だ。この国の通貨は、1 US \$ ≒ 9000 Rp となっているので、この500,000ルピアとは、55 US \$ 約4400円。ジュースが9000 Rp となっているので、札を1枚出すと、4050でなく94050も戻ってくる。

ショッピングセンターの中を歩いていると、洋服屋があったのでシャツでも買おうかと思ってみた。立派なシャツがあり値段を見ると475000とあり、思い切って買った。けっこう高いシャツなのだ、これ。タグを見ると、Batik Exclusive とあり、本物のバチックなのだ！この前サモアで買った、6\$のアロハシャツ

とは1桁違うのだと改めて驚く。

モールのまわりを歩いていたら、インターネットカフェを発見。1時間500ルピアだといので、使うことにした（これまでで一番安い、50円弱）。たまたまWebの写真をUPし、ポータブルの通信ソフトでメールをチェックすると、シャトルバスの時間。

財布には、まだ1400ルピアも残っているが、120円。なんだか、数字の桁に振り回された2時間だった。それにしても、実質2時間の上陸とは情けない。シャトルに乗って船着き場に戻る。3時半過ぎに船に戻って、遅めの昼食。チーズバーガーとピザ二切れ。港のスケッチをして部屋に帰ると、テンドーボートの引き上げをしていた。

夕食時にテーブルに、アポロジャイズということで、ワインをどうぞ、というメモが。この前のチリ沖のコース変更と違って今回は「人災」のようだが、間髪を容れず事処理する体制は、いかにもアメリカ的だと感心した。

夕食中に、船は出航した。というわけで、インドネシアはこれでお別れ、4日の航海の後、次は香港だ。

使った通貨 五十万ルピア（正しくは486,000 Rupias） ≒ 54 US \$ ≒ 4320円

16237 歩

3月7日（水） 第61日 終日航海

## ビーグル号航海記 その2 位置測定とGPS

インドネシア訪問は、少しあつけないがこれで終わり。船は、ジャワ島とボルネオ島（カリマンタン）の間のジャワ海を通り北上。ボルネオ沖で赤道を通過し、南半球ともこれでお別れ。明日くらいか。

朝6時起床、日の出は6時38分。雲の中から太陽が昇って一日の始まり。右舷に島影が見えたが、スラバヤ沖のバウエアン島か。インドネシアの真ん中なので、海を行き交う船も見える。日課通りに朝食まで。その後、昨日の記録整理とWebのアップ。その後、ビーグル号航海記の続き。

ビーグル号航海記のはじめの部分に航海の目的として、「チリーやペルーの海岸、その他太平洋中の諸島を測量し、世界を一周して時辰儀（クロノメーター）の測定の連鎖を行うにあった。」と書かれている。この後半の部分の意味は、正確な時計をもちいて経度測定を行うこと、逆に言えば、世界一周して経度を測定することにより時計の正確さを検証することにあつたのか、と納得。

さて、このビーグル号の頃は、海上でどのように位置を測定していたのか。緯度の方は、星の高度を測定することによりわかる。北を知るために正確な磁石が必要になるが。一方、経度の方は、太陽の南中時刻（北中時刻）を使うか夜の星を観測し、イギリスのグリニッジとの差を計算する。そのために、グ

リニッジ標準時にあわせた正確な時計が必要なのだが、この時計がクロノメーターである。ビーグル号は、経度観測を行い、時計の精度を調べたのだろう。

現代では、GPS (Global Positioning System) が簡単にこれに答えてくれる。私の数万円のGPSでさえ、簡単に緯度と経度を誤差数メートルで測定できる。

すぐ昼になり、今日は、Udon Soup なるものがメニューに出ていたので、Sushi とこれにする。腰のないふにやふにや麺だが汁は、それなりの味がする。

海は静かで「鏡のよう」。水深のせいか、水質のせいか、水が緑色に見える。

午後に20分ほどジョギング。そしてプール。天気がいいせいか、けっこう混んでいて泳ぐどころではなく、体を冷やしただけ。日差しは強烈で、甲羅干しなんかしたら、また、日焼けで皮膚がぼろぼろになること必死なので、撤退。

部屋に戻り、映画鑑賞にする。夕食は、前菜、ハンガリーシチュー、coq au vin (鶏肉ワイン煮込み)、フルーツ。

14951 歩

3月8日 (木) 第62日 終日航海

## 赤道通過 - King Neptune Ceremony

今日は、ジャワ海を北に航海。ボルネオ島 (カリマンタン) の西で、赤道を横断。北半球に戻ってくる日。朝、起床は7時。ようやく日が昇った時間。雲

の合間から太陽が見えていた。歩いて、シャワー、朝食。散歩中に、壊れたテ  
ンダーボートのスクリーンをみた。これが、レンバーでのトラブルの結果か。  
船は9時過ぎに赤道を越えたようで、緯度は北緯になっている。Webの整理  
とアップ、メールチェック。

10時から、King Neptune Ceremony とか言うのが、リドデツキのプールである  
とかで行ってみる。そのまま訳すと「海王ネプチューンの儀式」だが、「赤道  
祭り」かな。海賊風の飾り付けと衣装のバンドも出ていて、カクテルを配って  
いる。始まると、三ツ又鉾を持った海の王ネプチューンとその妻の主役登場、  
船のキャプテン他お偉方が登場のあと、それぞれの持ち場のクルーたちの代表  
が次々と、海賊に引き立てられ、「罪状」を宣告され、刑として、「フィッシ  
ュにキッス」させられたあと、クリームを塗りたくられ、判定により、プール  
に落とされるか、助かるか、というたわいのない「あそび」が繰り広げられた。  
アメリカ人はこういうののうち興じるのが好きなのだなあ。

その後、読書。11時から、Rising Sea and Extreme Storms という講演をラウンジ  
で聴く。45分間の話だが、資料の間に、おかしな写真をたくさん挟み、一般受  
けするスライド構成はおもしろかった。話者は、Geage Sranko というカナダ人。  
地球温暖化とCO2について話したのだが、それでどうする、には触れずに終わり。  
昼食は、日本人のご婦人方と。いろいろ世間話を伺った。部屋に戻り、読書

続き。小雨の中、20分ジョギング、それから映画を見る。

夕食は、鶏肉ウイニング、スープ、蟹の CAKE

部屋に戻ると、"Having crossed the halfway point of this voyage and the equator,..."  
ということ、Grand giftとして、ウイニングラスと本が置かれてあった。旅の半分と赤道通過のお祝い。そうか、残り半分以下になったか・・・。  
17102歩

3月9日（金） 第63日 終日航海

## インドネシアの日

朝6時起床、日の出は6:38。歩き始めから、厚い雲に覆われ、強い風が吹く天気。ついに途中から雨。気温は25度。

10時から、バーバラの旅行案内『ベトナム』のプレゼンテーションをみて、その後、読書。昼食は、パスタ。

午後、読書続き。「ビーグル号航海記」上を読了。2時半から、20分ジョギング。天気は、雲はあるが回復している。その後10分ほどプール。

今日はフォーマルの日。テーマは、INDONESIAN FORMAL NIGHT。メインダニングは、インドネシア風に飾り付けされ、メニューも、インドネシアスペシャルの料理が用意されている。メインディッシュには、Nasi Gorengを注文した。



インドネシア風ライスに、牛肉、鶏肉、卵、ミートボールの料理がのっている。夜10時からラウンジで、インドネシアのクルーによる歌と踊りがあるそうで、見に来いと誘われた。名付けて、INDONESIAN CREW SHOW。

この船には、インドネシア人のクルーがとてたくさんおり、食堂関係、居室関係で働いている。私の部屋のルームアテンダントもそうだし、夕食のウェイターもそうである。シヨの方方は、10時から始まり、歌あり踊りありの熱演が大変楽しいもので、あつという間に1時間15分が過ぎた。

16163歩

3月10日(土) 第64日 終日航海

## SUSHIと寿司

7時起床、日は昇っている。昨夜の夜更かしのせい？。8時まで歩き、日課通り。午前中、記録整理、Webのアップ、メールのチェック。

そのあと、バーバラの旅行案内、ベトナム編プマイを聞く。その後読書。ピグル号、中巻に入る。9階のクロウズネスト。外は、大海原。ここで、デジタルの海図が表示されているのを発見。これまで気がつかなかった。なるほど、海図もこうなつて、GPSと組み合わされているのか・・・。

さて、この船では、昼食時に、毎日SUSHIが提供されている。

内容はというと、刺身にはマグロ赤身と鮭、時にエビ、たくあん。にぎりとして、玉子焼き、マグロ赤身、鮭、エビ、なにもない海苔巻き。巻物として、カツパ、鉄火、エビ。醤油、わさび、ガリ、海藻というように結構バラエティに富んでいる。毎日、食事時に、皆さん召し上がっている。

でも、これだけ食材が豊かなのに、食べてみると『ちよつと違うなあ・・・』。日本でも寿司職人さんは長年の下積みを経て、あの味を出しており、それとは比べようもないが、家庭で食べる手巻き寿司より落ちるように感じるのである。

1. 米は、ジャポニカ米を使っており、コシヒカリ、とまで行かなくても、それなりに食べられるはずだ。

2. 米の炊き方はどうか？冷めておいしくないのである。電気炊飯器で、オーストラリアやアフリカ、ヨーロッパでも現地で購入したジャポニカ米を調理すると、立派なご飯になったものだ。

3. 最も違うと思うのは、「寿司飯になってない」ことだ。まるで、おにぎりに刺身をのせて食べているような気がする。かすかに酢の臭いがあるようにも思えるが、『寿司飯』になってない。酢のちがいか、量の問題かわからないが。

4. *sashimi* については、マグロ赤身とサーモンで立派な食材である。が、マグロも『削ぎ切り』のような形状で切られ、置かれている。水気が出て、おいしそうに見えない。切り方が違うのではないだろうか？

5・緑色の海草が置かれている。はじめ、オゴかと思ったたら、昆布のような海草の細切りであった。刺身のツマならだんぜんオゴである。

6・わさびは、大きな口の器に練わさびを置いてあり、香りが飛んでいる。

7・ガリはおいしい。

というわけで、いい材料を使っているながら、SUSHIであって寿司であると感じられない。個人差があるので、あくまで個人的見解だが。

昼食は外でモンゴリアンクックアウトの日。なるべく素材を選び、日本のヤキソバ風に。スパイシーなソースは使わないで、仕上げてもらった。

昼食後に、シズエ姉妹と話をしている、来週から生徒2人の「パソコン教室」をやることになった。テーマはeメール。制約の多い中で何ができるか・・・。  
一休みして、ジョギングに出かけると、海は荒れ模様、北東から強風が吹き付けている。海面も大きくうねっているのが見える。これはいかんと、6分で中止。部屋に戻ってみると北から42ノットの風とある。ビューフオートスケール（風力階級）が東から6となっており、船の進行と併せて北東からの強風になっている。明日の天気は、precipitation（降水）だそうだ。

夕食は、前菜、シーフードスープ、ビーフステーキ。

そのあと、香港上陸の準備。天気が悪そうだ。明後日もあるのでどうしよう。

3月11日(日) 第65日 香港上陸

## 霧と雨のランタオピーク

6時起床、この頃港内をゆっくりドックに向かつて進んでいる。7時過ぎ、接岸。天気は時折雨交じりで快方に向かう兆しもない。ビクトリアピークも雲の中にある。朝食を済ませ、外出用意。8時過ぎ、上陸。繁華街の近くに横着けされ、さすが、港町。ギャングウェイを渡るとビル<sup>926</sup>の2階。日曜日の朝なので、人もいないでがらんとしている。

今日は、かねてよりの計画で、天気はよくないが、ランタオ島に行き、ランタオピーク(926 m)に登る予定である。

MTR(地下鉄)の駅で、ATMを探し、1000 HK\$引き出す。切符を買い、途中一度乗り換えて、30分ほどで東涌(トンチヨン)に着く。駅のセブンイレブンで水(6 HK\$)と地図(30 HK\$)を買う。この地図(大嶼山・長洲・南Y ISBN 97898801509024)は、よくできているが、紙質がよくないのが難点。

ここから、昂坪(ゴンビン)に行くのに、ロープウェイがあるはずなので、行ってみると、二ヶ月運休。そこでバスに乗り、小一時間かけて昂坪へ。ここから、鳳凰山(フォンウオンサン)別名ランタオピーク(Lantau Peak)に登るのだが、着いてみると、霧の中。標高が450 mくらいで、山頂まで約500 mの登り。

観光客で賑わう實蓮寺の境内を離れ、昴坪茶園餐廳の先に茶畑を見て、心教簡林の入口のゲートをくぐると、黄色い道標がある。ここから山道。石の階段で整備された急登が延々と続く。天気は悪くなり雨が降ってくる。810m地点で、まわりの木がなくなり、やせた尾根に出る。風がないのがせめてもの慰め。

ひたすら急な石の階段を登り、12時15分山頂。バス停を出たのが11時だから1時間少しかかっている。周りは霧の中でなにも見えず、何人かが避難所の石室（山区臨時避風站と書いてある）に入っている。山頂の看板とともに、三角測量站と書いている白と黒の円柱。方位盤もあるが、よく読めない。雨は降り続き、霧も上がる気配もない。結構寒い。

10分ほど山頂にいて下山。晴れていれば東に縦走し、大東山、二東山と歩くのも可能だが（全部で5時間くらいか？）、今日はこれ以上行ってもだめなので、元来た道を引き返しお寺でも参つていくことにする。少し下がると、時折、海や島が見え、ここが、小さな島の高山であることを示してくれる。濡れた石の階段を滑らないように気をつけながら、ゲートまで下山。1時間弱。

霧の中を、實蓮寺を見物。門前の市にある台湾料理屋で暖かいワンタン麵を食べる。食べ終わって少し先まで行くと、なんと日式拉麵の看板があり、がっかり。2時のバスで、梅窩へ、そこから高速艇で中環（セントラル）、そしてフェリーで対岸の尖沙咀に行き、少しぶらぶらしてから船に戻った。

スーパーマーケットを発見。ここは、缶ビールが異常に安い。カルルスバーク 6 缶で 38.9 HK \$ (400 円少し)。買い込んでいこう。ワインはまあまあ。

夕食時に、ブライアン夫妻の娘さんが同席。北京に在住だとか。さすがに、今日は疲れた。

30015 歩

3 月 12 日 (月) 第 66 日 香港上陸第 2 日

## Free Wi-Fi が当たり前前の香港

6 時に起床、夜明け前の香港の港の灯りが美しい。

今日は停泊中なので朝のウォーキングは、近くの九龍公園 (クローンパーク) に行くことにする。6 時半に出たが、7 時までハーバーシティ (海港城・接岸しているショッピングモールの名) の鍵が開いておらず、シティの中を歩き回る。7 時に外へ。広東道を通り、九龍公園へ。公園の中はとても広々とし、起伏も適度にあり、庭園の作りも各所で異なりおもしろく歩ける。太極拳をやっているらしいグループがあちらこちらに集まって、体を動かしている。8 時半頃まで歩いて船に戻り朝食。

PC を持って上陸。旅行案内所に行つて聞くと、ガバナメントの建物に行くとフリーの Wi-Fi があると、すぐ先の文化センターを教えてもらった。館内では、

高速な (54Mbps) Wi-Fi に接続できて、この間のデータのアップを終わらせた。市や国や民間がフリーの Wi-Fi を当たり前のように提供しており、香港では町にもコーヒーショップなどで「Free Wi-Fi」などという看板は見かけない。当たり前前の環境になっているのだ。国が小さいからできるとはいえ、IT 技術で国を立てるためのインフラ整備が進んでいる。

その後、買い物をして船に戻り、パソコンを置いて出直し。11時に、香港歴史博物館へ (10 HK\$)。建物は基本的には二つのフロアに展示物が置かれているが、高い天井の部屋に巨大な模型や建物が再現されていて、迫力がある。中は、自然史に関するものと、古代・中世の中国の影響の広がり、そして近世からの歴史である。アヘン戦争、その後の発展、日本軍の侵攻、戦後の再建という流れ。特に日本軍の統治については、たった3、4年の期間なのに、通貨に変わる軍票の発行や学校教育の変更、捕虜の扱いなどの資料が展示されている。当時の報道映画も再現でき、この前のオーストラリアのダーウィン空襲と併せて考えると、当時の軍部はこんな事をやっていたのかと、再認識した。

昼時になったので、博物館近くで、うどんとトンカツを食べる。61\$。この町には、シドニーにもまして、日本食の店がたくさんあるようで、寿司屋、ラーメン屋、居酒屋、うどん屋いろいろと目に付く。『和民』まであった。この国の日本人コミュニティの大きさを改めて知らされる。このあたりが『昔から

の香港』という感じの町並みだ。

その後、香港芸術館 (Museum of Art) に行くのと、神禽・翼獣という名の催しをやっていた。乗船時刻の4時に近くなったので、ペンシユラホテルの前を通って、船に戻る。ハーバーシテイは海岸沿いの一大ショッピングモール。その一部に乗船口が作られている。

船に戻った後、5時から避難訓練。1ヶ月に1回というペースで3回目。今日は、メインダイニングに行かずリドで夕食。くだけた感じの夕食だった。

2日間で使った通貨  
951.6 HK \$ ≐ 9800 円  
30700 歩

3月13日 (火) 第67日 終日航海

## 旅のスタイル

時計は1時間バック。おかげで6時に起床できた。さすがに、体が重い。外は曇り、時々霧雨も。1時間歩いて朝食。

船内で配られる New York Times ダイジェストに日本の地震原発の記事が大きく載っている。あれから一年が経ったのだ、と改めて時の速さを感じる。

データの整理と Web のアップ。メールのチェック。そのあと、10時からバーバラのシンガポールの情報のプレゼンを聞く。



そのあと、「電子メール」について、ミニ講座を開くことになっていたので、準備して待つ。場所の連絡の行き違いから会えず、流れる。

昼食。ターキー・ケバブ・サラダ・温野菜。

さて、明後日はプマイ（ホーチミン）だが、このプマイ港からホーチミン市までは、バスで片道2時間ほどかかり、交通機関も無さそうなので、ツアーで行くことにした。トランスファア（54\$）というのは、売り切れ。しかたなく、SENSATIONAL SAIGON（119\$）というツアーにした。

これまで、船のツアーに参加してこなかったのは、旅に対する考え方から。ツアーは確かに効率がよく、いろいろなところを回れる合理的な方法だと思う。が、私の求める旅のスタイルというのは、自分の体と頭を使い未知の土地・人々に向かい、感じることで、これを大事にしたいと思ってきた。そのため、効率が悪く、「名所」をみんな回れなくても、間違ってもいい。名所でなくても、外国の自然、社会、人間はそこにある。また、行きたいところは違うのに・・・という思いもある。こういう旅には準備も必要だが。知識も、言葉も。

さらに、外国人とのツアーは苦手である。マンチェスターで、一度ツアーに参加したが、スペイン人の数名が戻ってこない。半分以上待ち時間に費やされた経験がある。彼らはそんなに罪悪感はないようで、国民性の違いを実感した。ということ、今回は、足がないので、サイゴンはツアーバスで回ることに

なった。エジプトのサファガも、足がなきそうなのでツアーは申し込んだ。まあ、何回かは、アメリカ人とバスツアーもいいか。

午後には、Sizueさんから連絡があり、日本人の母娘が乗船したとのこと。

夕食は、パテ、スープ、メインに London Broil とか言うのを食べた。出てきたものは予想と違っていた。「マリネした牛肉をグリルし、薄く切ったもの」(米国の料理)らしい。食べ物の意外性も旅なのかもしれない。

10928 歩

3月14日(水) 第68日 ニャチャン(Nha Trang・ベトナム) 上陸

## ベトナムの床屋さん

今日はベトナムの南部のリゾート地ニャチャンに上陸する日。

7時少し前に起き、1時間歩く。船は、入港しており、接岸寸前。8時には、完了していた。この港は、対岸のチュウ島に大型アミューズメントパークがあり、その島へ3 km 余りの長大なロープウェイが架かっている。9時からシャトルバスが走るので、出かける支度。ギャングウェイを出ると、民俗衣装のベトナムの美女のお出迎え。

9時にシャトルバスに乗り込む。下りた所は、ビーチに面した、ハイイエンホテル。物売りとしクロ、バイクタクシーの売り込みがものすごい。次々と声

がかけられる。この国のパワーと貧しさを見るようで複雑な思い。

レタイントン通りを駅に向かう。ATMで100000ドン（百万）おろす。この国も通貨単位がとても大きく、勘が狂ってしまう。ちなみに百万ドン≒50 US \$ ≒4000円。ベトナムも紙幣はプラスチックに変わっている。

暑い。水を忘れてきたことに気づき、ペットボトルの水を買う。10000ドン。

ニヤチャンの道路はオートバイで一杯だ。町にもオートバイの修理屋さんがたくさんある。合間を縫って道路を渡ってゆく。渡るのが大変だ。

ニヤチャン大聖堂はとても大きな建物だが、内部は工事中。さらに進んで鉄道駅。ここは、余り人がいない。時刻表を見ても、本数は多くない。

そのまま進んでいった隆山寺（ロンソン）は観光地で、ツアーのバスが何台も乗り付け、土産物売りの姿も多く、入るのに人をかき分けて行く感じ。仏教の寺だが、本堂や山門、鐘楼、大仏などあつて、観光客で一杯である。

ロン・タン・ギャラリーに寄り道。これは、写真家ロン・タン氏の白黒写真のギャラリー。白黒写真で切り取ったベトナムの自然と生活が百点以上もあり、見応えがあつた。作品の購入もできるようだが、今回はパス。出でずぐ、床屋を見つけた。Barberとかいてある。ニヶ月以上経って髪も伸び、帰国まで持ちそうにないので、入って「ヘアカットオンリー」と指で3cmくらい示すと、かちかち切り始めた。20分くらいできれいに終わり、裾も剃ってくれた。代金

を払うと、なんと、10000 ドン！40 円ではないか！

それからダム市場へ。ここは巨大な市場で、おびただし数の店が衣料、食料その他何でも売っている。テントで日の光が入らぬよう暗くしているので、思ったよりは暑くない。シャツを買った。35 万ドンを 33 万にまけてくれた。

海岸は、ニヤチャンビーチといい、青い海、砂浜、寄せる波、椰子の並木とビーチリゾートとしてすばらしいところである。人が少ないのがいい。

ただ、カインホア博物館は閉まっており、エルシン博物館は見つけ損ねたのが残念だ。浜を南に歩いて、ハイイエンホテル。1 時過ぎにバスに乗った。

港に着くと、海洋博物館はすぐ隣。入場料 15000 ドン。30 分ほど見てしまった。研究所の付帯施設だから多くは期待できないが、ジュゴンの骨格標本とおびただし数の魚類の標本には驚いた。港の店を覗いて船に戻り、シャワー。夜は、香港から乗った岩下さん母娘と SIZUE さんたちと日本人五人で席を作ってもらい 5 階で夕食。久しぶりの日本人との夕食であった。

31861 歩

3 月 15 日 (木) 第 69 日 プマイ・ホーチミン上陸

## ホーチミン市へツアーで

朝 6 時、入港するプマイの港から昇る日の出がとてもきれい。今日は、ツアー

ーでホーチミンを回ることに。8時半に出発。8号車、30人ばかり乗っている。2時間かかり、ホーチミン市の中心へ。広い道路では、オートバイの専用車線がある。REXホテル前に。ここはホーチミン市人民委員会のすぐ前で、革命前は多くの有名人が泊まったとか。トイレ休憩。レロイ通りは美しい通りだ。バスは、すぐ近くの統一会堂（旧大統領官邸）へ。ここで、ガイドのトゥー氏のレクチャー。その後、巡回コースに従い1階から3階まで回る。3階の映画室の奥に置かれてあった米軍のヘリコプターが印象的であった。1975年の4月、あつという間にサイゴンが解放（陥落）した最後の場面、大統領官邸である。あれから37年も経つのか。この解説を聞いていた米国人たちは何を感じたのだろうか。年齢的には、その頃、現役で働いていた人たちである。

次に行ったのはサイゴン大聖堂、中央郵便局。フランス統治時代の美しい建物である。20分あつたので、大急ぎで絵はがきを買い、切手を買って送る。切手売り場は窓口が一つしか開いてなく、そこでなにやら問答を始めたりにいる。ツアーは、時間が限られ気が気ではない。

食事は、グランドホテルでベトナム料理buffet。ツアーのバスが着くと、土産物売りが群がってくる。客のみなさん、結構買い物をしている。

食後はボタニカルガーデン。すぐとなりに歴史博物館があり、近くには、ホーチミン作戦博物館もあり、本当はそちらに行きたいのだが、横目で見て動物

園に行く。虎やゾウを見ても仕方ないのになーと思いつつ。次に漆工芸店。制作現場を通って、売り場に。美しい工芸品が並んでいて、買い物をしていた。この頃から雨が落ち始める。

最後に行ったのがホーチミン市博物館。屋外には戦車や飛行機が置いてある、堂々とした建物に、1階は生活、2階は抗仏戦争、ベトナム戦争の資料。当時のニャンザン紙もある。ここでは、時間が25分しかなく、大急ぎで回るのみ。

4時になり、帰途につく。波止場のテントの店で、漆の箱を2個購入。

久々にツアーに参加したのだが、そろそろまでの待ち時間が多い、行きたいところに行けない、必要ないところで時間を使う、など、後悔する一日であった。ホーチミンは、また機会を作り来てみたい町である。

夕食は、バーベキューだとかで、リドデッキで食べた。

帰りのバスのクーラーがとても効いていて、少し風邪気味。早く寝る。

2日間で使った通貨 1,000,000 -500=999,500 ドン (≒ 4000 円)

20 US \$ (≒ 1600 円)

21052 歩

3月16日(金) 第70日 終日航海

船のインターネット接続PC・日本語はだめ

2日続いたベトナム上陸の後、終日航海の日。

昨日の疲れと、風邪気味なのか喉がいがらっぽいのが、起きると何とかなりそうなので、6時半から日課のウォーキングと朝食。

その後、データ整理・Webのアップ・メールチェック。同時に洗濯。

11時半から、電子メールについて日本人に話をする事になっていたので実施。聴衆は4人！そのなかで、この船のインターネット環境について話す。

エクスプレッションカフェには、インターネットに接続するためのPCを10数台置いてあるが、これが、日本人のユーザーにとって全く使い物にならない。

日本語のサイトも表示できない。このPCは、『がちがち』に規制されていて、ソフトも限られ、USBデバイスも普通には使えない。日本の彼女らは、高い接続プランは買ったが、携帯でしか接続できないことになってしまった。

昼食の後、久々に2時間ほど読書。プロムナードデッキのデッキチェアに横になり、時々うとうとしながら、ビーグル号の続き。天気は回復して、あまり暑くもなく、いい感じ。沿岸から遠くないので、小さな漁船も操業している。

4時半になると、夕食の合図のベルが鳴っている。みんなダイニングルームに向かっているのだ、慌てて移動。あとで調べてみると、今日は、午後2時に1時間時計をForwardに、という連絡が船内報に書かれているのを見落としていた。昼の2時に時間変更などよしてほしいが・・・ということ、夕食は、

カモロースト、スープ、ゆで蟹。

夕食後、図書室にいと、男が話しかけてきて、「卍」は何を意味するか知っているかと尋ねられた。広辞苑と和英辞典で説明した。彼は、毎朝、9階のデッキをジョギングしているので顔は知っていたが、シカゴ在住のボブ・コツペルという名のドイツ系のアメリカ人だ。仏教寺院に行って仏像の胸にある卍が、ナチスのハーケンクロイツと似ているので聞きたかったそうだ。

13103歩

3月17日（土） 第71日 終日航海

## 聖パトリックの日

喉の具合は相変わらず。My throat is scratchy! だが、6時半から日課通り、歩いて食事。昨日の記録整理。Webのアップ。メールのチェック。

10時からバーバラの旅行ガイド、プーケットを聞く。'04年スマトラ沖地震の津波の映像にはびっくり。その後クロウズネストで、読書。

昼食は、ビーフシチューとパスタ、野菜。

午後に、明日のシンガポール上陸に備えてパスポートの返還。シンガポールは、『原則通り』パスポートの所持を義務づけているらしい。これまで、シドニーで単独行動する以外は、パスポートは船に預けっぱなしだったが、今回初



めて。明日に備えて、シンガポールの資料を読む。明日は、停泊地が昼のうちに移動する、ということの連絡が入っている。

午後は、デッキでうとうとしながら読書。船の影は絶えることがないし、遠くには、海底油田の油井が見えている。この海域も、地下資源を巡って、ベトナム・インドネシア・フィリッピンそして中国までが領有権を主張している。

今日は、フォーマル。「聖パトリックの日」とか言っているが、なじみがない。船内報を読んでもみると、アイルランドの宗教家で、“Irish national symbol”の shamrock (緑の三つ葉) を使ったらしい。緑、が今日のテーマ色、だそうだ。行ってみると、緑のオンパレード。でも、何でアイルランドのお祭りなのに、この船でやるのかね？料理は、アイルランド風。前菜、スープ、シチューとアイルランドと名のついた料理。

11810歩

3月18日(日) 第72日 シンガポール上陸第1日

## 国立博物館に見るシンガポールの歴史

6時半からウォーキング。日の出前にシンガポールの町の灯りが見える。7時に日の出。歩き終わる7時半頃、工業用の岸壁に接岸。日本郵船の貨物船で運ばれた日本の自動車はずらりと並べられている。

朝食後、出発。シャトルバスで、クルーズセンターへ。ザインダムの乗船手続きと一緒に、大混雑。鉄道 MRT の駅ハーバーフロントへと向かう。

途中 ATM で 100 S \$ を下ろして MRT の駅へ。チケットマシンとおつきあい。鉄道は、すべて、非接触式カードで処理する進んだ方式だ。紙は全く使われない。

とりあえず、目標はラッフルズプレイス駅。駅を出て、方向に惑わされながらも、名所マライオン公園に到着。ちようど日曜だと言うこともあり、観光客であふれている。このあたりは『未来都市』を見ているよう。

次に行ったのは、アジア文明博物館（8 \$）。シンガポールが南アジア、東南アジア、東アジア、西アジアの接点になっているのがよくわかる。「Patterns of Trade」という特別展示もあり、絨毯のデザインが広がる様子がわかる。

改装中の国立美術館を経て、戦争記念公園。日本の侵略による犠牲者を悼む塔である。後に述べる国立博物館の展示もそうだが、決して『終わってしまったこと』にはなっていない、日本の国内で思うほど。

すぐ隣にあるのがラッフルズホテル。トロピカルな雰囲気を建物に表している由緒あるホテル。ここでちよつと買い物。バーで有名なカクテルでも、と思ったが、今日はまだ先が長いのでやめる。オーチャードロードに入りひたすら西へ。コートフードで日式拉麵を発見。海鮮ラーメン（5 \$）を食べる。

国立博物館は、堂々とした建物。10 \$ 払い入る。入口で、端末機をもらう。

実はこの端末が、マルチメディア技術の粋を集めた、新しい博物館のガイドなのだ。各国語で、必要な所で翻訳のテロップが流れ、さらに動画もある優れものである。展示はシンガポールの最も古い時期からの支配者の興亡と人々の生活、ヨーロッパの植民地への歩み、日本の侵略と占領の資料も豊富である。今の日本のどこにも、これだけの資料を展示したところはないだろう。

また、独立してからの、この国の指導者の賢明さが、奇跡といつていいような国を熱帯のこの地に作り上げたといえる。印象的だったのは、「エジプトでもテレビ受信機を作っている。この国の勤勉な国民ができないはずがない。我々は、テレビもエアコンも買うのではなく自分たちで作ろう。これが10年後に今の子供たちの仕事を生み出す」という演説。(賢い端末だから聞き取れる) 出て、オーチャードロードを西へ進む。途中、地図を購入したところ、黒い雲に覆われ、雷鳴とともに大粒の雨が激しく降り出した。熱帯のスクールである。鉄道のサマセット駅からハーバーフロント駅に戻り、船に帰る。ちよつとトラブルがあったようで1時間半ほど待たされ、帰船。7時半を過ぎていた。ダイニングでの食事時間はとくに終わっていたので、リドレストランで食事。その後、疲れたのか、10時前に寝てしまう。

3月19日(月) 第73日 シンガポール上陸第2日

## 熱帯の多文化都市

停泊地は、セントーサ島の向かい。遊園地に行くロープウェイやモノレールが通っている賑やかな波止場である。

昨日はよほど疲れていたようで、起きると7時を回っていた。喉の具合もいまいち。朝食後、出かける支度。

昨日の続きで、MRTを乗り継ぎ、サマセット駅まで。そこから、オーチャードロードを西へ向かう。延々と両側に商業施設が続いている。特に、高島屋の建物の巨大なこと。日本橋の店など問題ではない。

最後までこの通りを抜けると、入場無料のボタニカルガーデン。ここは広い。あつという間に30分が過ぎ、ちょうど真ん中の蘭園につく。蘭園は有料(5\$)。蘭の花の種類が多さに驚く。色、形、形状様々ながら、みな蘭の花である。Cool Roomに入ると気持ちが良い。シヨパンの像やEvolution Gardenという、植物の進化を再現した庭を経て、反対側までボタニカルガーデンを通り抜け、MRTのボタニカルガーデン駅に出る。

ここからブギスまで移動。ブギス通りの市場は、騒然とした雰囲気の中で賑やかにいろいろなものが売られている。近くのシムリムスクエア(森林広場)に行くと、ここは、「シンガポールの秋葉原」。特に携帯電話、PC、音響製品

などが多い。探していたワイアレスUSBアダプタを購入（19\$）。

昼は日本料理屋で「ウナギと唐揚げ弁当」6.9\$。久々にウナギを食べた。

次はリトルインドを探訪。まさにインドの雰囲気。インド風の寺院もある。インターネットカフェを見つけ、30分ほどでたまっていたWebの更新。なんと1\$！もちろん、ブラウザは日本語の表示ができる。

その隣はアラブ街。モスクを中心にここはイスラムの雰囲気。途中には、中国の雰囲気の市場があり、貝柱の干物100g 6\$で購入。

次にプラナカン博物館（5\$）へ。ここではソロングとケバヤという特別展。民族衣装だが、精密な織物である。結婚や吊いの様子が展示されている。

出た頃、ぽつりと雨が。ひどく降りそうだったので、切手博物館（5\$）に入り、雨宿りをかねて見学。中に日本の占領中に発行された切手もある。

外に出たころ雨は上がり、蒸し暑い。電車に乗り、船に戻る。シンガポールのイミグレはチェックが厳しい。乗船するまでに3回パスポートを要求される。

7時近くになり、シャワーを浴びた後、夕食は、リドレストラン。その後は、早く寝てしまった。熱帯では、歩き回ると疲れる。

二日間で使った通貨

200 S \$ (≐15000円)  
35 S \$ (カード)

34907 歩

3月20日（火） 第74日 終日航海

## 海の上で電子機器のセット

今日は、シンガポールからプーケットへ、マラッカ海峡（Malacca Strait）を通過する。右にマレー半島、左にスマトラ島を見ての世界で有数の混み合う航路の航行である。小さな漁船も通っている。

朝7時前起床。歩いて食事。人の数が少なくなつたような気がする。シンガポールから乗った客もいるようだが。

午前中、記録の整理、Webのアップ、メールのチェック。昼食もいつも通り、ただ、今日は、コナツが出ていた。食後に一つ頂く。

食後、購入したワイヤレスUSBアダプタのセット。ポータブルPCのワイヤレス接続の調子が悪く、スピードが遅いので、アダプタを購入した。19\$だから、千数百円の投資。CDドライブを持っていないので、SDカードを使い、デバイスドライバその他の設定もうまくいき、アクセス成功。これで、上陸するとき少し自由度が広がった。電気製品を買うなら香港かシンガポールしかないと昨日購入した物だ。しかし、海の上というのは、欲しいものが手に入らず不自由なものだ。ついでに携帯電話のSIMMの交換。

午後は、デッキチェアで読書。ビーグル号の続き。ラウンジで続行。

早いもので、今日で旅の2/3が過ぎたことになる。残り1/3。早いなあ、この調子では、あっという間に終わりそう。

夕食は、同じテーブルの4人が10日間のインドツアーに出かけ、一人。たまにはいいが、毎日では・・・ということ、リドで食べる日も作ろう。

今日は、久しぶりに映画鑑賞。明日はプーケット上陸。

12596歩

3月21日（水） 第75日 プーケット上陸

## バスで行ってはみたものの

6時から歩き始める。島が見えている。6時半に日の出。7時頃にプーケット島パトンビーチ沖に停泊。テンダーボートの用意が始まる。

今日は、プーケット旧市街までのトランスファアのツアーを申し込んでいる。

9時20分頃テンダーボートに乗り、パトンビーチへ。ATMで1000バーツ（B≐2700円）おろす。少し歩きツアールバスに乗る。11時少し前に、プーケットのロビンソンデパート（マクドナルド）の前に着き、解散。集合は2:15。

市内は、あまり見所がない町だ。本屋で絵はがきを買い郵便局で投函（はがき15B切手15B）。違う道を通り、時計塔（町の中心のようだ）の脇にある寺院を見てから、ロビンソン前に戻る。

昼に、SUSHIの看板。行ってみるとタイ人がやっている日本料理店。回転寿司は食べる気がしないので、トンカツ弁当とアサヒビールを頼む。久々のスープドライ。トンカツはまあまあ。(213B)。店を出たところで、洋服屋があり、つばの広い帽子(ハット)を250Bで購入。イメージしていたものどちよつと違うのだが。シドニーの熱帯植物園の売店にイメージに近いものを売っていたのだが、買うのをためらってしまった。旅の土産は、これだと思ったときすぐに買うべし。あとでは買えない。

その後インターネットカフェを探し、Webのアップとメールのチェック。1時間で28B(安い!80円)。市内に来たかがあるのはこれくらいだった。

2:15にバスは出発。パトンビーチに戻る。朝は人もいなかかったビーチが、パラソルは並び、泳ぐ人、チェアで寝る人、遊ぶ人で賑わっていた。このビーチはこの島の賑わうところらしい。店も何でもある。しかし、このビーチにおそわれたところでもある。津波の標識はすっかり立てられていた。2004年に大津

しばらく浜を歩いてから、テンドーに乗り帰船。4時であった。

夕食は、リドダイニングで岩下母娘と。

使った通貨

1000  
バーツ  
2700  
円

34  
US  
\$

22568 歩



3月22日（木） 第76日 終日航海

## ついにドルフィンを捉えた

7時前に起き、いつもの日課。ホーチミンのバス以来、喉の調子がよくない。ついに、ドルフィンをカメラで捉えた！本当に偶然の数秒だった。遠くに客船があるので、望遠レンズを着けたカメラを持って、9階展望ラウンジで何気なく外の海面を見ると、水しぶきに黒い生き物。これは、とレンズを向け数枚。ガラス越しなので鮮明な画像にならない。大急ぎで外に走り、ようやく間に合って、数コマとれた。船が速いのであつという間に通り過ぎた。

カメラは、相当年代物の Nikon D 50 で解像度が今のカメラより悪い。今のカメラなら、トリミングしてももう少し鮮明になっただろうが。何より写真は夕イミングである、ということ、今日は、久々に、ワクワクする写真を撮れた。穏やかな海を進んでいるが、海の色は、また鮮やかな蒼い色になっている。

10時からバーバラの旅行案内、インド・マンガロールとゴア編。

昼は、モンゴリアンクックアウト。それから、少しパソコンいじり。

夕食はフォーマル。「オリエンタルダイナー」と銘打って、赤がテーマ色。前菜の春巻き・シューマイ・餃子・エビ天ぷらが日本風の味付けで、よかった。部屋に戻ると、Gift ということで、黒い旅行鞆が。荷物を増やせないのに、

どうしよう。どこかで、日本に送り返すか？

10951 歩

3月23日（金） 第77日 終日航海

## 海賊対策

時計は1時間バツク。6時に起きて、ウォーキング。日の出は5時48分なのでもう日は昇っていた。天気はよい。インド洋の朝の光の美しいこと。

朝食後、メールチェック。この船のネットワークのチェックシステムが働いて、必要なメールがゴミ箱に入っていた。緑茶を飲み、一休み。

さて、今日は、『海賊行為への対応』

昨夜、インド洋・アデン湾の海賊行為（Piracy）についての文書が配布された。いわゆるソマリア沖の海賊のこと。それによると、

「インド洋、アデン湾の海賊行為について多数の問い合わせが来ている。・・・海賊行為は、海面からデッキまでの高さ（freeboard）が低く、スピードが遅い船に対して行われており、この船は freeboard が高く、スピードが20ノットと速い。それでも次のような用意をしている。とし、ドバイの UKMTO からの海賊行為についてのレポートを受け取る。軍艦も周辺にいる。近接レーダーによる警戒が行われる。この船には特別のセキュリティガードが24時間海賊行

為を警戒している。この船には、2台の LRADs（長距離音響装置？）が装備され、準備され、即時に使用できるよう配置されている。放水用の水とホースをプロムナードデッキの両側に用意し使用できるとし、さらし。

「もし不幸にして、乗船の試み、または、船に疑念があるときには、船の警報器が長く鳴らされ、「TESTING TESTING TESTING」というキャプテン、チーフオフィサーまたはブリッジのオフィサーからの放送を聞くであろう。そのときには、乗客は船室を出て、廊下か船内空間にいるように。これらは不幸にも乗船の試みが起こったときのものであり、不必要に心配しないよう強調する。」となっている。

今日の9時半からの防火訓練はクルー対象のものであったが、変更され、放水訓練と避難訓練も行われた。すなわち、クルーは、プロムナードデッキから放水を実施し、客は、廊下で待機、という訓練が行われた。ソマリア沖の海賊も、こんな船まで影響を与えて大変だ。

その後、ラウンジで読書。ビーグル号の中巻。チリの地震と津波についての観察と考察が書かれている。

昼食は、唐揚げ風鶏がカリカリと美味であった。それとパスタ、野菜。船内の売店で、寄港地一覧をデザインしたTシャツを購入。22 \$だから、ま

あまあか。初めての船内売店での買い物。デッキ後部で読書の続き。ビーグル号は、チリの海岸に沿って北上。ダーウインは、陸路チリを探検・採取しながら北上。ペルーに着く。ここで、中巻が終わる。

夕食は、前菜、チャウダー、エビと野菜の天ぷらであった。日没が5時半。6時半には暗くなる。明日は、コロンボ上陸。

14100歩

3月24日(土) 第78日 コロンボ上陸

### トゥクトゥクも使ったコロンボの町歩き

6時起床、8時上陸に備えウォーキングなし。朝食時、接岸。工業栈橋。船首から町の様子がよく見える。上陸の支度後、8時過ぎ上陸。

タラップを下りると、賑やかな音楽と15人ばかりの民族衣装を着たダンサーたちの踊り。港の中を抜けて、西側の灯台に出る。海軍出身だとか言う男が話しかけてくる。仏陀のお祭りで象が出る、という話を聞いたとき、ああこれは、とはつきり詐欺師の手口。素っ気ない返事をする、あきらめて待っているトゥクトゥクの方に戻ってしまった。客引き。

インド洋の海岸沿いのゴールデンロードを南に下る。景色を見ながら、目指すのは、観光案内(ツーリストボード)、シティバンク支店、国立博物館の順。

ゴールロードを30分も歩くと、観光案内所。閑散としている。そうか、今日は土曜日なのだ。アムステルダムの上陸地でも自転車で走る2人組）が先に来て、ただ一人の係員から情報を仕入れている。ここでは、ストリートマップを一枚もらうのみ。ちよつと、観光立国にしては水準が低い。次にシティバンクで4000ルピー（≐3000円）下ろす。

国立博物館は、入場料500ルピー、写真撮影250ルピーで結構高い。しかも、展示室が14あるうち3つしか開いていなくて、がっかりした。狭い館内はちょうど来たツアー客でこった返しており、二重にうんざり。

出てから、町の中心の寺院を見ながら歩く。このあたりは、迷路のような町並みで、もらったストリートマップでは歩けない。日差しは強く、喉が渴く。水も飲み干して、通りがかりの店で、水を買う。40ルピー。サモサを売っていたので、2つばかり食べ（50ルピー）。ペターに行きたいが、というと、今いる位置と、タクシーで100ルピーだと教えてくれた。そうか、トゥクトゥク（三輪タクシー）は地元の間人はこれくらいの値段で乗っているのか・・・。

バスターミナルまで来たが、さすがに疲れてきたので、トゥクトゥクに乗り、オランダ時代博物館に行くことにした。値段は、150ルピー。人と車を『すり抜けて』走っていく。混んでいたのが30分近くかかって博物館へ。

オランダ時代博物館は、昔の建物をそのまま使った博物館。入場料500ルピー、

写真 250 ルピー。受付の男が、いろいろと説明をしてくれる。庭に木が植えてあり、これがシナモン。葉を揉むと香りがし、食べると匂いがする。向かいにコリアンダーが植えてある。展示室は狭いが、当時のものがよく保存されている。家具や、当時の東インド会社のマークの付いた鐘など。建物の壁の厚さが 1 m 近くあり、これによって、ひんやりとした室内になっている。熱帯に生きる知恵なのだ。最後に、「ガイド料」とかで 100 ルピー渡したが。

出るとこのあたりは、ペターの町のだ真ん中。通りの両側は店が建ち並び、人と荷車とトウクトウクであふれかえっている。ジャミ・ウル・アルファーマスクは目立つ色合いのモスクでこの一角にある。

ここから、船のあるフォートまで、西に向かって歩いて行くと、インターネットカフェを見つけ、小一時間休憩をかねて、作業。1 時間 100 ルピー。

それから船に戻り、波止場の土産物テントで残ったルピーを使って T シャツを 2 枚買い乗船。船内の涼しさが心地よい。夕日が沈む 6 時に出港。その後、リドレストランで食事。早めに就寝。疲れた。

使った通貨 4000 スリランカルピー (≒ 3000 円)

32095 歩

3 月 25 日 (日) 第 79 日 終日航海

## 始まった『海賊対策』

6時過ぎ起床。ウォーキング開始。天気はよい。日の出は6時半。

今日から「海賊対策」が始まっている。プロムナードデッキには両側に各3台の放水用のホースがセットされ、オフィサーが1人ずつ配置。聞いてみると、All Nightだとか。念には念を、なのだろうが、これほどまで……。これは、終日、交代で見張りに当たることになるようで、10日余り続く事になる。ちょっと気の毒なような気もするが、心配しているお客のため仕方がないのか？

朝食後、昨日の記録整理・Webのアップ・メールチェック。10時から11時まで、バーバラの旅行案内『ムンバイ』で中断。11時から続き。昼までに終了。昼食は、サンドイッチとミネステローネ。

午後から読書。岩波文庫版の「ギリシャ・ローマ神話」野上弥生子訳を読む。明日から4日続けて、インドの寄港地だが、その下調べ。特に、明日のマンガロールは、工業の新しい中心地としては知られているが、たいした観光地でもないのに、どうして寄港地になったかわからない。日本でガイドブックを見ても、載っていない。Web上にもたいした情報はない。港から町まで10km以上あるのに、シャトルバスもない（地元の強力なタクシー組合のせいだとか）。

インドも、イミグレが結構厳しくて、明日は、朝から個別の審査。上陸中は各港毎に発行された Shore Leave Pass とパスポートのコピーの所持が義務づけら

れている。特に、明朝、約1000人分の個別の審査にどれほど時間がかかるのだろうか。14という番号札が配られ、呼び出しがあったら来いということになっている。審査に時間がかかり、移動に時間がかかり、行った先でたいしたものがない、などという結果にならないければよいのだが・・・。

夕食は、前菜・スープ・キングフィッシュとかいう魚のソテー。映画でも見て、明日に備えよう。

12086歩

3月26日(月) 第80日 マンガロール上陸

## マンガロールを歩いた

今日は、インドのマンガロール (Mangalore) 上陸。ゴア、ムンバイと続く4日連続上陸の初日。船で当座のルピーに両替。21.25 US \$ ≡ 1000ルピー。

昨日の船内報で、7時からイミグレの手続きを行う、とあったが、接岸が7時、イミグレ係官の乗船は7時半近く、始まりは8時過ぎ。結局、手続きは、9時過ぎに行われた。今日は、岩下母娘と同道することに。

音楽に迎えられるて下船したのは9時半近く。そこから、港のゲートまで歩き、リクシャ (motorcycle taxi) とシテイセンタまでの値段の交渉。ゲートの兵士に聞いていた相場は10ドル (500ルピー)。この値段で、3人乗っていくことに。



約30分でCity Center Mall。ATMで4日分として700ルピー下ろす。

ここから、St Aloysius Chapelを見に行く。途中、小さいがよく手入れされた公園があり、ガンジー平和財団が管理するTagore Park。花がきれいに咲いていた。アロイシウスチャペルは、学校の中であり、大学生が庭にたくさんいた中を通り、チャペルに着く。美しい建物である。中は装飾が施されている。

次は、ミラグレスチャーチ (Milagres Church)。こちらもきれいな建物である。中はシンプル。ここから、シティーマーケットへ。市民の台所、といった感じで、食料品・生活用品の店が並んでいる。

ホテルのレストランで休憩。キングフィッシュャービール (大瓶) は、144ルピー。シティーセンターモールに戻り、30分ほど買い物。ここは、冷房が効いていて、別天地である。登山道具屋を見つけ、コンパスを購入。395ルピー。なんと、600円ではないか！得をした気分。書店でゴアとムンバイの地図を購入。それぞれ、90と75ルピー。ついでに、パーカーのボールペンとローラーボールのセットも700ルピーで購入した (本物のパーカー)。

タクシーで戻ることに。帰り道、サルタンの砲台 (Sultan's Battery) に寄る。チップサルタンがガープル川に作った砲台の跡で、対岸は、椰子の林で南国そのものの景色。船のゲートに2時前に船に戻り、シャワーのあと、ハンバーガーの昼食。その後、少し昼寝。5時前に出航した。

ここマンガロールを寄港地に選んだ理由が今一つわからない上陸であった。夕食は、前菜（スカロップ）、ステーキ屋のスープ、ローストリブと野菜。ついに、DAY 80 となってしまった。早いものだ。あと 30 日。

18086 歩

3月27日（火） 第81日 ゴア（マルマガオ）上陸

## 大忙しの世界遺産・ゴア見物

今日は、マルマガオに接岸する。ここは、ゴア州の一部。史跡で有名な、オールドゴアは、40 km 先にある。帰船が、午後 2:30 と早いので、早く出ないと戻ってこられなくなる。ということ、6 時に起床、7 時半には船を下りる。9 時前に、オールドゴアに着く。1984 年に教会・修道院が世界遺産に登録。はじめに回ったのは、フランシスコザビエルの遺体が安置されている、ボム・ジエズ教会。広々とした、椰子の茂る広場の一角にある褐色の建物。

広場の反対には、真っ白な聖フランシス教会。こちらは中は真っ白な建物。隣が博物館になっていて、入ってみると（10 ルピー）1 階は、建物や石像などのキリスト教・ヒンズー教の遺物、2 階はポートルート中心に教会の歴史になっている。外には、巨大な車輪や遺跡の建物の破片などを展示。奥のス・カテドラルは、広い庭に続く、白い大きな建物で、中は真っ白な中に巨大で精巧な

装飾がされた木造の祭壇。

オールドゴアはここまでにして、パナジに移動。ここでは、町は通るだけに、ゴア州立博物館に立ち寄る。この博物館は、2階建ての建物で入場無料、ヒンズー教の遺物やキリスト教の資料、栄えたゴアの交易の資料や工芸品などから、自然・地質の部屋まである。当時のゴアは、川の中洲に砦が築かれた交易都市だったのだ。ここで見た奇妙なものは、球形のかごの下に管がついているもの。一体何だろうと思いきや、ロト（くじ引き）の道具！中に数字を書いたコルクの球を入れ取り出す仕組み。

博物館見学後、1時過ぎに帰船。なんとも慌ただしい行動だった。高温で多湿の天気はそのままだったが。シャワーのあと、ビールを飲み、昼食。

その後、一休みして、明日の下調べ、そして映画を見た。船は、午後3時には次の停泊地ムンバイに向け出港。夕食は、ローストビーフウェリントン。

11267歩

3月28日（水） 第82日 ムンバイ（ボンベイ）上陸

## 世界遺産エレファント島へは船に乗って

7時前起床、船は着岸していた。9時過ぎに出発。港は殺風景な工業港兼軍港で、すぐ隣のドックには、インド海軍の空母が停泊している。チェックのあ

と、ゲートを出ると、客引きのタクシーの嵐。

とりあえずめざすのは、インド門 (Gateway)。造幣局の角を曲がり、海軍、シティホール、中央警察を過ぎると、見えてくる。約30分。

インド門は広大な広場に巨大な建物が海に向かって造られており、英国王(インド皇帝)の訪問を記念し作られたという建物。隣には、タージマハールホテルの優美な色合いと曲線の建物がある。

その門の先端が、エレファント島へのフェリー乗り場。切符をその係の男から買い(往復130ルピー)船に乗り込む。2階の席へは、10ルピー追加。10km近くを約1時間で走る。海からのインド門とタージマハールホテルの景色は、『インドの海の玄関』にふさわしい。

長い栈橋に到着。上陸すると、なんと『鉄道』が敷かれている。ゲートで入島税5ルピー払う。土産物屋が左右に続く『参道』を登る。2人で担ぐ輿もある。登り終えると、公園入口で、外国人250ルピー(現地人は10ルピー)支払う。はじめにある第1窟がすごい。'87年に世界遺産に登録されたというだけあって、岩山をくり抜き、多数の柱に支えられた空間の中に、神々の彫刻が刻まれている。これが、古の昔、人間の手作業によって作られたとは!5窟まで見て、引き返す。野生の猿がいる。下りに、石細工の象を500ルピーで購入。よくもまあこんな細工ができるものだと感心する。重いので小さいのにする。下りたと

ここで、バーがあり、ビールで一休み。

船に1時間乗ってムンバイへ戻る。途中、一人旅の韓国人と話をいろいろ。インド門に戻り、プリンスオブウェールズ博物館（今の名は、チャトラパティ・シヴァージー・マハラージ・ヴァツ・サングラハラヤというらしいが、とても覚えきれない）に入る。入場料300ルピー。昼を抜いていたので、博物館カフェでサモサとコーク（70ルピー）。日本語オーディオガイド付きである。インドサラセン調といわれる建物もすばらしいが、収蔵品の数も大変なものだ。石像や細密画がおびただしく展示されている。その他、自然史博物館部門もあり、2時間以上もいてしまった。帰りにミュージアムショップで、ペーパーナイフを2本購入。180と220ルピー。波止場のゲートに戻り免税店で、ブランドワイン、缶ビール2本購入。1150ルピー。とにかくものが安い。

戻ると6時過ぎており、シャワワーのあと夕食はリドレストランで。前菜、スープ、鶏肉と野菜。その後、記録整理、そして、映画『ガンジー』を見る。いよいよアジアも明日で最後。

22518歩

3月29日（木） 第83日 ムンバイ（ボンベイ）上陸第2日

ガンジーの足跡を辿って

6時45分起床。上陸準備。朝食。9時過ぎに船を出る。

最初は、タクシーで、マニバンのガンディー博物館へ。港のゲートにウロウロしているタクシーは、観光客だということ、途方もない値段で、「案内する」という。50ドルとか30ドルとか。少し先まで歩いて乗ったタクシーはメーターで、70 Rs (≒105円)。地元の人はこの値段で乗っている。事情を知らない観光客に群がるのは、貧しい国の現実の一つかもしれない。

途中、左手にきれいな海岸を見ながらのマリンドライブを経て、30分着いたマニバンのガンディーの旧宅前には、観光バスが。船のツアーの人たちである。狭い個人宅の博物館であるから、ツアー客でこった返し。少しゆっくり見ながらやり過ぎすと、次のツアーが着くといったぐあい。

一階は図書室、二階は写真、手紙などの展示、三階が居室の再現や、彼の歩みの布人形による展示。前日に映画を見たので、展示物一つ一つが興味深く、偉大な人生を振り返った。彼の人生の様々な事件を布人形を使って再現したものがよかった。立体感があり臨場感もまた格別である。手はかかっているが。日本語の簡単な解説文書も置いてあった。

次に向かったのが、バイキュラのビクトリア公園にあるドクター・バウ・ダージ・ラッド博物館(旧ビクトリア・アルバート博物館)。非常にきれいな建物で、内装も美しい。展示物は、一階は工芸品の数々、二階は、ムンバイの歴

史に関わる、地図・写真・模型。入館料 100 Rs。外には、エレファンタ島で発掘された象のレプリカがある。

その向かいが、動物園の入園ゲート。入園料は、10 Rs。写真撮影料が 15 Rs と格安だが、入ってみると、ろくに動物はいない。

タクシーで、CST 駅（チャトラパティー・シヴァージー・ターミナス駅、旧ヴィクトリアターミナス駅）まで行く（100 Rs）。駅舎は、世界遺産に登録された壮大な建物で、駅構内は、人でごった返していた。旧植民地時代の地名や施設名などを現地語に変えているが、長すぎて覚えきれない。この駅も、タクシーの運転手も CST といっていた。昨日の博物館も同じ。

駅前にあるホテルの下のアーケードにあるインターネットカフェを探して、Web のアップデート。値段は、1 時間 20 Rs！という、今回の旅での最安値。

昼はインド料理はパスし、マクドナルドで『バリュールランチセット』を頼むと 75 Rs で、牛肉のハンバーグではなく、カレー味のコロツケのような物だったそうか、ここは、牛肉を食べない人が多数派の国なのだ！と改めて認識。

アーケードのマルチメディアと書かれた店で、USB メモリ 2 GB を 350 Rs で購入。向かいの大きな建物は中央郵便局である。中で絵はがき 3 枚（30 Rs）と切手 3 枚（36 Rs）を講入し日本に絵はがきを投函。

街頭には、いろいろな物売りがいるが、サトウキビを絞りジュースを作って

飲ませている屋台もある。

その後、港のゲートまで歩いたが、この国で道路を渡ることの恐ろしさ。地元の人には隙を縫って渡るが、大変だ。事故が起こっていないものだ、感心するくらい。車の運転にしても、タクシーに乗ると、恐ろしいくらいである。それなりの秩序（ルール？約束？）があるのだろうか、それにしても・・・。ゲートに戻り、残ったルピーでワインを1本買って、乗船。3時過ぎ。シャワーを浴びて一休み。夕食は、前菜、スープ、グースのアジア風焼き肉。

明日から4日間、インド洋の終日航海。

4日間で使った通貨

258000  
US \$ (≐ 2000円)  
ルピー (≐ 12000円)

12595歩

3月30日（金）

第84日

終日航海

## カメラその他

6時起床、4日ぶりのウォーキング。プロムナードデッキに出ると、なんと海賊対策「新兵器」。有刺鉄線がデッキの手すりに沿って取り付けられている。24時間体制での見張り、放水用ホースに加えての海賊対策だ。見張りは、夜は、暗視ゴーグルを使っている。見させてもらったが、よく見える。聞いてみると、



4時間交替での勤務だとか。果たしてこんなに必要かとも思うが、安心のためには何でもする、という姿勢の表れか。

1時間歩き、ジムで体重計、水分補給にジュース、シャワー、朝食とおきまりのコース。その後、昼まで読書。昼食は、ビールとマツシユルームのパイ、フィッシュ&チップス。午後はデッキチェアでうたた寝しながら読書の続き。2時半から20分間ジョギング。その後、映画を見る。夕食は、久しぶりに5人のテーブルで、前菜・スープ・ウインナーシユニツツェル。

さて、旅で見たカメラは、全部デジカメで、日本メーカーがほぼ独占状態だ。一眼レフでは、ざっと見た感じ Canon が55% Nikon が40%あと5%が Sony とか他で、ほぼ2社独占。コンパクトデジカメは、各メーカー入り乱れているが、日本以外のメーカーは、一度サムスンを見たきりである。キャノン、ニコン、ソニー、パナソニック、カシオ・・・これらで全部とっていいほど。

デジタルムービーカメラも、日本製で、ソニーが多く、次いでパナソニック、ビクター、キャノンという感じ。ちなみに、銀塩カメラを使っている人は、さすがに見かけなかった。船旅でDPEもないし・・・。

光学製品については、ダントツのシェアを誇る日本各社だが、携帯電話は、皆無とっていい状態。こちらは、アップル、サムスン、ノキアが多い。ノートPCはさすがにSONY TOSHIBAなど見るが、DELやHPも。MACユーザーも多

い。iPadの数も結構多い印象を持った。ブックリーダーのKindleで読んでいる人も少なくない。これが電子機器の状況である。

15653歩

3月31日（土） 第85日 終日航海

## サービス

6時半起床、今日の日の出は7時半。6:50頃から歩き始める。あとはいつものコース。朝食後、読書。

航海の方は、ひたすら西へ全速力で進んでいる。周りには船も見えない。ときどき、海面をトビウオが走っているが、これを写真に撮るのは非常に難しい。相手が小さいので望遠を一杯で取りたいが、そうすると撮影範囲が狭くなってしまう。しばらくチャレンジしたが、一コマだけ捉えた。10時からバーバラの旅行案内「ギリシャ」。それから、読書の続き。

昼食は、初めて、ダイニングルームに行ってみる。ハンガリアンスープとサンドイッチだが、どうも肩がこる雰囲気。ウェーターが注文を取りに来て、サービスをしてくれる。

だいたいこの船は、サービスの固まりのような世界で、例えば、キャビン（船室）についていうと、朝と夕の2回ベッドメイク・部屋の掃除・片付け・氷の

取り替え・果物の補給等をやってくれる。食事は、24時間好きなときに好きなものを食べられる。メインダイニングもbuffetのレストランも、朝、昼、夕と開いているし、午後の時間は、グリルでバーガーやピザが食べられるし、夜食時間まであり、食べたらしのままにしておくすぐ片付けてくれる。また、ルームサービスは24時間OK。船内は至る所いつも掃除をしている。プールもジムもあり、スパもある、というように、究極のサービスの世界なのだ。誠に結構なことなのだが、高校生の頃から、「山に行きたいヤツは、衣食住何でも自分でやれ」と育った人間には、余りに夢のような世界で、なんとも居心地の悪い思いをすることがある。

もつとも、乗船しているアメリカ人の中には、「船に乗っている方が、安上がりだ。」とおっしゃる方もいる。家を維持するのに人を雇って、食事の支度をさせて・・・に比べると安いというのだ。そんなものかと聞いていた。まあ、人生最初で最後の贅沢だと思つて、あと一ヶ月こんな暮らしをしてみよう。

午後は、20分ジョギング。その後、映画を見る。

夕食は、フォーマル。『インドの日』とかで、女性はインドで買った衣装に身を包み、華やかである。8時からシアターで、オペラのアリア集を見た。

早いもので、三月も終わり、明日から四月である。

4月1日(日) 第86日 終日航海

## いよいよソマリア沖を航行

いよいよ4月に。船内紙では、エープリルフルの由来とかいう記事が載っていた。日本では、年度の変わり目だ。

航海は、アラビア海からアデン湾へ、北は中東のオマーン・イエメン、南はソマリアに挟まれた狭い海域へと進んでいる。行き交う船の数は増えてきており、いつも数隻を見ることがができる。これから、ジブチとイエメンの間の狭いバーブアルマンデブ海峡を通り、紅海へと入る。最も海賊が出没する範囲だ。

海賊の話を初めて聞いたのは数年前だったと思う。「アフリカの角」といわれたソマリアでケニヤ・エチオピアを交えた戦乱が続き、無政府状態となり海域を取り締まることができず、海賊行為が始まったと聞いた。ヨーロッパとアジアを結ぶ航路であるため、この海域を通過する船の数は多く、多くの国に影響を与えている。その頃、まさか、この航路を通る船に乗るとは考えてもいなかったもので、一般的な国際事件として聞いていたが・・・。

船はこの海域を、最高速度で通過するため、サファガ入港が半日早まり、4日16時となった。スピードも23ノット(約37km/h)で進んでいる。いよいよ今夜が山場。船内には緊張感はないが、24時間のセキュリティオフィサーによ

る見張り・放水準備・有刺鉄線などの対策は続いている。

夜中に1時間時計をバツク。6時に起きて、ウオーキング。日の出は7時過ぎ。今日も朝焼けと日の出が美しい。朝食後、ウェブ更新、メールチェック。

10時から、バーバラの旅行案内、今日は『メッシューナ』。ヨーロッパに入ると上陸日が続くので、連日やっている。その後、読書。ビーグル号下巻半分まで読む。ガラパゴスからオーストラリアまでやってきた。昼食は、牛肉カレー煮、野菜。一休みの後、20分ジョギング。その後、読書続き。映画を見る。

夕食は、エープリルフルの日ということで、ウェーターが衣装を着、シェフのお薦め料理とかがあったので、それを頂いた。前菜は *The Spruced Goose*、スープは、*Three Ps in a Pot*、メインは *Fish and Funghi* ということであったが、予想外のものも出てきてしまった。その後映画。今夜も1時間時計をバツク。1時間余計に寝る時間があり、体にはいいのだが・・・。

16474歩

4月2日(月) 第87日 終日航海

### ビーグル号航海記 その3

船は、アデン湾から紅海に入った。ソマリア沖を『無事』通過したことになる。もう一日紅海を進み、サファガに着く。

6時起床。日の出は6時半。時計を遅らせたので、日の出の時間が毎日のように変わり大変だ。今日は雲が厚く、日の出は見られず。1時間歩きシャワー・朝食。その後昼まで読書。

昼食は、野菜 *tempura* とかいろいろがあったので、*SUSHI* と *sashimi* で和風で行く。午後、読書続き。ついに、ビーグル号航海記を読み終えた。こんな時でなければ全部読むなんて事はできないであろう。若きダーウインが1831年から5年かけた航海の中で見たもの聞いたもの触ったものが、地質・地理・生物・民俗と微に入り細に入り書かれた記録である。特に南アメリカで多くの時を費やしている。航海の目的が、南アメリカ南部の地図作成にあつたから。

ダーウインは、本の末尾で、航海の回顧として、次のように述べている。

「我々の見た極めて著しい観物のうちには、次のものを挙げたい。南十字星、マジエランの雲、その他の南半球の星座——竜巻——青い氷の流れを導いて、時つ断崖で海に懸る氷河——岩礁を作るさんご虫によって持ち上げられた礁湖島——活動する火山——兇暴な地震の圧倒的な効果。」

地震のない国で生まれたダーウインの驚きは抜きにしても、竜巻を除き他のものは、今回の航海で見せてもらったものばかりで、全く同感。彼は続けて、「結論として、若き博物学者にとつて、遠い国々に旅行するほど有益なものはないと私には思われる。」としている。その通りだろう。ダーウインほど若く

はないけれど、私も今回の航海では有益なもの是非常に多いと感じている。午後は、シエスタ。その後20分ジョギング。そのあと、エジプト上陸に備えて資料のチェック。バーバラの旅行案内の港についての情報はありがたい。夕食は、リドデツキで、Sizue 姉妹と。カモ肉のオレンジソース。そのあとスカイデツキに出てみると、晴れていて、星が見える。残念ながら、北半球の星座だが。月と金星、火星、土星が見えている。

15744歩

4月3日(火) 第88日 終日航海

## 海賊のおかげ(?)でワイン・フリー

6 時前に起床。すぐに歩き出す。日の出は5:45でもう昇っている。遠くに船影。1時間歩きジムの体重計に行くが不調で測れず。シャワーの後朝食。それから読書。岩波文庫版「ギリシャ・ローマ神話」下巻トロイ戦争とオデッセイアの所まで読む。

昼食は、ターキーとパスタ。岩下母娘と同席。雑談少し。

午後から、映画「トロイのヘレン」を見る。途中10年間の戦争とその終わりのシーンはあっけなく描かれているが、ホメロスに沿った話で、楽しんだ。

夕食の時、ダイニングに行ってみると、ノーティカル・デーだとか。テーブル

ルにカードが置かれている。英語なのだが、とても読みにくい。正確には訳せないが、「5日間の航海の後、海賊は去った。それをお祝いして、ワインを開けよう。無料で」という風なことが書いてある。

食事が始まると、ワインをどのテーブルにもサービスしている。そう、お祝いのフリーワインサービスなのだ。ということ、海賊のおかげ(?)で、ワインのフリーサービスを受けることになってしまった。

ちなみに、卓上のカード。しばらく眺めていると、「これは詩なのだ」と気がついた。1行目と2行目 *theme* と *gleam*。3行目と4行目 *know* と *go*、5と6行目 *sea* と *free*、7、8行目 *like* と *strike*、9と10行目 *say* と *away* という風に韻を踏んでいる。ピリオドもカンマもない変な英語、と思ったが、詩なのだ。もつとも、詩を読むほどの英語力はないが・・・。

食後、プロムナードデッキに行くと、セキュリティオフィサーによる見張りはまだ続いており、客だけが一足先に、*No Pirates* のお祝いをしたことになる。風呂に入り、それからシアターに、映画「ドラゴンタトゥーの女」を見に行く。アメリカ版。スウェーデンの第1作と比べ、結末が若干変わったようだ。

12061 歩

4月4日(水) 第89日 サファアガ沖停泊



## ひまじいし

船は紅海を北西に向かつて進んでいる。全速力でインド洋を渡ってきたため、当初の予定より半日早く到着するも、ドックの都合で、沖に停泊。

5時半に起きたが、日はすでに昇っていた。いつもの通り歩く。朝食は、久しぶりにダイニングルームで *Japanese style* を食べる。メニューは変わっていないが、味噌汁がおいしくなっている。豆腐とネギの具入り。米はインディカ米だからそんなものだが、卵焼きもおいしく感じた。鮭は、フライパンで焼いているので、香ばしくない。これに、焼き海苔と冷や奴（おろしシヨウガ）でも付けば、一応の水準になると思う。

*Web* の更新とメールチェックのあとは読書。10時からバーバラの旅行案内、アジャクシオ（コルシカ島）。参考になった。その後、読書続き。「ギリシャ・ローマ神話」読み終える。なかなか日頃は読めない本。

昼食は、モンゴリアンアウトクツクの日で、ヤキソバを食べる。一休みの後、ジョギング。洗濯をしながら、映画を見る。

4時に、サファガ沖に停泊。夕食時の6時過ぎに日没。今日は、前菜、スープ、ザウアブラーテンというドイツ料理。おいしかった。

今回の航海で、暇つぶしをどうしようかと、いろいろと準備をしてきた。まず、書籍だが、全部文庫本、ざっと30冊。これらは、基本的に、ブックオ

フで1冊100円で購入した。本は重い。残念だが、帰りには処分する予定。ジャンルはいろいろだが、時間がなくてなかなか読めなかつた本もある（岩波文庫）。本は途中で5冊補充した。別に、青空文庫からのタイトルを入れてある電子書籍 Kindle を持ってきた。

次に、ビデオ。DVD ディスクを多数持つてくることは無理なので、1TBのポータブル外付けハードディスク2台に、家にあるDVDタイトルと、レコーダーに録画していたTV放送を転送して持つてきた。洋画邦画取り混ぜて約300タイトルあるので、毎日3本ずつ見ても大丈夫だ。ハードディスクは、作成したデータのバックアップ用としても使っている。本もビデオも、余りそうである。音楽は、PCの中と、iPod、それからiPhoneの中。これも、手持ちのCDを片っ端から入れてきているので、数はあり、毎日ウォーキングの際に聞いている。

あとは、寄港地の資料のコピー。今回37カ所に寄港するが、その資料を『地球の歩き方』を中心に、図書館で借り必要なページのコピーを作成した。一箇所5〜10枚で約300枚。最近細かい地図が読めないもので、B4に拡大コピーした。上陸前に読み、地図は町歩きに使っている。これも帰りには全部処分する。

16088歩

4月5日（木）第90日 サファガ（ルクソール）上陸

## ルクソールのカルナック神殿へ

船は昨夜のうちに接岸し、係留された。今日は、このサファガから200 km離れたルクソールへのツアー。ルクソールまでの足がないので、ツアーを申し込んでいた。ルクソール・神殿観光ツアー。11時間の長時間ツアーである。

5時半から歩き始める。ツアーの集合時間が早いので、今日は早めに。朝食、シャワー準備8時出発。8時5分にバスが出る。

海岸から広がる赤茶けた山なみを越えて200 km先のルクソールへバスは進む。乾燥してほとんど植物のない風化した赤い礫と砂の山である。時に現れるオアシスを除くと、緑は全くない。走ることに2時間余、ナイル川の近くまで来ると木と畑に緑が見えてくる。ルクソールの町に着く。町中を抜け11時にカルナック神殿へ。

とてつもなく大きい。巨大な石をよくこのように積み上げたものだ。表面にはヒエログリフがびっしりと彫り込まれている。この巨大な建物をどのようにして作り上げたのだろうか。暑い。ツアー客のカメラが熱暴走するくらい暑い。ATMでお金をおろす。600 E (Egyptian Pound) だから、100 US \$ 分。本当は10 \$ 分にしようと思ったのだが、一桁間違ったか？絵はがきを買う。

昼食は、ナイル川ほとりのホテルのエジプト料理buffet。味はいまいちだが、腹が減っていた。飲み物はコーラと水のみ。ホテルの店で買いたい。Eを

使おうと、お土産のペーパーナイフとシンブル、切手の他に、Tシャツ4枚で勘定は480£E。模様が刺繍で縫い取られたエジプト綿の製品で、それなりの価値があるということで購入。£Eはほとんど使ってしまった。

午後は、ルクソール神殿。午前中にカルナックを見たこともあり、驚きは少ないが、やはり途方もない建物だ。オベリスクの片方はパリにあるオベリスクだそうで、なんたることか。表面を飾るヒエログリフにも驚き。初めてこれを見たヨーロッパ人たちの驚嘆ぶりが目に浮かぶ。

3時半、帰船の途につく。日の沈んだ6時40分、船に戻る。

シャワーの後、夕食。今日はバーベキュー。その後、ラウンジで、「エジプト・フォルクローレ・ショー」を見る。音楽と踊りがすごい

1850歩

4月6日（金）第91日 シャルムエルシェーク上陸

## 休養日

朝から不調。腹痛。昨日暑かったし、疲れがたまっているのかも。というこ  
とで、今日は、休養日。寝ることにする。

シャルムエルシェークは、ドックのはずが、テンダーに。といっても波止場は目と鼻の先。客船が2艘横付けされており、3艘目の場所がなかった模様。

波止場の反対側は、茶褐色の荒れ地。観光用の小さなボートが多数。

9時半頃、少しよくなったので、昨日買った絵はがきを投函するために、上陸するだけしてみるか、とテンダーに。町まで15分くらい歩く。途中は、有料のプライベートビーチ。海の色は鮮やか。観光地なのだ、ここは。金曜日で、ショッピングモールの店は閉まり、町はガランとしている。オールドマーケットの方は、スーパーと土産物屋は開いている。この町には、郵便ポストはないらしい。結局船で投函することに。船に戻る。港の入口に青いマイクロバス。これがこの公共交通機関のバスらしい。約1時間の上陸。結構暑い。

午後は休養。胃腸も弱っているようなので今日は一日『ミニ断食』。日本の煎茶がうまい。夕方一昨日分の記録のアップ。2日ぶりにネットに接続できた。

しかし、エジプト人はわからない。最初のビーチのバーでオレンジジュースを1個くれというのに、マンゴージュースを2個売りつけようとする。ポストの場所を教えろというのと絵葉書と切手を買えという。群がって「ワンダラ」と物を押しつける、等々。貧困のせいだろうが、文化の違いか、価値観の相違か、なんだか情けない。昨日のツアーにもツアー客を守るセキュリティ担当の男が付いていた。あの偉大な建築物を造った民族の末裔が……。早々に寝る。

2日間で使った通貨 600 £ E (エジプトポンド) ≒ 8000 円

9288 歩

4月7日（土）第92日 スエズ運河通過

## いよいよ地中海へ

今日はスエズ運河通過。

6時起床。体調まずまず。一日休みが効いたか。大事を取って、階段歩きトレーニングはやめ、プロムナードデッキをゆっくり歩くことに。

船の方は、6時から、スエズ運河の航行開始。日はすでに昇っている。

スエズ運河については、小学生の頃、フランス人のレセップスが作ったという伝記を読んだことがある。遠い世界の話だと思っていたが、目の前にあるのがそれだ。イギリスが管理したりエジプトが独立したり、中東戦争で何年か通行不能になったりと、国際紛争に翻弄され、現在では、アラブ原理主義のテロという問題を抱えている地域である。運河沿いに、警備の兵士がいる。

南側のスエズから約160km先の地中海側ポートサイドまでを結ぶ。スエズ運河は、10数隻でコンボイ（船団）を作り航行する事になっているとかで、本船はこのコンボイの先頭で一方通行の運河を進んでゆく。速度は7ノット（13 km/h）のゆっくりした速さだ。すぐ後ろには、（1マイル離れているそうだが）日本郵船（NYK）の貨物船。その後にはコンテナ船と続いている。運河の幅は160〜200mだそうで、この船が通ると、岸がすぐそばに見える。

船には、パイロット（水先案内人）が乗船し、また待ち合わせで係留する必要があるための、ボートが2艘（6人のボートマン）がつり下げられている。ボートマンたちは、本業があるうとなかろうと乗船し、「副業」に土産物を船内で売っている。パイロットも、スエズ港、運河南半分、北半分、ポートサイド港と担当する4組が順に乗るそうである。

運河をしばらく進むと、湖に出る。この運河は3つの湖をつなぎ作られており、この湖と、途中一カ所のバイパスを使って北行きと南行きの船がすれ違うようになっているとか。運河の西側（アフリカ大陸側）には、町があり、緑が多い。椰子の木が茂り、畑も見受けられる。また、送電線の鉄塔や、鉄道線路もある。それに対して、東側（シナイ半島側）はほとんど荒地（砂漠）で、建物もほとんどない。時々見張り場所の小さな建物がある程度。

昼前、湖に着く。南行きの船が待っているのにすれ違う。中に、ピースボートの白い船も。また、湖には、魚取りの小舟が浮かんでいる。所々に、渡し船の波止場があり、船が通過した後、さっと渡している。イスマイリア (Ismailia) を過ぎた頃、大きな橋が見えてくる。橋の真ん中に、エジプトと日本の旗が描かれ「Mubarak Peace Bridge」（ムバラク平和大橋）その下に「Japan Egypt Friendship Bridge」と書かれている。日本の無償援助で建設され名がついた。

船は時速13kmのゆっくりした速度で進み、9時間後の午後3時に、ようやく

地中海側ポートサイドの街が見えてくる。パイロットを収容した船が戻ると、  
いよいよ地中海。船は、17ノットに速度を上げ、ギリシャのピレウスへ。  
今日はフォーマル。アラビアンナイトと称したテーマで、アラビア服の衣装  
の紳士淑女多数。食べたものは、エスカルゴ、ミネステローネ、ロブスター。  
13377歩





## 第4章 ヨーロッパから大西洋

4月8日(日) 第93日 終日航海

### 日本から郵便物が届いた

地中海に入り、ギリシャめざし航行。日の出は5時40分。5時半からウォーキング開始。今日はスカイデッキに珍客が。小鳥がデッキの周りを飛び回り、どうも紛れ込んで帰れなくなつた様子。また、リドデッキ後部では、牧師らしき人が数十人の前で話をしている。これはイースターと関係あるらしい。その後計量、シャワー・朝食。その後、映画とWebの整理と更新。

そして昼。ポークカツレットと魚フリッター、野菜。カツレットが温かくておいしかった。トンカツに近い味。

出港する前に、寄港地毎の郵便の送り先のリストをもらっていた。一昔前から、これが、有力な通信方法であつたのだが、今では、電子メールもあるし衛星電話もある(高いけれども)。そこで、この郵便という手段がどのようになれるかと、自宅から最近の新聞・週刊誌などを送ってもらつた。

朝霞溝沼郵便局12年3月12日の消印が押された、PRINTED MATTERのAIR

MAILである。送り先はアレクサンドリアのエジプト・ガルフエージェンシー会社気付け、MS Amsterdamの私宛である。アラビア語の3月18日付の消印と3月20日の消印が押されているので、たぶん18日にアレクサンドリアに着き、20日にサファアガに着いたのであろう。サファアガ寄港は4月4日だったが、4月5日にキャビンアテンダントが船室まで届けに来た。キャビン番号は船の誰かが書いたのだろう。ということ、結構早く届くものだ。

ただし、これは印刷物だったからよいのだが、小荷物は受け付けていない。物になると関税や保険その他いろいろな事情があるのかもしれない。送ってもらった新聞と週刊誌は、久しぶりに楽しめた。

さて今日は、イースター。といっても、キリストの復活をお祝いする日、春の訪れを祝う日、色つき玉子の日くらいしか知らないのだが、船内紙の見出しもHappy Easterだし、カードも来ていたし、いろいろ行事もあるようだ。朝6時から、8階のプール脇のデッキで、牧師らしき人が数十人を前に話をしてい、食堂もデコレーションがされている。ダイニングでは昼にEaster Brunchとかいう催しがあったようだし、夜は、Easter Bonnet Fashion Paradeとかいうのがあった。思い思いに帽子にデコレーションしたものの発表会。イースターというのはいさよならの事もするのか。

午後2時に時間調整で1時間進める。すると3時になり、すぐ夕方。

この船の日本人7人で夕食。カナレットレストランで楽しく2時間弱を過ごした。イタリア料理。

明日から、8日連続のヨーロッパ上陸。そして、旅の残りも20日となった。

10915歩

4月9日(月)第94日 ピレウス・アテネ上陸

## あのパルテノン神殿へ

6時すぎ起床。ウォーキングを始める。気温18度、だいぶ涼しい。

7時半、ピレウス港に接岸。さすがに観光で有名な港だけあって、多数のクルーズ船が停泊している。朝食後、上陸の支度をして、8時半出発。他のクルーズの乗船などと重なり、港は賑やかだ。

ピレウスのメトロの駅まで歩く。途中、この数日に必要なユーロ300€を手に入れる。15分ばかりメトロの駅がある。切符を買う。1.30€。駅はとてもきれい。

トイレはさほどでもない。車内はきれい。

20分少してアテネのモナステイラキ駅に着く。ここで1号線から3号線に乗りかえるのだが、乗り換えの方向表示がない。出口からいったんモナステイラキ広場に出て、広場を横断して、乗り場に行く。本当に地下でつながっていないのだろうか？3号線を反対側に乗ってしまったて戻り、シンタグマ駅で降りる。

地上に出るとそこがシンタグマ広場。アマリアス大通りを見つけ、南下。

左手に無名戦士の墓、国会議事堂、国立庭園を見ながら進むと、アドリアノス門とゼウス神殿が見えてくる。共通入場券を12€で購入。アドリアノス門は思ったより小さいが、ゼウス神殿の巨大なこと。ほんの一部しか残っていないが、壮大な建物である。アクロポリスの丘に向かう。土産屋が並んでいる。

新アクロポリス博物館は月曜で休館らしい。ディオニソス劇場に着く。大きな野外劇場だ。1万人以上入るとか。二千年以上前にここで演劇が行われていたのか、と思うと、臨場感がある。さらに進んだ所にあるイロドアティコス音楽堂は、保存状態がよい大きなホールである。

さらに登ってブルーレの門、プロピレアを通り、丘の上があのパルテノン神殿。手前側は、クレーンがあり修復工事中。展望台側に行くと、柱の列が美しい。黄金比、エンタシス、これが均整のとれた美の殿堂ということで、教科書を始めいろいろな本に書かれた神殿か。大理石の柱がスーッと立ち上がり美しい。破風の彫刻は今、大英博物館にある。ここからアテネの街が一望できる。海まで見える。二千年前にはどのように見えていたのだろうか？隣にあるのがエレクテイオン。少女像により支えられた柱廊が美しい。大理石というと、日本では特殊な石だが、この丘自体が大理石で作られ、足下は滑りやすい。

丘を北側に下り、郵便を出し、ローマンアゴラに下りる。途中、アタロスの

柱廊博物館は開いており、この地での発掘物を見られるとともに、建物自体が巨大なものである。また、ヘファイストス神殿は、建物が全部残っており、神殿はこういう建物であったのかということを見て取れる。

そこまで下りると、1時。カフェで昼食。ギリシャのアルファビールとナポリタン。ギリシャ料理は何を食べてよいかわからないのでこの選択。

その後、モナステイラキ広場に出て、シントグマ広場まで歩く。途中、雨が降り出す。国立歴史博物館今日は月曜日で休みのようだ。きれいなビルの上階にあるイヴイスイスターネットカフェ。1時間で3€。Webのアップデートとメールのチェック。3時過ぎたので、船に戻る事にして地下鉄駅へ。

立派な地下鉄駅であるが、トイレがないのである。ポリスがいたので、聞いたら、案内すると言いつつ地上に出てあちらと指さした。これには驚いた。

帰りも30分弱でピレウスに到着。なお、この地下鉄は、切符は自分で刻印器で時間を刻印し持っている必要があるとか。抜き打ちの検札があるそうで、切符がないと多額の罰金だそうだ。

ピレウスに着くと、嵐。強い風とともに雨が吹きつけ、大変な天気だ。嵐の中を15分傘をさして船まで戻った。免税店でギリシャワイン2本購入。1本は

使った通貨

44.45 €

4月10日(火) 第95日 ピレウス・アテネ上陸 第2日

## 考古学博物館の収蔵品はすごい！

今日はピレウス停泊。今日は、昨日やり残しの博物館回り。

6時半に起き、7時に朝食。余り早く行っても開いてないから、少しゆっくりする。8時少し前に船を出て、メトロ駅まで歩く。

メトロの駅。切符を自動販売機で買う。わかってしまうと何でもないが、ボタンの選択肢は、1.4と0.7と4.0と14.0の4つしかない。1.4が大人片道(乗り換え含め1時間半有効)、0.7が子供片道、4.0が24時間、14.0が10回分。どれかを押して、コインを入れていくと、金額が減っていく、0になったとき切符が出るという単純なもの。1、2、3の順で買えと書いてある。買った切符を刻印器で時刻を刻印し、電車に乗るだけ。電車中はきれいだが外は落書きだらけ。せつかくのきれいな駅や車両なのに、もったいない・・・。

20分少いで、今日は、オモニアで下りる。国立考古学博物館(National Archaeological Museum)は10分ほど歩いたところ。9時少し前に着く。行ってみると、なんと月曜日でも時間は少し短いが開いていたのだ。始まりは朝8時からと早い。ゆっくりしなくてもよかった。入場料は7€。静かな雰囲気の中で見

て回る。彫刻・土器・金属器・貴金属おびただし数の收藏品である。有名なゼウスの像や女神たちの像、様々な様式で描かれた、形と大きさの異なる壺、金の細工などが、64の展示室に置かれている。2時間余り見てから出る。

歩いて、次へ行く。国立歴史博物館 (National Historical Museum) はシンタグマの近くにある。国立図書館・アテネ大学・アカデミーとすばらしい建物を見ながら南へ下る。国立歴史博物館は、パレスの跡だとかで、インテリアは華やかである。ビザンチン帝国時代から、レパントの海戦、トルコからの独立戦争、バルカン戦争、第二次大戦と歴史が綴られ、最後に、民俗衣装の展示。

次は、アテネ市博物館を探すが、見つからず、イリウ・メラトロン (Iliu Melahoron 「トロイの家: Trojan Mansion」) の貨幣博物館 (Numismatic Museum) に行く。ここは、トロイ遺跡を発掘したシュリーマンが暮らしたところ。館内は驚くべき数の貨幣。50万個以上あるとのこと。内装も美しい。

ここを出てから、シンタグマ広場に向かうと、ちょうど、無名戦士の墓の衛兵交代の時間であった。観光客が数十人見ている。

その先が国立庭園 (National Garden)。庭園の中は、広々として気持ちがいいが、すでに昼を過ぎて、昼食の時間。シンタグマ広場の先にある日本料理「風林火山」に行く。なかなか立派な店構えで、客は数人。本物の日本食の店である。大根サラダとカツカレー、ビールを注文。地元の人も日本料理を楽しんで

いる。デザートと、急須に入った煎茶まで出てきて、とても満足。

広場に引き返す。広場では宝くじ売りや、輪になったパンの屋台がいる。

2時を過ぎたので、ピレウスに戻る。4時過ぎに乗船。

5時から、4度目の避難訓練。一ヶ月に一度が、インターナショナルらしい。5時半から夕食。ギリシアの日とかで、スープとメインはギリシア料理。ムサカとかいう挽肉料理。船は食事中に出港した。食事の後、記録整理。

使った通貨 58 €

25236歩

4月11日（水）第96日 カタコロン・オリンピア上陸

### オリンピア遺跡見物とキャプテンズデイナー

6時半起床。今日はオリンピアまで行く日。帰船が3時半と早いので、忙しい。とくに、カタコロンからオリンピアまでの鉄道がどうなっているのか、調べた限りでよくわからない状態。

朝食後上陸準備。8時に船を出て、鉄道駅に向かって街を通り過ぎていく。歩いてみると、犬を連れて散歩中の婦人が声をかけてきて、行き過ぎだと判明。親切にも、一緒に行くから、と。親戚に日本人と結婚した人がいるらしい。

少し戻り、観覧車のある公園のところが駅。線路と駅舎らしき建物がある。



時刻表は貼られていない。少し待っていると、なんと4両編成のきれいな車両がやってきた。車掌とおぼしき男がパンフレットを配り、往復10€だという。時刻表は？と聞くと、先のパンフレットに、12:00、13:08、14:00と書き、これがオリンパス発の時刻だと教えてくれた。結局、時刻表全体は不明。

9時になると出発。全線単線。所々に、停車場がある。20分ほどでピルゴス。そして少し遅れて51分でオリンピアの駅に着く。駅は広く気持ちのよい建物だが、閉まっている。ここからメインストリートまですぐ。そこを登ってゆくと、古代オリンピック博物館。左に行くと、10分くらい遺跡の入口に着く。遺跡と博物館の共通券を9€で買う。

オリンピア遺跡は、丘を下った一带にある。パンフレットによると23のモニュメントからなる。神殿、競技場や宿泊・生活場所、などで、神殿では、特に真ん中にあるのがゼウス神殿。かつてここには、大きな神殿と、その中に巨大なゼウス像があり、古代の世界七不思議の一つに数えられた。ヘラ神殿や祭壇跡などがあるが、一部は柱が再現されているが、刻まれた石があるだけ。

競技場では格闘技場パレストラや練習場ギムナシオンそして、アーチをくぐって競技場スタディオン。トラックは長さ212.54m 幅28.50m。両側が観覧席。ちょうど、木にピンクの花が咲き、地面には、デージーや桜草、タンポポの花が咲いており、春たけなわの気持ちのよい散歩であった。途中、万歩計を落

としたことに気がつき、記憶を辿り5分ほど戻り発見！ゼウスの神のおかげ？  
1時間半ほどでオリンピック博物館へ移動。発掘された彫刻や陶器などが展示されており、真ん中の第5室には先に述べたゼウス神殿の破風があり、神殿の大きさを想像することができる。4室には、ゼウスとガニメデ、また、6室には、躍動感にあふれた勝利の女神ニケの像がある。金属器もすばらしく、鹿とライオンなどは、今にも動き出しそうな気がする。このカフェで、パンを食べ、昼食。駅に向かう。少し遅れてきた1時8分の列車で、カタコロンに戻る。

カタコロンは小さな街だが、大きなクルーズ船が3隻も停泊し、土産物屋が並ぶメイン通りは賑やか。ここで古代技術博物館、古代楽器博物館に入る。通りでワインなどを求め、3時過ぎに船に戻る。

さて、今日は、キャプテンズ・ディナーとやらに招待されており、行ってみた。まず、ラウンジで食前酒から。そして、レストランに進み、ディナーとなるのであるが、行ってみての感想。

1、疲れた。2、どのテーブルでも、まるで沈黙を恐れるがごとく。いつも誰かがしゃべっている。従って、小さな部屋は、騒音の嵐。3、お土産が出た。食べたものは前菜のキャビアとかフォアグラ、鮭・ヒラメ、牛肉・羊肉。ワインとシャンパンはフリー。9時半に終わって、ほっと一息。

明日はイタリア大陸。記録整理の途中で、寝てしまう。

使った通貨 53.37 €

17198 歩

4月12日(木) 第97日 メッシーナ(イタリア) 上陸

## 落ち着いた街メッシーナ

7時に起床。船は、イオニア海からメッシーナ海峡に入り、左舷にシシリア島のエトナ火山(3323m)が雪をかぶった姿でそびえている。メッシーナ入港は、少し早く9時過ぎ。接岸し、上陸は10時には可能に。船から街を見ると、斜面に家が建ち並んでいる。反対側は、メッシーナ港の先にメッシーナ海峡がありその向こうはイタリア本土。港のマドンナの像が目立つ。上陸までのあいだに、昨日の記録整理と港のスケッチ。10時半に上陸。街の真ん中の岸壁に接岸したので、移動は楽だ。目の前が市庁舎。

海岸線を南に、本土との渡し船の着く海港駅(Stazione Marittima)に行く。海港駅の隣がイタリア鉄道中央駅(Stazione Centrale)ここからシチリア島各地へ鉄道が延びている。駅の隣にインフォメーションがあり、地図と州立博物館(Museo Regionale di Messina)の行き方・開館時間を聞いた。昼休みが長いので(1:30~4:00)時間を考え行かなければならない。

町の北にある博物館に行く。ガリバルデイ通りを北に行く。ネプチューンの

噴水を過ぎ、進んでいくと、博物館は海沿いのリベルタ通りにある。

博物館は、入場料3€、ここの博物館は、12世紀から18世紀までの作品を収蔵して、主には16〜18世紀。お目当てのカラバッジョの作品は17世紀だから、9〜11室にあることがわかる。小さな博物館ではあるが、よくできている。

かくして、12時に着き、小一時間見て回り、トラムの停留所へ。ちようど目の前がピザ屋。腹も減ったので、ピザとビールで昼食。トラムで駅まで帰る。

昼休みに入ったのか、街は静かな落ち着いたたずまい。町並みも美しい。ドウオーモ、時計塔、オリオンの噴水と広場は街の中心。時計塔に登る(3€)。

その後展望台のカリスト教会、山のマドンナ教会から景色を見るが、とてもいい景色だ。街と海峡とその向こうのイタリア本土。

山を下ると、ガレリア。美しい建物だが、今は何に使っているのだろうか。

4時頃船に戻り、PCを持って引き返し、インターネットに接続するため、WiFiとあるピザ屋に入る。ビール1.5€、WiFi 2€。1時間ほどで船に戻る。

今夜8時過ぎ出港し、明日はナポリ。こちらは大きな街で、見るものも一杯。

使った通貨 16.7 €

24485 歩

4月13日(金) 第98日 ナポリ・ポンペイ上陸

## 広大なポンペイの遺跡を歩く

今日は、ナポリ上陸の日。

6時半起床。船は港に近づいている。今日は、市内見物という予定にしていた。が、そびえるベスピアス山を見て、急に気持ちが悪くなった。ポンペイに行くことにした。イタリアの町は他にもあるけれど、ポンペイはここしかない！ということ、全く準備していなかったが、鉄道で行ける、くらいなことはわかったので、行動開始。あいにく、天気は小雨が降ったりやんだり。

8時半下船。マリツチマ駅はきれいな建物である。目の前がヌオーヴォ城。トレド通りにぶつかってから右にどんどん進む。やがて地下鉄のダンテ駅。1号線の始発駅。一日切符3.6€を買い、次のムゼオ駅で乗り換え、2号線でガリバルデイへ。ここがイタリア国鉄(F.S.)のナポリ中央駅。

チルクスヴェスヴィオス鉄道(Circumvesuviana)でソレント行きに乗る。40分ほどで、Pompei Scavi 駅(ポンペイ遺跡駅)。駅を出て少し歩くと、入場券売り場。11€。地図とガイドブックをもらい入場。

広い！とにかく広い。当たり前だ。一つの街が全部飲み込まれてしまったのだから。大きな競技場や神殿の跡をみても、相当な規模の街だったことがわかる。区画は整然と整備され、各戸に番号が振られており、所有者名が書かれた家もある。家の間取りも再現されローマ時代の市民の生活ぶりを彷彿とさせる。

公共施設として、神殿、劇場、共同浴場、競技場などがあり、いずれも、ローマの土木技術をもって作られた美しい建物である。すごい、と考えながら、約2時間、遺跡を歩き回った。

1 時少し前に駅に戻り、電車が1時7分。売店でパンを買って昼食。2時前にナポリに戻る。

2 時間ほど時間があるので、メトロでムゼオ駅に行き、国立考古学博物館 (Museo Archeologico Nazionale) に行く。ここでは見るものが多数あり、1時間で駆け足で回った。大理石彫刻、エジプトコレクション、ポンペイ出土のモザイク画と様々あり、時間をかけた所だが、4時半の乗船なので、仕方がない。地下鉄で、ダンテまで行き、港まで歩く。スーパードでワイン購入。イタリワインだが、特売品で安い！ D・O・Cの赤ワインが2.9€だ。2本買った。

4 時過ぎに船に戻る。余りにお腹が減ったので、ホットドッグを食べる。その後部屋で休憩と記録整理。夕食は、前菜、スープ、ステーキ、パスタ添え。

使った通貨 34.6 €

27934 歩

4月14日 (土) 第99日 アジャツシオ (コルシカ島) 上陸

青い海、赤い屋根、花の咲くコルシカ

今日は、コルシカ島のアジャツシオ (Ajaccio)。

ナポリを出た船は、ティレニア海を横断し、ボニフォシオ海峡を抜け、コルシカ島 (フランス語ではコルスだが、コルシカでいきます) の西岸にある街アジャツシオ (アジャクシオ) に到達したのが8時。接岸が9時。

6時半過ぎに起床、朝食、上陸準備。予定では、テンダーボートのはずが、接岸している。ラツキーだ。テンダーだと30分以上余計に時間がかかる。

船から見るアジャツシオの町は、青い海と家々の屋根の赤瓦、淡い暖色系の色合いの壁がとても美しい。大急ぎでスケッチ。11時の予定が早まり、10時過ぎに上陸。ここは、フランスだ。同じヨーロッパでもイタリアやスペインと違ってフランス語は少しわかるので、何となく安心感がある。街を歩いても、書かれていることがわかるし、簡単な会話もできるしで、ずいぶん気持ちが違う。

岩下さん母娘と一緒にいる。まず「ナポレオンの家」(Maison Bonaparte) に向かう。広場では、テントが出て、市が行われている。ボナパルトの家に着いたが、まだ開館していない。待っている間に郵便局に行き切手を購入。

ボナパルトの家に戻り、入る。音声ガイド付きで6€。3階から、下りてくるようになっていいる。当時のものではなく、後に手を入れたのが今の家だ。が、当時の雰囲気は伝わってくる。街の南側のシタデル (要塞) に行く。今は軍が使っており、外から見るのみ。向こう側の青い海と浜がきれいである。

街のメインストリート・ナポレオン通りに沿って北上。途中、絵葉書と名物のコルシカナイフ（19.8€）を購入。国鉄駅まで歩く。20分くらい。楡形ホームの終着駅。街の中心に向かって戻る途中、レストランで、プラデジュール（今日のおすすめ料理・牛肉とマカロニトマト味12€）とビール。

その後、フェッシエ博物館（Musée Fesch）に入る。昔の宮殿で、ナポレオン関係の資料と16〜18世紀の絵画を多数収蔵している。ボツチチェリもある。

船に戻り、PCを持って来て、ビストロに入りWi-Fiにアクセスし、Webの更新とメールのチェック、調べ物を少し。繁華街のフェッシエ通りを散歩。桜に似た花が咲き春の趣である。昼頃にわか雨、午後は晴れて気持ちのよい天気。

4時半頃船に戻る。隣に、コスタの大きなクルーズ船が着岸し、3隻が停泊していることになり港は賑やかだ。5時半に乗船完了。6時過ぎ、出港。

明後日を下船する岩下さんたち、SIZUEさんたちと、日本人5人で会食。

使った通貨 62.17€

2449歩

4月15日（日）第100日 バルセロナ上陸 第1日

## ピカソとガウディのバルセロナ

今日はバルセロナ上陸の日。



昨夜から北西の強い風とともに海は少し荒れ気味。これがミストラルという風だろうか。7時半少し前に起床。到着予定が12時なので、半日はゆっくり。入港後、船の向こうにバルセロナ、サグラダファミリア教会が見えている。

朝食後、Webのアップ。節約してきたので、一〇〇〇分のうち三〇〇分余り残っている。上陸地バルセロナの資料を読む。今日は、街を歩くことにする。11時半少し早い昼食。12時に上陸。コロンブス広場まで、シャツルバスが出ている。5分ほどでコロンブス広場。広場には、とても高い塔の上にコロンブスが手を海に向かって広げている。

まずフランサ駅まで歩き、シタウデリヤ公園に入る。広い公園で、家族連れや若者が楽しんでいる。楽しい雰囲気だ。踊っているグループもある。さて、地球の歩き方の地図には、ここに近代美術館があることになっているが、行ってみると、カタルーニヤの議会の建物。なくなっただけ。

次に向かったのがピカソ美術館。こちらは、町中の建物の中にあつた。入場料11€。バルセロナで過ごした時期が長かっただけあって、作品の数は多い。特に、若き頃の作品がたくさんあり、こういう絵を描いていたのか、と感心する。手のデッサンなどはすぐうまい。時代が移り、青の時代、桃色の時代の作品もあり、あの画風の作品になっていく。陶芸などもたくさん残っている。ここを出て、カテドラル・カタルーニヤ音楽堂を通り、ガウディのカサカル

べを見に行く。これは建物の正面から見のみ。

カタルーニャ広場に出て、ランブラス通りを歩く。お目当てのサン・ジュセップ市場は今日は休み。リセウ劇場前を通りグエル邸 (Palau Guell) に行く。ここは前回行き残したところ。入場料10€で日本語音声ガイド付き。このガイドは、時々画像情報を表示して解説の参考にする『新型』ガイド機。ガウディの才能のすごさに改めて目を見張る。金属・石・木など材料を駆使し、新しい形を作り出し、なおかつ機能的に優れた建物だ。ミュージアムショップで、スプーン (6€) を買ったなら、立派なフェルトの袋までついてきた。

観光客で賑やかなランブラス通りをそのまま歩くと、今日のスタート地点のコロンブス広場。ポルトベイというショッピングモールを覗いて、バスで船に戻ると6時。夕食は、前菜 (蟹、パテ)、スープ、ビーフストロガノフ。

旅はついに100日目となった。あと12日。早いものだ。

今日使った通貨 30.5 €

23743 歩

4月16日 (月) 第101日 バルセロナ上陸 第2日

モンセラットでプチ山歩き

今日はバルセロナ2日目。

バルセロナから60 kmほど離れたモンセラット (Montserrat) に行く。このモンセラットは、昨年マンチェスターに留学した時、バルセロナ出身の留学生と知り合い、バルセロナから1時間くらいの所に山がありとてもいいところと教えてもらった。彼女の名Montserratもこの山にちなみつけられたとのこと。

7時半過ぎに船を出て、コロンブス広場の地下鉄駅ドラタナスまで歩く。8時過ぎに着いて、地下鉄(メトロ)3号線(L3)でエスパニーヤ広場へ(2€)。鉄道駅に行くと、モンセラットに行く切符の案内所があり、列車とラック鉄道とケーブルカーがセットになった券を25.25€で購入した。電車は、次は9時38分。モンセラット着は11時4分と書かれている。40分以上待つが仕方がない。

プラットホームに乗客はどんどん増えて、席がなくなり1時間立っていくことになってしまった。乗車位置も整列乗車もないこの国の鉄道の習慣だ。さすがに1時間はつらかった。ヨーロッパで観光地に行く列車で立たされたのは、記憶にない。どこでもゆとりを持って車両編成しているのに・・・。

アエリ駅で半分くらい降りたのは、ロープウェイで行く人たちだ。もちろん標高750mのモンセラットまで歩けば、3時間位で着くので歩く人もいる。

乗換駅からは、ラック軌道を電車で、急斜面を登っていく。20分程で、モンセラットに着く。目の前には頂が丸く削られた岩、その間に作られた岩の建物が見える。バジリカに行くが、12時までは入場できないと書かれていた。建物

自体は、とても大きなものである。これに彫刻などで飾りが付けられている。11:40発のサンホアンに行くケーブルカーに乗る。これはすごい急傾斜を登っていく。教会のあるところは標高750m。上のサンホアン駅は970mである。

駅から、道が延びていて、サンホアン (Sant Joan) 15分、サンタマグダレーナ (Santa Magdalena) 30分となっている。はじめ、自動車が通れる道。サンオノフレを過ぎると、細いトラバス道になり、階段になり、山道になる。

サンタマグダレーナの展望台があるはずだが途中のピークに登り、景色を楽しんだ。30分くらい歩いて標高は1150mだから180mくらい登ったことになる。

久しぶりの「高山」である。そこで引き返し、ケーブルカーの駅へ。1時間少しの「山行」であった。高山植物らしき花もいくつか見かけた。

ケーブルカーで下り、バジリカに行くが、聖歌隊の合唱があるとかで超満員。外から祭壇を見て、登山電車の駅に向かう。1時20分に出発。がら空きだ。途中、遠くに雪をかぶったピレネー山脈が見え、深い谷に向かって電車はどんどん下っていく。乗換駅には何も店はない。5分で、自販機でクラッカーを買って昼食代わり。電車に乗り換え、1時間余でエスパニーヤ駅。時刻は3時。

タルーニャ美術館に行く。建物は昔の王宮だとかで、大変威厳のある建物。行ったが、月曜で休み。残念。公園は花や緑の葉で、春たけなわである。

次のサンジョセップ市場はとても賑やか。木の実や果物、ジュースを売る店

はカラフルだ。肉屋やチーズ屋、魚屋もある。まさに、市民の台所だ。酒屋でワインを購入。2009年ものの赤ワインが、特売で4.9€。ランブラス通りを南にコロンブス広場。そこから船まで15分くらい歩き、5時に帰船。久しぶりに、5時半からメインダイニングで夕食。前菜、スープ、エビのフリッター。8時から、ラウンジで、4人のダンサーが踊るフラメンコを楽しんだ。100日を越え、あと2回の上陸でこの旅は終わりになる。終わりが見えてきた。今日使った通貨 40.5€

26273歩

4月17日(火) 第102日 終日航海

## 東半球から西半球へ

今日は、地中海をひたすら西へ。6時に起きたが、6時半に歩き始める。上陸が8日も続いたため、久々のウォーキング。天気は上々。

三日月が残っている。船が何隻か航行している。ここに水平線から太陽が昇ってくるのであるが、その美しさといったら何と表現したらよいのだろうか。

船はスペイン沖を航行している。昼前にグリニッジを通る経度0度の子午線を通過。東半球から西半球へ入った。前に東半球に入ったのは、日付変更線を通過した2月20日だったから、約2ヶ月かけ東半球を回ったことになる。

昼過ぎから、雪をかぶった山々が見えた。フィラブレス山脈・シエラネバダ山脈などの三千m級の山々が海岸近くにある。4月だからまだ雪が残っている。午前中、Webの更新とメールのチェック。そして、明日の上陸地カデイスの資料を読む。ついに資料も、次のマディラ島だけになり、あと数枚になった。昼食は、ミートパイと野菜サラダ。午後は、映画、読書。にのんびりした。夕食は、前菜、スープ、牛肉リブステーキ。いつもであるが、この牛肉は、カットが大きい。今夜、ジブラルタル海峡を越えて、大西洋へ。

12536歩

4月18日(水) 第103日 カデイス(スペイン) 上陸

## ヨーロッパの果て、大西洋の港町カデイス

今日はスペインの大西洋側の港町カデイスに上陸する。7時前起床。朝食を済ませ、手早くスケッチ。船から見ると、カデイスは『塔の町』。

8時過ぎに船を下りる。民族衣装を着た二人がお出迎え。停泊地は町の真ん中で市庁舎の前。市庁舎の隣が、カテドラル。そこから海に行くともローマの劇場遺跡がある。この町は、古くはフェニキア人の植民地、そしてローマ帝国に組み入れられ、その後イスラム、そして独立したスペインへと変遷してきた。そのローマ帝国時代の劇場の跡である。門のみ残っている。

繁華街を通って行く。花の広場には文字通り花屋がたくさん。向かいの黄色の潇洒な建物は郵便局。内装もしゃれている。石畳の細い道を歩いて行く。

そこからすぐ先がタビラの塔である。この塔は1778年に建てられたこの町で一番高い塔。屋上に上ると、海に囲まれたカデイスの町が一望できる。名物のカメラオブスキュラは潜望鏡と暗箱を繋いだような外界の景色を見る装置。

少し戻り、市場をぶらぶら。魚屋がたくさんある。他にも肉屋、八百屋、果物屋などが建物の中のブロックで営業している。

町の先端のシタデル（要塞）まで行く。ここから先は大西洋。向こうはアメリカだ。建物は、写真や絵などの展示場として使われている。

町に戻り、絵はがきを買い、昼食。市場の隣のレストランに入る。海産物が名物とかで、おすすめめの魚の料理とビールを頼んだら、焼いた魚が出てきた。

その後、カデイス美術館へ行く。ここは、考古学展示と美術展示の2本立てである。日本語のパンフレットが置かれていた。建物は元の修道院とかで、ゆったり作られている。考古学展示では、フェニキアの植民地時代のもの、ローマ時代のものが主なものである。美術は16〜18世紀の宗教画がたくさんある。次はサンフェリペネリ礼拝堂。隣の博物館はなぜか無料。宗教画や物以外に、カデイスの昔の地図や町の模型などがある。

市場に出て、セラミック屋で小さな時計皿を一つ買う。持って帰ることを考

えると大きな物が買えない。きれいな皿がたくさんあったのに。

カテドラルに戻って入場（5€）これは、博物館と共通。とても大きな建物で、中は広々とした空間である。裏に回ったところにある博物館は、絵の他に、宝物館とっていいような、きらきら光る儀式用の品々を展示している。

海沿いの道を進み、カデイスの城門（Puerto de Tierra）まで来る。大砲が町の入口をにらんでいる。半島の町カデイスを外敵から守るためにつくられたのだろう。リトグラフ博物館へ行く。入場無料で展示室には石版印刷していた頃の道具や機械、そして石版が置かれているが、その精巧さに驚いた。

スペイン国鉄 *renfe* のカデイス駅は、旧駅舎を残したまま、新しい駅舎になっている。新幹線 AVE の車両が止まっている。そうか、鉄道を使えば、今日は乗船が10時と遅いので、ゆっくりセビリヤに行つてこられたのだ！と気がつくも後の祭り。2時間弱で行くことができるし、本数も1時間に1本ある。

6時に船に戻る。夕食は、スペイン祭りとかで、スペイン料理などが出ている。パエリヤはいまいちだったが、セラノハムやら海産物を食べた。というこ

使った通貨

72.46  
€

26250 歩



4月19日（木） 第104日 終日航海

## 大西洋初日は、大きなうねり

朝から風が強く、うねりもある。Beaufort（ビューフォート）とは、海上での風の強さの指標で、0から12までのいずれかの数値で表すのだが、朝のうちは6であった。デッキに行くドアは閉ざされていた。

インドアで1時間歩く。揺れて結構歩みにくい。船がこれだけ揺れたのは、チリ沖の太平洋での1日だけだった。終えて、食堂に行くと、人はばらばら。

その後、Webの更新とメールチェックのあと、読書をしていたら、猛烈に眠くなり、少し早いシエスタ。昼食時も、食堂に客は少ない。

午後は、ラウンジで読書。揺れる椅子で、久しぶりに3時間ほど読書を楽しんだ。午後には、少しうねりも小さくなり、デッキも開放されたが、揺れは続き、風は強く人は少ない。デッキチェアは、動かないようにヒモで結ばれていた。夕方には、ヒモを外していたので、もうこれ以上は揺れないと言うことだ。

ところで、アテネでカディスの船会社の自分宛に郵便物を送ったのが、昨日届いた。この郵便は、アテネからスペインの国際郵便局に送られ、カディスへ、そして船会社を経て、自分の部屋に届いたものである。

フロントオフィスからパスポートが返還された。中をあけると、寄港した国のスタンプがベタベタと押されている。ビザも多数。もう必要なシーンがない

と言うことで、旅もいよいよ終わりだ。

明日は最後の上陸地・マデイラ島フンシャルに行く。

12600歩

4月20日（金） 第105日 フンシャル（マデイラ島）上陸

## マデイラ島は花の島

カデイスを出て1日半の航海で、大西洋に浮かぶ島マデイラ島のフンシャルに到着する。ここがこの航海最後の寄港地。6時前に目を覚ます。朝7時頃に、港に着く。まだ真つ暗。町の灯りは一杯に広がり、なかなかいい景色だ。朝食後、大急ぎでスケッチ。上陸の支度。8時半に船を下りる。

シャトルバスが待っている。5分ほどで町の真ん中の要塞の前。

とりあえずモンテに登るロープウェイに行く。石を埋め込んだ歩道が美しい町だ。30分近い待ち時間に、近くのラヴラドールレス市場に行く。ここはすごい。魚市場の部分では、魚屋が何軒も店を出している。マグロ・鯖・ウツボ・黒太刀魚・貝といろいろ並んでいる。八百屋果物屋のブロックは色とりどりの野菜果物が並んでいる。お土産屋もあり、絵はがき3枚と切手を購入。

ロープウェイの乗り場に戻り、往復切符15€を購入し、乗り込む。窓からの景色は、フンシャルの町が海岸から次第に山に向かって開けてきた様子がよく

わかる。白い漆喰と赤い屋根瓦のコントラストが美しい。15分で標高550mのモンテ。教会まで歩き、景色を眺める。さらに上に、かなり急な坂を、バスの始発駅（標高715m）まで行き引き返す。途中、花がたくさん咲いており、大きな木の桜の花もあった。春たけなわの風情である。次にジャルダンインペラドルに行く。ここは、イギリス人の別荘だったところのようで、入園料6€。余り客は来ていないので静か。ここでもツツジの花を見た。

この名物は、トボガンという、ソリの付いたバスケットで坂を下る乗り物だ。観光用のアトラクションで、操縦する男たちが客を待っている。

ロープウェイで下り、町に。メインストリートを通ってアリアガ通りへ。カテドラルのあたりで賑やかな催し物が行われている。フラワーフェスティバルとかで、花の展示や道添いに生花のディスプレイがあり、また、テントが出ていたり、音楽があったり、踊りがあったりで、楽しい雰囲気。並木のジャカランダが紫色の花を付け、ここが亜熱帯であることがわかる。公園には、花が咲き乱れている、といった感じで、「花の島マデイラ」を感じさせる一日だった。

途中のレストランで、ビールとラパス（カサ貝のグリル）で一休み。マデイラ刺繍を買おうと、店を教えてもらい、行ってみたが、昼休み。市場の近くで、他の刺繍の店を見つけて入り、2枚購入。ナプキンくらいの大きさで1枚100€。しかし、全部ハンドメイドの物だから、こんなものだ。今回の旅行で最も高額

のお土産。

サンフランシスコ酒造に行くが見学ツアーは残念だが間に合わない。マディラワインを購入。この店の店構えは、古い修道院とかで、歴史を感じさせる。要塞前で、シャトルバスに乗り、船に帰る。3時過ぎている。レストランでピザをつまみ、シャワー。

夕食はメインダイニングで。前菜、スープ、貝柱グリル。ちようど船が出港。これから7日間は海で、次の陸地がアメリカ大陸。いよいよ旅も大詰めだ。

使った通貨 46.25 €

クレジットカードで支払い 202 €

27121歩

4月21日(土) 第106日 終日航海

## 下船モードへ

6時起床、うねりは収まっている。6時半から歩き始める。日の出は6時50分。天気は曇。高積雲が空を覆っているが所々に青空も。歩き終えて、ジムで計量、食堂でジュース。

あと一週間の航海で、最終目的地フォートローダーデール。それまでにやることを整理しておかなければ。とりあえず、Webの整理。初期の頃、書式もいろ

いっただったので、もう一度読み返し、整理をする必要がある。午前中、この仕事と、5階ラウンジで読書。

昼食時、SIZUE 姉妹とゴージャスに過ごさせていた。鶏の唐揚げがおいしかった。インドネシアデーとかで、ウェイターさんたちがインドネシアの衣装バチックを着て給仕をしていた。バチックは非常に細かな模様の美しい布で作られたシャツである。午後は Web の整理続き。

いよいよ、下船に備えて、いろいろなことが動きだしている。話題もこのことになり始めているし、ラゲッジシッピングサービスという、梱包資材の販売や手伝いをするサービス窓口も設けられた。

夕食は、カナレットレストランで日本人5人で会食。シーフードパスタをいただく。7時半から10時まで話が弾む。

かくして、淡々と人生60回目の誕生日は終わった。時は、刻々と、容赦なく、過ぎていく。

13774 歩

4月22日(日) 第107日 終日航海

## セレブレーション・ナイト

波浪も収まって、大西洋をアメリカ大陸に向かって進む第3日。

時計は1時間バツク。6時に目を覚ます。6時半歩き始める。日の出は6時50分過ぎ。1時間歩き、計量、ジュース。これまでのWebページのチェックと更新。昼までかかって、この50日分のチェック。昼食に出て行くと、今日は、日曜日。日曜朝市 (Sunday Morning Market) が開かれている。

昼食をはさみ、今度はアップ。あと200分少し残っているの、使い果たさねば・・・。それにしてもよくケケケチと使ったものだ。Webのアップやメールのチェックだけでなく、インターネットで調べ物もできる。午後は、読書。

今日は、4時15分からクイーンズラウンジでマリナーズソサエティのプレディナーカクテルパーティーに招待されており、4時過ぎに支度。会場では、飲み物がふるまわれ、やがて、長時間の乗船者の表彰。700日超という人もいるようだ。世界一周旅行を6回もした人。次々と呼び出され、船長とともに写真撮影し、・・・ということまで1時間たってしまった。

夕食は、フオーマルで、今日のテーマは、「セレブレレーション・ナイト」。「お祝いの夜」。メインダイニングに行くと、ポストバスデーということでは、ブライアン・ヴェラ夫妻から誕生日のシャンパン。マックスからもプレゼント。たしか、1月はじめに、誕生日の話をしただけに・・・。ありがたかったです、食事。終わりには、ケーキまで運ばれてきて、クルーの合唱、昨日のような『淡々とした』日ではなくなりました。それでも、感謝。

食事を終え、部屋に戻る。日没は8時過ぎ。24日に日本人の夕食会との連絡を受ける。部屋には、会社からの『ギフト』。世界地図と航路を描いた絵皿で、ありがたいのだが、持って帰ることを考えると・・・。昼間、ギフトの総量を測ると、10.5kg。(クリスタルグラスを除く) それにこれでは、帰りの荷物の枠が2個46kgしかないのに・・・。

11947歩

4月23日(月) 第108日 終日航海

## ウィルス発見

昨夜も1時間バック。6時起床、6時10分歩き始める。日の出は6時8分。歩いていると、この船の同型船、ロッテルダムとすれ違う。この広い大西洋でのすれ違いとは！資料によると、ロッテルダムは、南太平洋からパナマ運河を通り、ヨーロッパに向かっている。

朝食の後、PCで作業。インターネットの残り時間が、20分以上もあるので、毎日30分ずつ使える勘定。余らせるのはもったいない。そこで、今日は、インターネットでお仕事。仕事の後任者から問い合わせがあり、必要なソフトを転送したが、たった13MBのファイルを送るのに、延々と時間がかかる。やはり遅い。が、もう6日間のつきあいだ。そのほか、いくつ調べ物。そこで、USBメ

メモリを使ったのだが、ふと、見たことのないファイルに気がつき、ウイルスチェックをしてみると、感染！このメモリはいろいろなインターネットカフェで使ったので、起こりうることだが、やはり！という結果。PC本体の方は、幸いにも汚染されていなかったが、危ないところだった。

昼食は、SUSHI。焼きホタテや蟹など、種類が増えていて、よくなっている。その後、読書。そして、荷物を片付け始めなくては、と、購入したお土産を出してみる。帰りのことを考えて、買うのをコントロールしてきたが、それでも結構な量になる。本当に23 kgの荷物二つに収まるのだろうか。

そんなことをしていたら、夕食。今日は、でっかい牛肉のステーキを食べた。日本に帰るとなかなか食べないから、いいだろう。

11604歩

4月24日（火） 第109日 終日航海

## ウォーキングのコースとグッズ

船はひたすら西へ、アメリカ大陸へ。

朝6時に起床、6時10分からウォーキング。日の出は6時20分。きれいな日の出が見られた。

朝食後、メールチェックとインターネットで調べ物。残り120分。久しぶりに、



ゆったりとネットワーク上の仕事をしている。

それから読書。今日は、岩波文庫シュリーマン「古代への情熱」。トロイ遺跡の発掘で有名な人で、この本の第1章がすごい。生い立ちから言語習得、財産作りまでの話。貧しい生い立ちで14才から働き始めるのだが、その中で、いろいろな言語を身につけていく。ドイツ語は母国語だが、オランダ語、フランス語、英語、スウェーデン語、ロシア語、アラビア語、ラテン語、古代ギリシヤ語、現代ギリシヤ語と次々にマスターし、それを使えるのだ。方法もユニークだ。実業家として十分な財産を築くと、さっさと整理し、遺跡発掘の人生へ転身。44歳の時。それ以降は、発掘の話になるのだが、昔この本を読んだ時には、こういうことは記憶にない。発掘の話も、アテネやオリンポスの遺跡を見た後だけに、話がリアルに感じる。

昼食は、モンゴリアンアウトクック。ヤキソバを食べた。その後、天気もよく、デッキチェアで読書の続き。4時から、映画。

今日は、毎日のウォーキングコースを辿ってみる。

まず、部屋はデッキ3の<sup>3359</sup>。ドアに目印の折り紙を貼っている。ここを出て、プロムナードデッキへ。ここは1周約450mの木のデッキ。1周約5分。2周してから、前部の階段に移動。

階段はデッキ1からデッキ9までは室内。170段ある。デッキ9まで登ると、

外のスポーツデッキに出る。ここから階段を上りデッキ10のスカイデッキ。船首を回り、デッキ9に降り、木のデッキを進む。網の中にあるバスケットボールコートの中を過ぎ、船尾に出て、8階にある展望プールを見ながら船尾を回る。網の中のテニスコートの手前で、船内に入り後部階段を降りる。

8階は食堂。7・6階は居室（ベランダ付き）。5階と4階は、メインダイニングの入り口。3階2階1階は居室で、デッキ1まで降り、廊下を前部階段まで歩き、前部階段を9階まで上る。というように、登り↓後部へ↓下り↓前部へと1回りで10分。これを4回まわり、3階のプロムナードデッキに出て、2周するとちょうど1時間。だいたい700歩、登る階段700段

8階まで登り、ジムに行き体重計で計測。そして食堂で、ジュースで水分補給。約1時間15分のウォーキングのコースである。

持つて行く物（ウォーキンググッズ）は、シューズ、ナップサック、手帳（ペン）、帽子（クリップ紐付き）、カメラ、iPod、ルームカード。

夕食は、リドで。前菜・スープ・鶏肉のカツレツ。

12749歩

4月25日（水） 第110日 終日航海

ついに訪れることになったメデイカルセンタ

6時に起き、6時10分からウォーキング。日の出は7時10分で、はじめの30分は真っ暗。日が昇るのが見えた。太陽が見え始めてから、全部姿を見せるまでの時間は1分間なのだが、この1分間のドラマに立ち会えるのが、なかなか難しい。雲の中にあったり、太陽が見える場所にいなかったり、気づいたときは終わってしまったていたりして、見られないのだ。今日は、雲が多少あるが、この『1分間のドラマ』に立ち会うことができた。水平線にあるので、揺らぎの影響で、丸く見えない太陽が昇ってくる。

朝食の後、インターネットで調べ物。その後、一部荷物整理。おみやげは買ってないつもりでも、結構な量になる。特に、船からのギフトが大変だ。バッグ1個分、6kg以上ある（前書いた10kgは誤り、単位がポンドだった。紛らわしい）。荷物が23kg×2に収まるのだろうか？

片付けついでに、持ち物表に手を入れる。片付けをしていたら、缶ビールが出てきた。いろいろな国のビール。片付けてしまわねば。

昼食後読書。シュリーマンの「古代への情熱」を読んだ。この前アテネで訪ねた、『考古博物館』のミケネ室にあった物は、シュリーマンが発掘した物だったのか！見たときには気がつかなかった。

ドアを閉めるとき、ふとしたことから、手のひらを切ってしまった。深くはないが、右手で出血が止まらないため、メディカルセンターのお世話になってし

まった。これまで何事もなく縁のないところだったが、最後の最後にこんなことに。とても親切に、ときばきとアメリカ流の処置をして下さった。洗剤で手を洗う。ゼリーを塗り圧迫、バンドエイド。テープで30分圧迫。傷は単なる切り傷でこんなにしてもらって、恐縮している。最後まで何があるかわからない。部屋に飾ってあったこけし人形3体はヴェラに進呈。とても喜んでもらえた。その後、ビデオを見る。

夕食は、SIZUE姉妹と、ゴムに住む若い日本人3世グレースとロシア人の夫デミトリと5人でイタリア料理。日本語と英語を交えながら、楽しくいたっていた。持参の折り紙の残りと本を差し上げ、喜ばれた。

12045歩

4月26日(木) 第111日 終日航海

### 最後のお祭り騒ぎ The Black & Gold Masked Ball

さて、いよいよ残り2日となった。アメリカ大陸・フロリダ半島めざして船はひたすら広い大西洋を走っている。

7時少し前に明るくなった。今日は雲が多く、日の出は見えず。朝食後、Webの整理とアップ、メールのチェック。残り時間が75分になった。

持参の地球儀に、今回の航海のルートを書き入れる。

昨日の傷は、大体ふさがったが、念のためバンドエイド。

掃除に来た、ルームアテンダントのベンとマルデイの写真を撮影。

今日は、10時45分から、8階のプールで、「海でのライフセービング」という実演。旅が終わる頃になってこんな企画があるのは、変なのだが、行ってみた。ライフジャケットでプールにはいる、とか、ウェットスーツも用意されて、実物を着用し、プールに。またライフラフト（救命筏）を実際に浮かべて、実演があった。転覆したときの起こし方もやっていた。さらに、小道具をみせながらの説明。興味深い企画ではあったのだが、それにしても、時期が変だ。

昼食は、SHIZUEさんたちと一緒に取った。UDONSUPというのがあったので、最後にSUSHIでも食べるかということにした。乗船直後は、まずいなくと思ったが、多少よくなっている。ネタも増えているし。

午後は、荷物片付けを少し。その後映画を見る。

今日は最後のフォーマルの日、テーマはブラックアンドゴールドとか。マスクを届けに来た。夕食時に、コック、ウェーターさんたちの行進。いよいよ最後の雰囲気。フオアグラのパテ、スープ、ロブスターを食べる。

部屋に戻ると、熊ちゃん人形デイベアが最後の『ギフト』。10時から最後のお祭り騒ぎThe Black & Gold Masked Ball。行ってみると、会場は騒然とした雰囲気。マスクをした正装の紳士淑女と話し声、音楽、ダンス…。早々に退散。

4月27日（金） 第112日 終日航海

### 航海最後の日 Champagne Disembarkation Presentation & Crew Farewell

午前2時に1時間バック。いよいよマイアミ時間にもどる。4ヶ月前に出港して、消えた一日を24日で分けた最後の1時間が調整された。

6時前に起き、歩き始める。日の出は6時40分、雲が厚く、残念だが日の出は見えない。計量、ジュースを終えシャワー。その後朝食。

荷物を作り始める。小さな鞆2つは終わっているから、トランク。着る物を順に入れていくが、結構ある。着なかつたスーツなど、うらめしい。一応収まったところで、重さを量る。全部で6kgくらい超過。

続いて、Webのアップとメールチェック。

10時から、ラウンジで、Champagne Disembarkation Presentation & Crew Farewell。

シャンパン付きの下船のお別れ会、といったところ。会場に行くとシャンペンが配られている。話に続いて、ビデオが上映され、さらに次々といろいろな部署のクルーが登場し舞台は一杯に。キャプテンの挨拶の後、歌を歌って終わり。

部屋に戻ると、最後のギフト。航行ルートを書いた陶板。オランダ製。「最後のギフトは、バックしやすいように」と書いてあるが、最後の最後まで・・・。

さらに明日の予定と荷物タグが配られる。下船は10時過ぎになる模様。

昼食に行くと、*Seafood Specialties* と銘打って、タラバガニ、ロブスター、牡蠣、シユリンプが出ている！最後だからだろう。堪能した。

午後に最後の荷物作り。重さを測りタグを付けて出した。明日は、いったん陸上で受け取り税関を通り、ホテルまで行くようだ。廊下には、次々と荷物が出されている。ほっと一息、それから、映画を見た。

夕食は、*Farewell dinar* とかで、リブステーキを食べたが、大きいこと。テーブルでシャンペンを1本開ける。ブライアン夫妻とマルコム夫妻にサインとアドレスをもらう。終わり頃、スピーチの後、ウェーターたちの合唱。

食後外に出ると、島が見えている。6日ぶりの陸地。コロンブスは西インド諸島に何日で行ったのだろうか。もうここは大西洋というより、フロリダ沖という感じ。いよいよフォートローダゲールに戻る。

1432歩

4月28日（土） 第113日 フォートローダゲール

## 下船 そして旅の終わり

朝6時起床。船はもう接岸していた。10時半にならないと降りられないので、今日もウォーキングをすることにする。曇り。途中からは、雨さえ降ってきた。

歩き終えてジムに行くと、閉まっていた。ジュースを飲みシャワー。

朝食に行くと、ヴェラたちがちょうど食べているところに行き、一緒に食べた。思わぬところで会った。昨日の夕食が終わりだと思ったのに・・・。

それから10時半まで、キャビンアテンダントのベンとマルディにチップを渡したり、デッキを歩いたり。タグの色と番号で順に呼び出しがされている。

10時半になり、呼び出されて船を下りる。預けた荷物がずらりと並んでいる部屋で、自分の荷物を探す。ようやく見つけた荷物を持って、税関係員にパスポートを見せて通過。出たところにシャトルバス。そのたった数十メートルを、全部の荷物を持って通る。持ち物のチェックなど何もしてないのに・・・。

外でホテル行きのシャトルバスに乗る。ようやく発車したのが11時半過ぎ。空港に寄り3カ所で客を降ろし、ヒルトンで客を降ろし、最後は一人でウインステインに着いたのが1時。慣れていけば、タクシーで来た方がよほどいい。

建物は13階建て、きれいな部屋だ。広い！船の船室の何倍あるだろうか。

チェックインの時に、ホランドアメリカの社員がいたが、荷物を置いてロビーに戻るという。実は、昨日もらった書類に、7:25マイアミ発の便に乗るのだが、ホテルの出発が3:30となっているのだ。ホテルからマイアミ空港へは、1時間で行けるのに、あまりに早すぎる。

まわりは、クリークと林で、鳥もいる。ここから5分ほど歩くとサイプロス



クリークの店が固まってある。レストランもセブンイレブンもある。日本食の食堂があった。寿司と天ぷらがうまかった。日本酒も久しぶり。  
さて、3時半に出発するには、早く寝なければ。明日はどうせ飛行機で寝ているだけだが。

22748 歩



## 終章 旅を終わるに当たって

4月29日(日) 第114日 フォートローダゲール↓マイアミ↓シカゴ↓東京

### 帰国

3時起床。シャワーを浴びて手早く支度。コーヒーを飲む時間はあつた。

3:25ロビーに降りると、トランスファアを待つ夫婦1組。外は雨。5分遅れてエアポートシャトルという名のバンが来た。フォートローダゲール空港で夫婦を下ろし、マイアミ空港へ。4:30マイアミ空港へ。道路横のカウンターで、チケットとパスポートを見せろという。チェックイン手続き。54ポンドで、4ポンド超過といわれ、書類を手荷物に移す。それでも少し越えていたが、なんとOK。トランクは、ヘビィラゲッジシール。機内持ち込みはリュックと鞆の2個。結構こちらも重いのだが、何とかクリアして一安心。シカゴでのピックアップも必要ないとのこと。

セキュリティを通過。結構厳しい。荷物のうち、ギフトでもらった地球儀が不審を抱いたらしく、箱から取り出してチェック。ホランドアメリカも困ったものをくれたものだ。ようやく通過。

ここで5時半。2時間もある。ミートパイで腹ごしらえ。映画を見ていると、

時間はあつという間に過ぎた。AA415 に搭乗。3 時間半でシカゴ。

ここで2 時間。今回のチケットでは、ラウンジが使えるというので行ってみた。いなり寿司のお弁当、ドリンク券2 枚、Wi-Fi、そして何よりも、米国版の『国際版朝日新聞』と『日経新聞』。腹ごしらえをし、ワインとビールを飲みながら、メールチェックと新聞。あつという間に時間になった。

JL 9 便に搭乗。12 時間余のフライトで日本。映画を4 本見た。成田に30 日午後2 時。正月明けに寒い日本を出てきたが、降り立った日本は春たけなわ。

電車で帰ったが、車窓には、花と明るい太陽が見えた。武蔵野線に新しい駅が開業していたのには驚いた。そんなにも長い時間の留守だったのだ。

家に着くと、12 月に球根を植えたチューリップが咲き、枯れていた木々が柔らかな緑の葉を出していた。緑が鮮やかだった。

### この旅を終わるにあたって

この旅を終わるにあたって、一言。四ヶ月の不在中いろいろな方々にご迷惑をおかけし、またお世話になりました。感謝いたします。特に旅の準備をしていただいた、オーバードーズトラベルの三尾奈緒子さんに感謝いたします。もちろん、こんなことを、「黙認」してくれた家族にも。

世界一周の航海に行こうと、夢のようなことを考えていたのは、子供の頃か

らでした。小学校の頃、外国航路の船乗りの叔父がおり、一年おきとか二年おきに帰ってきて、珍しい品とともに話を聞かせてもらった思い出があります。

そのことと、小学校高学年で世界地図を見、中学で地理の勉強をしたことにより、地球の上がどうなっているかということを知り、そのうち、船で世界一周を、と、夢のようなことを考えていました。が、職に就いてしまうと、そんなことは実現するはずもなく、退職するまでの数十年間心の奥に、埋み火のようであったのです。で、退職が日程に登ったとき、このことを思い出しました。

ちょうど、地デジ化に伴い、テレビで『豪華客船の旅』などという番組が流され、こんな風になっているのだ、と映像で見せられました。が、欧米の大金持ちの世界の話で、現実の話とは思えません。が、行くなら、日本の船ではなく、外国での生活をするのだから外国船で、と無謀なことも考えました。

今年の三月だったと思いますが、半信半疑で、船旅を扱っているいくつかの旅行代理店に、メールを出しました。全く初めてのことで、何もわからないので資料を欲しい、一人で、外国船で世界一周航海に行きたいのだが、と。その頃は、どこから出港するのか、どんな生活をするのか、いくらかかるのか、何千万なのか何億なのか、全く知識がありませんでした。

いくつかの会社から、立派なパンフレットがどっさり送られてきたのですが、ただ一つだけ、料金表、というのが入っていたのが、三尾さんからいただいた

返事でした。このように料金が設定されるといふ仕組みとともに、具体的な金額も知りました。

これを見て、話は一挙に現実には近づきました。これくらいのお金で行けるのか、これなら払えるな、と。同時に、こういう配慮ができる人なら、旅のトラブルにうまく対応してくれるに違いないと思ひ、会社を一度おたずねして、ごく初歩的なことを伺ひ、これなら行けるかもしれないという気になりました。

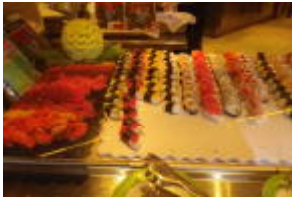
ただ、問題は、言葉。僕の英語は、本を読むための英語で、コンバーセイションができません。四ヶ月も一人で生活できるのか、心配でした。そこで、二ヶ月間語学学校に留学することにして、そこで生活できたら行こう、と渋谷にあるEFという学校を訪ねました。この年で、語学学校に留学などが可能なのか、半信半疑で。そこでお世話になったのが、EFの高木絵美さんでした。背中を押してもらったような気がして、八月九月マンチェスターにホームステイで学校に行くことにしました。こちらにも全く初めてのことなので、何が必要なのか、一から教えていただきました。マンチェスターでは、いろいろありながらも「最年長学生」として二ヶ月過ごせました。

9月末にマンチェスターから帰国後、この旅に行くことにして、三尾さんと何度もやりとりしながら、具体的な準備を始めました。あつという間に10月12月が過ぎ、1月の正月明けに、飛行機に乗ることになったわけです。

この年になって、全く知らない世界で何ヶ月も過ごすというのは、本人は平気な顔をしているようでも、後押ししてくれる人がいたおかげなのです。旅はとてもおもしろく、これまで考えていた以上の収穫がありました。このなかでも、いろいろな方々のお世話になりました。日々感じたこと、学んだことは本文を見ていただくことにして、旅を終えた現在、残りの人生の栄養剤をもらったような気がしています。

二〇一三・四・二七

旅の最終日の大西洋上にて



大航海 Grand Voyage  
米客船 M.S.アムステルダムでの  
世界一周航海

二〇一三年六月三十日

著者・発行者

浦川明彦

越谷市登戸町三六・一八

電話 〇四八(九八五)八五三五

[urakawa@post.officenet.ne.jp](mailto:urakawa@post.officenet.ne.jp)

ISBN978-4-9907197-0-8



ISBN978-4-9907197-0-8

